

IBM

@server

iSeries

パフォーマンス・データ・ファイル

バージョン 5 リリース 3







@server

iSeries

パフォーマンス・データ・ファイル

バージョン 5 リリース 3

**ご注意!**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、147 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries  
Performance data files  
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

# 目次

パフォーマンス・データ・ファイル . . . . .	1
時間間隔データを含むパフォーマンス・データ・ファイル . . . . .	1
パフォーマンス・データ・ファイル: 構成データベース・ファイルのフィールドのデータ . . . . .	5
パフォーマンス・データベース・ファイル: トレース・データベース・ファイルのフィールド・データ . . . . .	5
パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係 . . . . .	6
パフォーマンス・データ・ファイル: ファイルの略語 . . . . .	8
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCONF . . . . .	8
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDWR . . . . .	13
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMAPPN . . . . .	13
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMASYN . . . . .	24
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBSC . . . . .	24
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBUS . . . . .	26
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCIOP . . . . .	27
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDDI . . . . .	29
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDIOP . . . . .	31
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDISK . . . . .	34
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDOMINO . . . . .	40
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDPS . . . . .	43
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMECL . . . . .	45
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMETH . . . . .	48
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMFRLY . . . . .	51
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDL . . . . .	53
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPB . . . . .	54
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPD . . . . .	54
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIDLC . . . . .	55
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIOPD . . . . .	57
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBMI . . . . .	60
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBOS . . . . .	65
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBS および QAPMJOBL . . . . .	70
パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー . . . . .	78

パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWT . . . . .	81
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWTD . . . . .	82
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJSUM . . . . .	83
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLAPD . . . . .	85
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLIOP . . . . .	88
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLPAR . . . . .	89
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMMIOP . . . . .	90
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOL および QAPMPOOLL . . . . .	93
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLB . . . . .	95
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLT . . . . .	96
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPPP . . . . .	98
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRESP . . . . .	99
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRWS . . . . .	100
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSAP . . . . .	101
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNA . . . . .	101
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNADS . . . . .	109
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTND . . . . .	110
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNE . . . . .	112
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNL . . . . .	113
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNY . . . . .	114
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYS および QAPMSYSL . . . . .	115
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSCPU . . . . .	134
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSTEM . . . . .	135
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCP . . . . .	141
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCPIFC . . . . .	142
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMUSRTNS . . . . .	143
パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMX25 . . . . .	145

付録. 特記事項 . . . . .	147
商標 . . . . .	149
資料に関するご使用条件 . . . . .	149



---

## パフォーマンス・データ・ファイル

パフォーマンス・データとは、応答時間およびスループットを理解するために使用できるシステム（システムのネットワーク）の操作に関する一連の情報です。パフォーマンス・データを使用することにより、プログラム、システム属性、および操作に調整を加えることができます。これらの調整を行うことにより応答時間とスループットを向上させることができます。また調整は、システム、操作、またはプログラムへの特定の変更の影響を予測する上で役立ちます。

収集サービスは、管理収集オブジェクト (\*MGTCOL) にパフォーマンス・データを収集します。パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドは、その収集オブジェクトからデータを処理し、パフォーマンス・データベース・ファイルに結果を保管します。データベース・ファイルは、以下のカテゴリーに分けられます。

### 時間間隔データを含むパフォーマンス・データ・ファイル

これらのファイルには、それぞれの間隔を収集されるパフォーマンス・データが含まれています。これらのファイルのリストについては、『『時間間隔データを含むパフォーマンス・データ・ファイル』』を参照してください。そこには、各ファイルに関する要旨および完全な情報へのリンクも含まれています。これらのファイル内のデータがどこから収集されるかを理解するには、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。これらのファイルを表示するときに、8 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: ファイルの略語』が役立つことにお気づきになることでしょう。

### 構成データ・ファイル

構成データは、セッションごとに一度収集されます。これらのファイル内のデータがどこから収集されるかを理解するには、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。5 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 構成データベース・ファイルのフィールドのデータ』内に QAPMCONF、QAPMHDWR、および QAPMSBSD ファイルを見つけることができます。

### トレース・データ・ファイル

トレース・データは、データのトレースを選択する場合に限り収集されます。5 ページの『パフォーマンス・データベース・ファイル: トレース・データベース・ファイルのフィールド・データ』内に QAPMDMPT を見つけることができます。

バイト数およびバッファ位置などの追加のフィールド情報は、システム上で使用可能なファイル・フィールド記述の表示 (DSPFFD) コマンドを使用すれば、利用可能になります。たとえば、コマンド行で以下のコマンドを入力します。

```
DSPFFD file(QSYS/QAPMCONF)
```

iSeries<sup>TM</sup> のパフォーマンスについての詳細は、『パフォーマンス』を参照してください。

---

## 時間間隔データを含むパフォーマンス・データ・ファイル

パフォーマンス・データ・ファイルに関する完全な情報を表示するには、以下のリストから表示したいファイルを選択します（アルファベット順で示されています）。

ファイル	説明
13 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMAPPN』	APPN データ
24 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMASYN』	非同期統計 (リンクにつき 1 つ)
24 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBSC』	2 進データ同期統計 (リンクにつき 1 つ)
26 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBUS』	バス・カウンター (バスにつき 1 つ)
27 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCIOP』	通信 IOP データ (IOP につき 1 つ)
29 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDDI』	Distributed Digital Interface (DDI) データ
31 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDIOP』	ストレージ・デバイス IOP データ (IOP につき 1 つ)
34 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDISK』	ディスク装置データ (読取/書込ヘッドにつき 1 つ)
40 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDOMINO』	ドミノ (iSeries 版) (Domino <sup>(TM)</sup> for iSeries <sup>(TM)</sup> ) データ (ドミノ・サーバーにつき 1 つのレコード)
43 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDPS』	データ・ポート・サービス
45 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMECL』	トークンリング・ファイル項目 (リンクにつき 1 つ)
48 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMETH』	イーサネット統計 (リンクにつき 1 つ)
51 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMFRLY』	フレーム・リレー・データ (リンクにつき 1 つ)
53 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDLC』	HDLC 統計 (リンクにつき 1 つ)
54 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPB』	IBM <sup>(R)</sup> HTTP server (powered by Apache) の基本データ (サーバーにつき 1 つ)



ファイル	説明
54 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPD』	IBM HTTP server (powered by Apache) の詳細データ (サーバー構成要素につき 1 つ)
55 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIDLC』	統合サービスのデジタル・ネットワークのデータ・リンク制御ファイル項目
57 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIOPD』	拡張 IOP データ  (ネットワーク・サーバーおよび仮想入出力データ) 
60 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBMI』	MI ジョブ・データ (ジョブ、タスク、またはスレッドにつき 1 つのレコード)。この文書を使用するときに、78 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー』に関する情報が役立ちます。
65 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBOS』	ジョブ・オペレーティング・システム・データ (ジョブにつき 1 つのレコード)
70 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBS および QAPMJOBL』	ジョブ・データ (ジョブ、タスク、またはスレッドにつき 1 つのレコード)
81 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWT』	ジョブ、タスク、およびスレッド待ち条件
82 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWTD』	ファイル QAPMJOBWT にあるカウンター設定の説明。
83 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJSUM』	ジョブ・グループごとのジョブの要約データ (ジョブ・グループにつき 1 つのレコード)
85 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLAPD』	統合サービス・デジタル・ネットワークの LAPD ファイル項目 (リンクにつき 1 つ)
88 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLIOP』	平衡型ワークステーション制御装置データ (物理制御装置につき 1 つ)
 89 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLPAR』	論理区画 (論理区画ごとに 1 つのレコード) 
90 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMMIOP』	多機能 IOP (IOP につき 1 つ)
93 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOL および QAPMPOOLL』	主記憶装置データ (システム記憶域プールにつき 1 つ)
95 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLB』	記憶域プール・データ (リンクにつき 1 つ)

ファイル	説明
96 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLT』	記憶域プールの調整データ (リンクにつき 1 つ)
98 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPPP』	Point-to-Point Protocol データ (リンクにつき 1 つ)
99 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRESP』	ローカル・ワークステーションの応答時間 (ワークステーションにつき 1 つ)
100 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRWS』	リモート・ワークステーションの応答時間
101 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSAP』	TRLAN、イーサネット、DDI、およびフレーム・リレー SAP ファイル項目
101 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNA』	SNA データ
109 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNADS』	SNADS データ (SNADS ジョブにつき 1 つ)
110 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTND』	DDI 端末データ
112 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNE』	イーサネット端末ファイル項目
113 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNL』	トークンリング端末ファイル項目
114 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNY』	フレーム・リレー端末ファイル項目
115 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYS および QAPMSYSL』	システム・パフォーマンス・データ
134 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSCPU』	システム CPU の使用状況データ
135 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSTEM』	システム・レベルのパフォーマンス・データ
141 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCP』	TCP/IP データ

ファイル	説明
142 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCPIFC』	個々の TCP/IP インターフェースに関する TCP/IP データ
143 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMUSRTNS』	ユーザー定義トランザクション・データ (各ジョブは、トランザクションのタイプごとに 1 つのレコードを持つ)
145 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMX25』	X.25 統計 (リンクにつき 1 つ)

## パフォーマンス・データ・ファイル: 構成データベース・ファイルのフィールドのデータ

構成データは、セッションごとに一度収集されます。以下のパフォーマンス・データ・ファイルは、ファイル名、簡単な説明、およびシステム構成データ、サブシステム・データ、およびハードウェア構成データに関するフィールド・データの詳細 (提供される場合) への参照を示しています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明
8 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCONF』	システム構成データ。
13 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDWR』	システム・ハードウェア構成。
QAPMSBSD	サブシステム・データ。フィールドおよびバイト・データはありません。

このトピックの詳細については、『1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』』の概説をご覧ください。

## パフォーマンス・データベース・ファイル: トレース・データベース・ファイルのフィールド・データ

トレース・データには、システム内部のトレース・データが含まれます。これは、特定のジョブやトランザクションに関して付加的な情報を得るために収集される詳細データです。この種のデータは、Performance Tools ライセンス・プログラムを使用して分析を行わない限り、収集されることはありません。パフォーマンス・トレースの開始 (STRPFRTRC) コマンドの使用時にシステムがサポートしているのは、以下のパフォーマンス・データ・ファイルです。

ファイル名	説明
QAPMDMPT	システム・トレース・データ (フィールドやバイトに関する詳細は含まれません)。

このトピックの詳細については、『1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』』の概説をご覧ください。

## パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係

収集サービスを使用してパフォーマンス・データを収集する場合、そのデータは管理収集 (\*MGTCOL) オブジェクトに保管されます。CRTPFDRDTA コマンドは、管理収集オブジェクトからデータをエクスポートしてから、1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』にデータを書き込みます。収集サービスが別個に制御して収集するそれぞれのデータ・タイプは、データ・カテゴリと表現します。それぞれのデータ・カテゴリには、1 つまたは複数のパフォーマンス・データ・ファイルに書き込まれるデータを含んでいるかまたは提供します。作成されるデータベース・ファイルまたはメンバーの場合、ファイルまたはメンバーが依存しているカテゴリ (またはカテゴリのグループ) が存在しており、CRTPFDRDTA によって処理されなければなりません。下記の表は、カテゴリとファイルの関係を示しています。以下の 3 つのタイプの関係があります。



関係	説明
1 次ファイル	これらのファイルは、カテゴリと関連付けられ、カテゴリから生成されます。
互換性ファイル	これらのファイルは、パフォーマンス・データベース互換性を提供するための 1 次ファイルを、以前のファイル構造と結合する論理ファイルです。システムが、関係するすべてのファイル (1 次カテゴリ) を生成する場合、互換性ファイルも生成されます。
2 次ファイル	これらのファイルは、カテゴリまたは 1 次ファイル内に含まれているデータから派生した一部のデータと関連付けられており、それらを含んでいます。ただし、これらのファイルは、そのカテゴリによって制御されません。

ユーザーは、以下のことに注意する必要があります。

1. CRTPFDRDTA コマンドは、データベース・ファイルが、選択されたカテゴリ用の 1 次ファイルである場合にのみ、そのファイルを生成します。
2. 1 次ファイルが複数のカテゴリ用にリストされている場合、ファイルを生成するためにそれらの各カテゴリを選択する必要があります。
3. 1 つのカテゴリ用の 1 次ファイルが別のカテゴリ用の 2 次ファイルとしてリストされている場合、生成されたデータベース・ファイル内の情報を完全なものにするために 2 番目のカテゴリを選択する必要があります。たとえば、下記の表で示しているように、QAPMECL 用の完全なデータベース・ファイルを生成するには、\*CMNBASE と \*CMNSTN の両方を選択する必要があります。
4. 関連したすべての 1 次ファイルを生成する場合にのみ、システムは互換性ファイルを生成します。

下記の表では、システム・カテゴリとパフォーマンス・データベース・ファイルとの間の関係を示しています。

カテゴリ	1 次ファイル	互換性ファイル	2 次ファイル
*SYSBUS	QAPMBUS		
*POOL	QAPMPOOLB	QAPMPOOLL	
*POOLTUNE	QAPMPOOLT	QAPMPOOLL	
*HDWCFCG	QAPMHDWR		

*SUBSYSTEM	QAPMSBSD		
*SYSCPU	QAPMSYSCPU	QAPMSYSL	
*SYSLVL	QAPMSYSTEM	QAPMSYSL	
*JOBMI	QAPMJOBMI QAPMJOBWT QAPMJOBWTD QAPMJSUM	QAPMJOBL QAPMSYSL	QAPMSYSTEM
*JOBOS	QAPMJOBOS QAPMJSUM	QAPMJOBL QAPMSYSL	QAPMSYSTEM
*SNADS	QAPMSNADS		
*DISK	QAPMDISK		QAPMSYSTEM
*IOPBASE	 QAPMIOPD   QAPMLIOP QAPMDIOP QAPMCIOP QAPMMIOP		
*IPCS	QAPMIOPD QAPMTSK		
*CMNBASE	QAPMASYN QAPMBSC QAPMDDI QAPMECL QAPMETH QAPMFRLY QAPMHDLC QAPMIDLC QAPMLAPD QAPMPPP QAPMX25		
*CMNSTN	QAPMSTND QAPMSTNE QAPMSTNL QAPMSTNY なし		QAPMDDI QAPMETH QAPMECL QAPMFRLY QAPMX25
*CMNSAP	QAPMSAP		
*LCLRSP	QAPMRESP		
*APPN	QAPMAPPN		
*SNA	QAPMSNA		
*EACACHE	なし		QAPMDISK (注を参照)
*TCPBASE	QAPMTCP		
*TCPIFC	QAPMTCPIFC		
*DOMINO	QAPMDOMINO		
*HTTP	QAPMHTTPB QAPMHTTPD		

*USRTNS	QAPMUSRTNS		
▶▶ *DPS	QAPMDPS		
*LPAR	QAPMLPAR ◀◀		
注: このカテゴリは、CRTPFRDTA には選択可能ではありません。ただし、追加データが *DISK カテゴリによって報告されるようにします。			

## パフォーマンス・データ・ファイル: ファイルの略語

1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』は、フィールドおよびバイト・データ表内で略語を使用します。これらの略語には、以下のものが含まれます。

略語	説明
<b>1 次ファイル</b>	これらのファイルは、カテゴリと関連付けられ、カテゴリから生成されます。
<b>C</b>	属性列内の文字
▶▶ <b>H</b>	属性列内の 16 進数 ◀◀
<b>PD</b>	属性列内のパック 10 進数
<b>Z</b>	属性列内のゾーン 10 進数
<b>IOP</b>	入出力処理機構。ディスク、ディスプレイ装置、および通信回線など、ホスト・システムとその他の装置との間の活動を制御する処理機構。
<b>DCE</b>	データ回線終端装置。
<b>MAC</b>	中間アクセス制御。通信 IOP 内のエンティティ。
<b>LLC</b>	論理リンク制御。通信 IOP 内のエンティティ。
<b>ビーコン・フレーム</b>	リングが実行不能のときに送信されるフレーム。
<b>タイプ II フレーム</b>	システム・ネットワーク体系 (SNA) によって使用されるコネクション・オリエンテッドのフレーム (情報フレーム)。
<b>I フレーム</b>	情報フレーム。
▶▶ <b>B</b>	属性列内の 4 桁 (2 バイト) の DDS バイナリー・データ。 ◀◀

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCONF

このファイルには、収集に関する一般情報が含まれています。これには、収集オプションに関する情報、生成されたデータベース・ファイルの特性、およびデータが収集されたシステムに関する情報が含まれます。このファイルには、報告された項目ごとに 1 つのレコードが書き出されます (GKEY フィールドを参照)。このファイルはオプションではありません。このファイル内のデータは、すべてのデータベース・コレクションで生成されます。このデータは収集の開始時にのみ報告されます。収集の間、このファイル内のデータはほとんど変更されませんが、中には変更されているデータもあり得ます。変更は報告されません。

このトピックの詳細については、『1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』』の概説をご覧ください。

ファイル名	説明	属性
GRES	予約済み	C (4)

GKEY	GDES フィールドの中にどのようなデータが含まれているかを示す ID。下記の表の説明を参照してください。	C (2)
GDES	関連した GKEY 値のデータ。下記の表の値を参照してください。特に注記がない限り、システム値はすべて、データが収集された区画に関連しています。特に示されていない場合、このフィールド内のデータはすべて左寄せになります。	C (10)

#### GKEY

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

#### GDES

パフォーマンス・モニターまたはデータの開始日付。データは C (7) の値で報告され、(yyymmddc) の形式を取ります。

パフォーマンス・モニターまたはデータの開始時刻。時刻は C (6) の値で報告され、(hhmmss) の形式を取ります。4 文字の型式番号とそれに続く 4 文字のシステム・タイプ。

区画のメモリー (KB) (ゾーン (10,0))。

収集された通信データ。これは、通信ファイルが作成された場合にだけ Y に設定されます。

機械シリアル番号 (10 文字)。

最初の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。最初の応答時間モニター・ブラケットは 0 から最初の応答時間境界までです (最初の境界も含む)。

2 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。2 番目の応答時間モニター・ブラケットは最初の応答時間境界から 2 番目の応答時間境界までです (2 番目の境界も含む)。

3 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。3 番目の応答時間モニター・ブラケットは 2 番目の応答時間境界から 3 番目の応答時間境界までです (3 番目の境界も含む)。

4 番目の応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。4 番目の応答時間モニター・ブラケットは 3 番目の応答時間境界から 4 番目の応答時間境界までです (4 番目の境界も含む)。5 番目以降の応答時間境界は、5 番目の応答時間モニター・ブラケットの範囲に収まります。

システム ASP のキャパシティー (KB) (ゾーン (10,0))。データ用の記憶域としてシステム ASP に割り当てられた補助記憶域の合計バイト数。

(Y/N) 式のチェックサム保護。

区画に割り当てられた論理プロセッサの数 (PD (3,0))。

最初のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。最初の応答時間モニター・ブラケットは 0 から最初の応答時間境界までです (最初の境界も含む)。このデータは、パフォーマンス・モニターの開始 (STRPFRMON) コマンドで要求されたときにだけ表示されます。

2 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。2 番目の応答時間モニター・ブラケットは最初の応答時間境界から 2 番目の応答時間境界までです (2 番目の境界も含む)。このデータは、STRPFRMON コマンドで要求されたときにだけ表示されます。



## GKEY

16

17

AP

AT

CD

CI

CL

CN

DB

DL

▶▶ DM

## GDES

3 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。

3 番目の応答時間モニター・ブラケットは 2 番目の応答時間境界から 3 番目の応答時間境界までです (3 番目の境界も含む)。このデータは、STRPFRMON コマンドで要求されたときにだけ表示されます。

4 番目のリモート応答時間境界 (ミリ秒) (ゾーン (10,0))。

4 番目の応答時間モニター・ブラケットは 3 番目の応答時間境界から 4 番目の応答時間境界までです (4 番目の境界も含む)。5 番目以降の応答時間境界は、5 番目の応答時間モニター・ブラケットの範囲に収まります。このデータは、STRPFRMON コマンドで要求されたときにだけ表示されます。

マシン用に持続する永続 16-MB アドレス。このアドレスは、符号なし 8 バイトの 2 進値として報告されます。

マシン用に持続する一時 16-MB アドレス。このアドレスは、符号なし 8 バイトの 2 進値として報告されます。

コレクション・データ。このレコードは収集サービスでしか提供されません。指定される値は次のとおりです。

- 0 - この収集は、従来のパフォーマンス・モニターである \*SYS コレクションで作成されるファイルと一致する。
- 1 - コレクション・データは \*SYS ではない。収集で生成されるデータベース・ファイルは、従来のパフォーマンス・モニターのデータを基にするアプリケーション (Performance Tools 報告、PM iSeries<sup>TM</sup>) など) に対しては不十分である場合がある。

内部データ収集 (Y/N)。

コレクション・ライブラリー。管理収集オブジェクトが常駐するライブラリーの名前。

コレクション名。管理収集オブジェクトの名前。

データベースの整合性。このレコードは収集サービスでしか提供されません。指定される値は次のとおりです。

- 0 - データベース・ファイル内に、問題は検出されなかった。
- 1 - 選択された内部サイズか、収集間隔の矛盾のために、生成されたデータベース・ファイルには、欠落間隔や、従来のパフォーマンス・モニターのデータを基にするアプリケーションに対して問題を引き起こしかねない矛盾が含まれている可能性がある。

データベースの限度。全体のシステム CPU に対するパーセンテージを示す B (4,1) の値です。例として、125 は 12.5% を表します。

オンデマンド・メモリー情報。マシンに存在する GB 単位のオンデマンド・メモリーの合計量 (4 バイト・バイナリー)。それに続いて、依然として割り振り可能な GB 単位のオンデマンド・メモリー量 (4 バイト・バイナリー)。永続、一時的、または計量キャパシティー・アップグレードにより活動化されたメモリーは、使用可能とは見なされません。このレコードは、オンデマンド・メモリーを持つシステムでのみ表示されます。◀◀



**GKEY**

▶▶ DP

DT

ED

ET

F

FC

FI

FP

▶▶ HM

I

IL

IS

**GDES**

オンデマンド・プロセス情報。マシンに存在するオンデマンド・プロセッサの合計数 (2 バイト・バイナリー)。それに続いて、依然として割り振り可能なオンデマンド・プロセッサ数 (2 バイト・バイナリー)。永続、一時的、または計量キャパシティー・アップグレードにより活動化されたプロセッサは、使用可能とは見なされません。このレコードは、オンデマンド・プロセッサを持つシステムでのみ表示されます。▶▶

データベースの限界値。全体のシステム CPU に対するパーセンテージを示す B (4,1) の値です。例として、125 は 12.5% を表します。

終了日。収集の最後の間隔に関連付けられた日付。この日付は、左寄せ CHAR(7) フィールドとして報告されます。

「CYMMDD」というフォーマットで表示されます。

終了時刻。収集の最後の間隔に関連付けられた時刻。この時刻は、左寄せ CHAR(6) フィールドとして報告されます。「HHMMSS」というフォーマットで表示されます。

注: 以下は、活動状態の収集と非活動状態の収集両方の、「終了日」および「終了日付」フィールドの内容についての説明です。

- 非活動状態の収集の場合、日付と時刻は、管理収集オブジェクト内に存在する最後の間隔から取得されます。

- \*ACTIVE の収集の場合、日付と時刻は、CRTPFRDTA で処理された最後の間隔から取得されます。

ファイル・レベル (PD (2,0))。パフォーマンス・データベース・ファイルのレベルを指定します。このフィールドの値は 21 で、これは、パフォーマンス・データベース・ファイルの形式が変更されるたびに変化します。

プロセッサ機能コード (4 文字)。

対話型のフィーチャー (4 文字)。

プロセッサ機能 (4 文字)。

Hypervisor<sup>TM</sup> メモリー。これは、ハイパーバイザーによって使用される、メガバイト単位のメモリーの合計量です。物理マシン・メモリーで、区画のメモリー割り振りとは関連していません。メモリーの量は、区画および各区画の属性の数により決まります。値は、符号なしの 4 バイト・バイナリーとして報告されます。▶▶

間隔 (PD (2,0))。システム・パフォーマンス・データの各収集の間の時間間隔 (分)。

▶▶ 構成された処理装置のパーセントとしての対話式制限 (GKEY PU を参照)。値は、2 バイト・バイナリー B(4,1) 値、続いて 4 バイト・バイナリー B(5,2) 値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。たとえば、2 番目のフォーマットでは、値 1250 は 12.50% を表します。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。▶▶

間隔秒数 (PD (4,0))。このレコードは収集サービスでしか提供されません。システム・パフォーマンス・データの各収集の間の時間間隔 (秒)。

## GKEY

IT

OS

PC

PN

PP

PU

R

S

SJ

➤ SP

S1

S2

S3

T

## GDES

➤ 構成された処理装置のパーセントとしての対話式きい値 (GKEY PU を参照)。値は、2 バイト・バイナリー B(4,1) 値、続いて 4 バイト・バイナリー B(5,2) 値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。たとえば、2 番目のフォーマットでは、値 1250 は 12.50% を表します。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。◀

出力ファイル・システム (8 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。この値は、データベース・ファイルが生成されるシステムを示します。

区画カウント。➤ 値は、99 という上限を持つゾーン (2,0) 値、続いて符号なしの 4 バイト・バイナリー値という 2 つの異なるフォーマットで報告されます。より正確なデータを得るには、2 番目の値を使用します。◀ このレコードは、収集サービスによってのみ提供されます。

区画 ID (1 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。

基本区画 (1 文字)。このレコードは収集サービスでしか提供されません。

区画に割り振られた処理装置。この値は、4 バイトの 2 進 B (5,2) として報告されます。たとえば、175 は 1.75 の処理装置を意味します。

バージョン番号 (PD (2,0)) とリリース番号 (PD (3,1))。

システム名 (8 文字)。

ジョブ選択 (SLTJOB) パラメーター値 (10 文字)。この値は \*ALL か \*ACTIVE となります。このパラメーターは、パフォーマンス・モニターに当てはまりません。収集サービスは、SJ パラメーターは使用しません。

共用プロセッサ/プール属性。このレコードには、共用プロセッサ・プールに関連した区画属性が含まれます。最初の項目は、区画が共用プールを使用するかどうかを識別します。データの残りは、共用が影響するかどうかを設定します。

バイト 1: CHAR(1) - プロセッサ共用。

'0' = 区画は物理プロセッサを共用しません。

'1' = 区画は物理プロセッサを共用します。

バイト 2: CHAR(1) - 上限あり/上限なし

'0' = 区画には上限があります。

'1' = 区画には上限がありません。

◀

QPFRAJ システム値の値 (1 文字)。

QDYNPTYSCD システム値の値 (1 文字)。

QDYNPTYADJ システム値の値 (1 文字)。

トレース・タイプ (5 文字)。パフォーマンス・モニターの開始コマンドで開始された内部トレースのタイプを指定します (\*ALL または \*NONE)。収集サービスは常に \*NONE を報告します。

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDWR

このファイルは、ハードウェア・リソースの表示 (DSPHDWRSC) コマンドに生成される出力ファイルです。出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデル QARZALLF、およびこれに関連したレコード形式モデル QRZALL の形式と同様です。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

収集サービスが開始すると、これは、次のようなパラメーターで DSPHDWRSC コマンドを発行します。

```
DSPHDWRSC TYPE(*AHW) OUTPUT(*OUTFILE)
OUTFILE("performance_lib"/QAPMHDWR)
OUTMBR("performance_mbr" *REPLACE)
OUTFILFMT (*type2)
```

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMAPPN

この表では、拡張分散ネットワーク機能 (APPN) データ・ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
ANTGU	送信グループ (TG) の更新処理の合計数。	PD (11,0)
ATTGU	TG の更新処理の累積時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ANTGUM	1 つまたは複数の資源をトポロジー・データベース更新 (TDU) バッファに追加する必要のある TG 更新の数。	PD (11,0)
ANRATG	TG の更新処理のために、TDU バッファに追加された資源の数。	PD (11,0)
ANTSTG	TG の更新用のために初めて TDU バッファを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTTG	TG の更新処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANNCTC	処理されたノード輻輳変位の変更の数。	PD (11,0)
ATNCTC	輻輳変位の変更処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATRSNC	トポロジー経路指定サービス (TRS) が非負荷過剰状態に入った回数。	PD (11,0)
ATRSC	TRS が負荷過剰状態に入った回数。	PD (11,0)
ATNCS	システムが非負荷過剰状態に入っている累積経過時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ATCS	システムが負荷過剰状態に入っているときの累積経過時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
ATSCP	ノード輻輳処理のために初めて TDU バッファを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANTSCP	ノード輻輳処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANTDUP	このノードによって処理された受信済み TDU の数。	PD (11,0)
ATTDUP	受信済み TDU の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANNRTD	資源を TDU バッファに追加する原因となる TDU で受信された新規資源の数。	PD (11,0)
ANORTN	資源を TDU バッファに追加する必要のない TDU で受信された古い資源の数。	PD (11,0)
ANORTA	資源を TDU バッファに追加する必要のある TDU で受信された古い資源の数。	PD (11,0)
ANTSRT	受信済み TDU の処理のために初めて TDU バッファを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTST	受信済み TDU の処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ACNTID	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードのネットワーク ID。	C (8)
ACCPNM	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードの制御点 (CP) 名。	C (8)
ANTRFN	間隔内のほとんどの TDU を受信したノードによって、この間隔で受信された TDU の数。	PD (11,0)
ANITEP	このノードによって処理された初期トポロジー交換の合計数。	PD (11,0)
ATPIE	初期交換処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTECT	初期トポロジー交換によって、全ネットワーク・ノード・トポロジーが送信された回数。	PD (11,0)
ANTDE	トポロジー・データベース全体に入っている項目の合計数 (この値はデルタではありません)。	PD (11,0)
ANTERS	初期トポロジー交換のために、TDU バッファに追加された資源 (ノードと TG) の数。	PD (11,0)
ANTETS	初期トポロジー交換の結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANGCP	古いトポロジー項目が除去された回数。	PD (11,0)
ATGCP	古いトポロジー項目の除去にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTEDG	削除されたトポロジー項目の数。	PD (11,0)
ANTGC	古いトポロジー項目が除去されたときに送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTGC	古いトポロジー項目が除去されたときに TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANRRP	処理された登録要求の合計数。	PD (11,0)
ANNLRR	登録要求で処理されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATPRR	登録要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDRP	処理された削除要求の合計数。	PD (11,0)
ANLDDR	削除要求で処理されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATPDR	削除要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCNAP	処理されたネットワーク属性変更要求の合計数。	PD (11,0)
ATCNA	ネットワーク属性変更要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDDRC	ネットワーク属性変更要求の処理のために、ディレクトリー・データベースが削除され再作成された回数。	PD (11,0)
ANLRSC	ネットワーク属性変更要求の処理のために送信されたロケーション登録要求の数。	PD (11,0)
ANLDSC	ネットワーク属性変更要求の処理のために送信されたロケーション削除要求の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANTDRC	ネットワーク属性変更要求の処理のために、トポロジー・データベースが削除され再作成された回数。	PD (11,0)
ANCART	ネットワーク属性変更要求によって、ノード項目資源が TDU バッファに追加された回数。	PD (11,0)
ANTSTC	ネットワーク属性変更要求のために初めて TDU バッファを作成した結果として送信された TDU の数。	PD (11,0)
ANNTSC	ネットワーク属性変更要求の処理用に TDU が作成されたため、その TDU が送信されたネットワーク・ノードの数。	PD (11,0)
ANDAI	APPN 情報が表示された回数 (DSPAPPNINF コマンド)。	PD (11,0)
ANLLUP	処理されたローカル・ロケーション・リストの更新の合計数。	PD (11,0)
ATLLUP	ローカル・ロケーション・リストの更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLRSL	ローカル・ロケーション・リストの更新処理のために送信されたロケーション登録要求の数。	PD (11,0)
ANLDLL	ローカル・ロケーション・リストの更新処理のために送信されたロケーション削除要求の数。	PD (11,0)
ANRLUP	処理されたリモート・ロケーション・リスト更新の合計数。	PD (11,0)
ATRLUP	リモート・ロケーション・リストの更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANMDUP	APPN によって処理されたモード記述更新の合計数。	PD (11,0)
ATMDUP	モード記述更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCSUP	APPN によって処理されたサービス・クラス更新の合計数。	PD (11,0)
ATCSUT	TRS によるサービス・クラス (COS) の更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATCSUC	CPMGR タスクによる COS の更新処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCSSA	試行された回線争奪 CP-CP セッションのセットアップの数。	PD (11,0)
ANCSSS	成功した回線争奪 CP-CP セッションのセットアップの数。	PD (11,0)
ANRRS	送信された登録要求の合計数。	PD (11,0)
ANLRRR	登録要求で登録されたロケーションの合計数。	PD (11,0)
ATSR	登録要求の送信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSTC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、TRS に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ANSTCS	成功した回線争奪 CP セッションのセットアップのために、トポロジー経路指定サービス (TRS) に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ATSTCS	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、単一ホップ経路要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANARMC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、MSCP に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ANSARM	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、MSCP が正常に処理した経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARMC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、経路活動化要求にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANTDSC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、T2 SIOM に対して出された装置選択実行要求の数。	PD (11,0)
ATTDSC	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、装置選択処理が完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ANDSS	回線争奪 CP セッションのセットアップのために、成功した装置選択要求の数。	PD (11,0)
ATCCSA	回線争奪 CP セッションの活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLSAP	処理された回線争奪 CP セッションの活動化の数。	PD (11,0)
ANCST	回線争奪 CP-CP セッションの終了の数。	PD (11,0)
ATCST	回線争奪 CP-CP セッションの終了処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANLST	回線争奪 CP-CP セッションの終了の数。	PD (11,0)
ATLST	回線争奪 CP-CP セッションの終了処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANCWSA	現在活動状態の勝者 CP-CP セッションの数 (これはデルタではありません)。	PD (11,0)
ANCLSA	現在活動状態の敗者 CP-CP セッションの数 (これはデルタではありません)。	PD (11,0)
ANCDRR	処理されたデータ受信要求の数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCBDR	受信されたデータのバイト数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ATCDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCSDR	処理されたデータ送信要求の数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANCBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (CP 機能)。	PD (11,0)
ATCSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (CP 機能)。	PD (11,0)
ANTDRR	処理されたデータ受信要求の数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTBDR	受信されたデータのバイト数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ATTDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTSDR	処理されたデータ送信要求の数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANTBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ATTSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (トポロジー・データベースの更新)。	PD (11,0)
ANDDRR	処理されたデータ受信要求の数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDBDR	受信されたデータのバイト数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ATDDRR	データ受信要求の処理にかかった累積経過時間 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDSDR	処理されたデータ送信要求の数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANDBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ATDSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (ディレクトリー検索)。	PD (11,0)
ANRDRR	処理されたデータ受信要求の数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRBDR	受信されたデータのバイト数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ATRDRR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRSDR	処理されたデータ送信要求の数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ANRBDS	データ送信要求によって送信されたデータのバイト数 (登録/削除)。	PD (11,0)
ATRSDR	データ送信要求の処理にかかった累積経過時間 (登録/削除)。	PD (11,0)
ローカル・システムが開始したセッション		
ANWAPI	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPI	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS1	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ASSSA1	既存の APPN セッションの中で、成功したセッション・セットアップの試行数。	PD (11,0)
AASNA1	非 APPC 装置記述を使用することによって成功した APPC セッション要求の数。	PD (11,0)
ASPAC1	ディレクトリー、経路選択、および装置選択処理用の APPN ディレクトリー制御サービスを必要とする、セッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ASPSP1	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ASLNS1	ローカル・エンド・ノードがローカルに（つまり、そのネットワーク・ノード (NN) サーバーに検索を送信しないで）実行した検索の数。	PD (11,0)
AS1HS1	エンド・ノード (EN) が送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
A1HSS1	エンド・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ASSBN1	(エンド・ノードにサーバーへの CP-CP セッションがないために) 接続されているネットワーク・ノード・サーバーに直接 BIND を結合することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ASFNS1	ローカル・エンド・ノードに利用可能なネットワーク・サービスがなかったために失敗した検索の数。	PD (11,0)
ATILP1	エンド・ノードが開始した検索フェーズが完了するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSSL1	ローカルに実行された（トポロジー・データベースやディレクトリー・サービス (DS) データベースを使用し、CP セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって）検索の数。	PD (11,0)
ANIHS1	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS11	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS1	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS1	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR1	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE1	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB1	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB1	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD1	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB1	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE1	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS1	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS1	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB1	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS1	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR1	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・ユーザーに肯定応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATSPC1	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、すでにローカル・ユーザーに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANIHT1	トポロジー経路指定サービス (TRS) に対して出された単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ASIHT1	TRS に対して出され、成功した単一ホップ経路要求の数。	PD (11,0)
ATIHC1	単一ホップ経路要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANRRT1	TRS に対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT1	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRRT1	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM1	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV1	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV1	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR1	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP1	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ARDS1	T2 SIOM に対して出された、装置選択の実行要求の数。	PD (11,0)
ATDS1	装置選択処理が完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ADSS1	成功した装置選択要求の数。	PD (11,0)
エンド・ノードとしての検索要求の受信側		
ANWAP2	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP2	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS2	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
エンド・ノードのために検索要求を実行するネットワーク・ノード		
ANWAP3	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP3	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS3	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL3	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS3	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS13	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS3	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS3	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR3	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE3	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB3	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB3	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ATLRD3	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB3	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE3	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS3	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS3	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB3	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS3	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR3	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムで検索処理を開始したローカル・ユーザーまたはリモート・システムに応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC3	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・ユーザーまたはリモート・システムにすでに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT3	TRS に対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT3	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRRT3	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
有向検索要求での中間ノード		
ANWAP4	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP4	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS4	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
有向検索要求の宛先ノードとなるネットワーク・ノード		
ANWAP5	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP5	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS5	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL5	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS5	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS15	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDBE5	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB5	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB5	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD5	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB5	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
受信済みブロードキャスト検索要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP6	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP6	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATWAS6	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL6	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS6	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS16	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDBE6	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB6	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB6	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD6	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB6	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
iSeries <sup>(TM)</sup> 以外のネットワーク内のノードからの受信済み検索要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP7	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP7	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS7	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ANSSL7	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS7	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS17	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS7	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS7	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR7	有向検索の応答の使用にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE7	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB7	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB7	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD7	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB7	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE7	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS7	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRSB7	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB7	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS7	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR7	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムで検索処理を開始したりモート・システムに応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATSPC7	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したリモート・システムにすでに肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT7	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT7	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATTRT7	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
iSeries ネットワーク内のノードから経路指定情報なしで受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP8	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP8	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS8	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSP8	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ANSSL8	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS8	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS18	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS8	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS8	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR8	有向検索の応答の使用にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE8	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB8	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB8	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD8	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB8	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE8	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS8	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS8	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB8	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANSBS8	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR8	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムに結合処理の継続を許可する応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ATSPC8	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・システムにすでに結合処理の継続を許可する肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT8	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT8	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRRT8	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM8	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV8	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV8	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR8	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP8	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
iSeries 以外のネットワーク内のノードから経路指定情報なしで受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAP9	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAP9	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWAS9	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSP9	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、およびモードについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
ANSSL9	ローカルで (トポロジー・データベースを参照するか、ディレクトリー・サービス・データベースを使用して、制御点セッションをサポートしないエンド・ノードの項目を検出することによって) 実行された検索の数。	PD (11,0)
ANIHS9	ネットワーク・ノードが送信した単一ホップ検索要求の数。	PD (11,0)
ANSS19	ネットワーク・ノードが単一ホップ検索要求を送信することによって実行した検索の数。	PD (11,0)
ANDSS9	送信された有向検索の数。	PD (11,0)
ASSDS9	有向検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATDSR9	有向検索の応答の受信にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ANDBE9	実行されていたドメイン・ブロードキャストの数。	PD (11,0)
ANNDB9	それらのドメイン・ブロードキャストが送信されたノードの数。	PD (11,0)
ATRDB9	ドメイン・ブロードキャストで最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRD9	ドメイン・ブロードキャストで最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASSDB9	ドメイン・ブロードキャストを送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ANBSE9	実行されていたブロードキャスト検索の数。	PD (11,0)
ANNBS9	それらのブロードキャスト検索が送信された隣接ノードの数。	PD (11,0)
ATRBS9	ブロードキャスト検索で最初の肯定応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATLRB9	ブロードキャスト検索で最後の応答が戻されるのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ANSBS9	ブロードキャスト検索を送信することによって実行された検索の数。	PD (11,0)
ATSPR9	ローカル・ノードで検索処理を開始してから、ローカル・システムに結合処理の継続を許可する応答が返されるまでにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATSPC9	検索処理を開始してから、ローカル・ディレクトリー・サービス・タスクがすべての要求処理を完了するまでにかかった累積経過時間。この測定では、検索を開始したローカル・システムにすでに結合処理の継続を許可する肯定応答が返信されている場合でも、ドメイン・ブロードキャストやブロードキャスト検索応答の処理に要する時間が考慮に入れます。	PD (11,0)
ANRRT9	トポロジー経路指定サービス (TRS) サービスに対して出された経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ASRRT9	TRS に対して出され、成功した経路要求の要求の数。	PD (11,0)
ATRR9	経路要求の要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
AARRM9	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCV9	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCV9	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARR9	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARP9	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
iSeries ネットワーク内のノードから経路指定情報と共に受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAPA	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPA	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWASA	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSA	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、モードの 3 つについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
AARRMA	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCVA	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATRCVA	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARRA	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARPA	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
iSeries 以外のネットワーク内のノードから経路指定情報と共に受信した結合要求を処理するネットワーク・ノード		
ANWAPB	処理済みのこのタイプの作業活動の合計数。	PD (11,0)
ATWAPB	このタイプの作業活動を完了するのににかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ATWASB	このタイプの作業活動のうち、正常な結果を出した作業活動の合計数。	PD (11,0)
ASPSPB	同じローカル・ロケーション、リモート・ロケーション、モードの 3 つについて別のセッション・セットアップが進行中であるために、保留にされているセッション・セットアップ要求の数。	PD (11,0)
AARRMB	マシン・サービス制御点 (MSCP) に対して出された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
AARCVB	制御装置記述を自動的に作成するか、またはシステムでオンに変更する (あるいはその両方) 必要のある経路活動化要求の数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ATRCVB	制御装置を自動的に作成するか、またはオンに変更する (あるいはその両方) 処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)
ASARRB	MSCP によって正常に処理された経路活動化要求の数。	PD (11,0)
ATARPB	MSCP による経路活動化要求の処理にかかった累積経過時間。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMASYN

このデータには非同期ファイルの項目が含まれており、非同期ファイル内のフィールドをリストしていません。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
AIOPID	予約済み	C (1)
ASTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ASLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ASLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
ASBTRN	エラーのために再送信されたバイトを含む、送信されたバイト数 (データ文字および制御文字)。	PD (11,0)
ASBRCV	エラーで受信された文字を含む、受信されたバイト数 (データ文字および制御文字)。	PD (11,0)
ASPRCL	プロトコル・タイプ: A (非同期)。	C (1)
ASPDUR	受信されたプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数。	PD (11,0)
ASPDUE	受信時にパリティ・エラーやストップ・ビット・エラーのあったプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数。	PD (11,0)
ASPDUT	正常に送信されたプロトコル・データ単位 (PDU) の合計数と応答されたデータ回線終端装置 (DCE)。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBSC

このデータには、2 進データ同期ファイル項目が含まれており、2 進データ同期ファイル内のフィールドをリストしていません。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)

フィールド名	説明	属性
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
BIOPID	予約済み	C (1)
BSTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
BSLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
BSLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
BSBTRN	送信されたバイト数: 再送信されたバイト数を含む、送信されたバイト数 (データおよび制御文字)。	PD (11,0)
BSBRCV	受信されたバイト数: エラーで受信されたバイト数を含む、受信されたバイト数 (データおよび制御文字)。	PD (11,0)
BSPRCL	プロトコル・タイプ: B (2 進データ同期用)。	C (1)
BSDCRV	受信されたデータ文字数: データ・モードの間に正常に受信されたデータ文字数 (同期文字数を除く)。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSBRCV と同じです。	PD (11,0)
BSDCRE	エラーで受信されたデータ文字数: データ・モードになっているときにブロック検査文字エラーで受信されたデータ文字数。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSCRER と同じです。	PD (11,0)
BSDCTR	送信されたデータ文字数: データ・モードになっているときに正常に送信されたデータ文字数。機能タイプ 2507 および 6150 の場合、この値はフィールド BSBTRN と同じです。	PD (11,0)
BSCRER	エラーで受信された文字数: ブロック検査文字エラーで受信された文字数。	PD (11,0)
BSLNK	送信されるテキストに受信された否定応答文字 (注を参照)。リモート・ステーションまたは装置がホスト・システムから送信されたコマンドを理解しなかった回数。	PD (11,0)
BSLWA	送信されたテキストへの間違った肯定応答文字 (注を参照)。ホスト・システムは、予期されなかったリモート装置からの肯定応答を受信しました。たとえば、システムは ACK0 を予期しましたが、ACK1 を受信しました。	PD (11,0)
BSLQTS	送信されたテキストへのエンキュー (注を参照): テキストはステーションによって送信され、ENQ 文字が戻されました。受信ステーションは、ACK0、ACK1、または NAK などいくつかの形式の応答を予期しました。	PD (11,0)
BSLINV	無効 (認識されない形式): 送受信されているデータを大括弧で囲む区切り文字のうちの 1 つが無効です (注を参照)。	PD (11,0)
BSLQAK	応答された文字へのエンキュー: リモート・ステーションは応答 (例: ACK0) を戻し、ホスト・システムは ENQ 文字を送信しました。これは、ホスト・ステーションがその肯定応答を有効な肯定応答として認識しなかったことを示しています (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTNK	送信されるテキストに受信された否定応答文字数 (合計): リモート・ステーションがホスト・システムから送信されたコマンドを理解しなかった回数 (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTWA	送信されるテキストへの間違った肯定応答文字数 (合計): ホスト・システムは、予期されないリモート・デバイスから肯定応答を受信しました。たとえば、ホスト・システムは ACK0 を予期しましたが、ACK1 を受信しました (注を参照)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
BSLTQT	送信されたテキストへのエンキュー (合計): テキストはステーションによって送信され、ENQ 文字が戻されました。受信ステーションは、ACK0、ACK1、または NAK などいくつかの形式の応答を予期しました (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTIV	無効 (認識されない形式) (合計): 送受信されているデータを大括弧で囲む区切り文字のうちの 1 つが無効です (注を参照)。	PD (11,0)
BSLTQA	応答文字へのエンキュー (合計): リモート・ステーションは応答 (例: ACK0) を戻し、ホスト・ステーションは ENQ 文字を送信しました。これは、ホスト・ステーションがその肯定応答を有効な肯定応答として認識しなかったことを示しています (注を参照)。	PD (11,0)
BSLDRA	受信された切断: リモート・ステーションは、異常終了を出して切断を発行しました。これは、エラー回復が成功しなかったか、または 2 進データ同期ジョブが終了されたときに発生します。	PD (11,0)
BSLEAB	受信された送信の終了 (EOT) (異常終了): 切断と類似。	PD (11,0)
BSLDFA	受信された切断 (異常終了の転送): ホスト・ステーションは、異常終了を出して切断を発行しました。これは、エラー回復が成功しなかったか、または 2 進データ同期ジョブが終了されたときに発生します。	PD (11,0)
BSLEFA	受信された EOT (異常終了の転送): 切断と類似。	PD (11,0)
BSLDBT	送信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLDBR	受信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLBKR	再送信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLBKE	エラーで受信されたデータ・ブロックの数。	PD (11,0)
BSLTRT	制御文字を含む、再送信された文字の合計数。	PD (11,0)
BSLDRT	再送信されたデータ文字の合計数。	PD (11,0)

注:

1. カウンター BSLNK から BSLQAK はエラー回復カウンターであり、エラーが初めて検出されるたびに増加します。カウンター BSLTNK および BSLTQA はエラー回復カウンターであり、エラーが発生するたびに増加します。それぞれのカウンター・セットごとに同じエラーがカウントされます。したがって、最初のセットはエラーが検出された回数を示しており、2 番目のセットは、エラーから回復するために行った再試行の回数を示しています。

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMBUS

このデータには、ライセンス内部コード・バス・カウンターが含まれており、バス・カウンター・ファイル内のフィールドをリストします。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
BUIOPB	システム・バス番号。バス番号付けは 1 で始まります。V4R5 以前は、バス番号付けはゼロで始まりました。	PD (3,0)



フィールド名	説明	属性
BUOPSR	受信された OPSTART の数: サーバー記憶域内の RRCB。	PD (11,0)
BUSGLR	受信した信号。	PD (11,0)
BUOPSS	送信された OPSTART の数。	PD (11,0)
BUSGLS	送信された信号。	PD (11,0)
BURSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
BUBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
BUTPKT	合計パケット数 (送信または受信した)。	PD (11,0)
BUKBYO	予約済み	PD (11,0)
BUKBYI	予約済み	PD (11,0)
BUNOSR	受信された通常フロー OPSTART。	PD (11,0)
BUNRDR	受信された作動不能状態。	PD (11,0)
BUORQS	送信された OPSTART 要求。	PD (11,0)
BUTIMO	バス・タイムアウト。	PD (11,0)
BUBNAS	送信された BNA。	PD (11,0)
BUQSAS	送信された使用可能な待ち行列スペース。	PD (11,0)
BUTYPE	バス・タイプ。サポートされている値には、S (SPD バス) および P (PCI バス) が含まれます。	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMCIOP

このデータには通信 IOP ファイル項目が含まれており、通信 IOP ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
CIOP	予約済み	C (1)
CITYPE	このレコードによって説明されている IOP のタイプ。	C (4)
CTIPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
CIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
CIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
CIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
CIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
CISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
CIOPST	送信された OPSTART。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
CISLGS	送信された信号。	PD (11,0)
CIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
CIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
CIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
CIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
CIPRCU	プロセッサ使用率: この通信 IOP がアイドル状態で経過した固定時間間隔の数。	PD (11,0)
CIIDLC	アイドル・ループ・カウント (注を参照): 通信 IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。このカウントとアイドル・ループ時間を使用して、1 次 IOP プロセッサ使用率 (秒単位) を計算します。	PD (11,0)
CIIDLT	アイドル・ループ時間 (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)
CIRAMU	使用可能ローカル・ストレージ (バイト単位): IOP 内の使用可能な空きローカル・ストレージのバイト数。空きローカル・ストレージは、フラグメント化のためおそらく不連続になっています。	PD (11,0)
CISYSF	1 次 IOP プロセッサで実行している基本システム機能の IOP で使用される合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CICOMM	1 次 IOP プロセッサで実行しているすべての通信プロトコル・タスクで使用される結合処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CISDLC	1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 通信タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIASYN	1 次 IOP プロセッサで実行している非同期通信タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIBSC	1 次 IOP プロセッサで実行している 2 進同期プロトコル・タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25L	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 LLC タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25P	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 PLC タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIX25D	1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 DLC タスクで使用される時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CILAN	LAN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているトークンリング・ネットワーク、イーサネット、フレーム・リレー、およびファイバー分散データ・インターフェース (FDDI) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CILAP	1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN LAPD、LAPE、および PMI タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIQ931	1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN Q.931 タスクで使用される処理時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
CIF1ID	副次機能 1 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
CIF1TM	副次機能 1 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される合計処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
CICPU2	2 番目の IO プロセッサの処理時間 (ミリ秒単位)。これは、特殊機能を処理します。このフィールドは、統合 xSeries (Integrated xSeries <sup>(R)</sup> ) サーバー (入出力アダプター・バージョンを除く) および無線 IOP に適用されます。他の IOP の場合、このフィールドはゼロです。収集サービスでは、統合 xSeries サーバーの値は報告されません。	PD (11,0)

**注:**

アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、通信 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{CIIDLC} * \text{CIIDLT})/10^{**8}) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。
3. 機能 1 から 5 の ID は、1 次 IOP で実行できる追加機能で使用されます。各機能 ID には、関連付けられている機能時間値があります。機能 ID は以下の値を持っています。

値	説明
00	時間値が与えられていません
11	統合 xSeries サーバーのパイプ・タスク (統合 xSeries サーバーは、以前のファイル・サーバー入出力処理機構および FSIOP です)
42	ローカル・トーク・タスク
43	無線タスク

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDDI

この表は、分散データ・インターフェース (DDI) ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)

フィールド名	説明	属性
DDIOPI	予約済み	C (1)
DITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
DDLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
DDLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
DLTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
DLTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
DLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
DLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
DLICT	送信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
DLICR	受信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
DLPRCL	プロトコル・タイプ: C (DDI 用)。	C (1)
DLRFT	送信された受信不可フレームの合計数。	PD (11,0)
DLRFR	受信された受信不可フレームの合計数。	PD (11,0)
DLFFT	送信されたフレーム拒否 (FRMR) フレームの合計数。	PD (11,0)
DLFFR	受信されたフレーム拒否 (FRMR) フレームの合計数。	PD (11,0)
DLRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
DLRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
DLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (11,0)
DLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (11,0)
DLDFR	送信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
DLDFR	受信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
DLDMT	送信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
DLDMR	受信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
DLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
DLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 が終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
DMFRV	受信された MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMFCC	コピーされた MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMFTR	送信された MAC フレームの数。	PD (11,0)
DMTKN	受信された MAC トークンの数。	PD (11,0)
DMERR	MAC エラー・カウント。	PD (11,0)
DMLFC	消失フレーム・カウント。	PD (11,0)
DMTVX	TVX の満了カウント。	PD (11,0)
DMNCC	コピー不可カウント。	PD (11,0)
DMLAT	MAC 遅延カウント。	PD (11,0)
DLROP	リング操作カウント。	PD (11,0)
DMABE	ポート A の順応バッファ (EB) エラー。	PD (11,0)
DMATF	ポート A の LCT カウント: 連続して失敗した信頼性テスト (LCT) の回数。	PD (11,0)
DMALR	ポート A の拒否カウント。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DMAEC	ポート A のリンク・エラー・モニター (LEM) カウント。	PD (11,0)
DMBBE	ポート B の順応バッファ (EB) エラー。	PD (11,0)
DMBTF	ポート B の LCT カウント: 連続して失敗した信頼性テスト (LCT) の回数。	PD (11,0)
DMBLR	ポート B の拒否カウント。	PD (11,0)
DMBEC	ポート B のリンク・エラー・モニター (LEM) カウント。	PD (11,0)
DMANR	認識されなかったアドレス。	PD (11,0)
DMFNC	コピーされなかったフレーム。	PD (11,0)
DMTKE	予約済み	PD (11,0)
DMDUP	重複アドレスの数。	PD (11,0)
DMDFR	破棄されたフレームの数。	PD (11,0)
DMTXU	送信アンダーラン。	PD (11,0)
DMRER	回復可能エラー。	PD (11,0)
DMNER	回復不能エラー。	PD (11,0)
DMSIN	不明確な中断。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDIOP

このデータ・ファイルには、記憶装置 (ディスク) の IOP ファイル項目が含まれています。これには、記憶装置の IOP ファイル内のフィールドがリストされています。これらのフィールド内の情報は、次のように解釈してください。

- 装置とはディスクを意味します。
- 記憶装置制御機構の IOP 使用率の計算には、アイドル・ループの回数と時間が用いられます。次のようにします。

アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。その値を間隔時間から差し引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP の使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{DIIDLCL} * \text{DIIDLTL})/10^{**8})/\text{INTSEC}$$

このデータのソースの詳細については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
DIIOPI	予約済み	C (1)
DITYPE	IOP タイプ。	C (4)
DIIDLCL	アイドル・ループ・カウント: ディスク制御装置 IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。この回数は、アイドル・ループの時間と共に利用されます。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DIIDLT	アイドル・ループの時間: アイドル・ループを 1 回実行するのにかかる時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)
DITPK	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
DIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
DIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
DIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
DIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
DISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
DIOPST	送信された OPSTART。	PD (11,0)
DISGLS	送信された信号。	PD (11,0)
DIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
DIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
DIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
DIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
DIRID0	予約済み	C (8)
DISMP0	予約済み	PD (11,0)
DIQLN0	予約済み	PD (11,0)
DINRQ0	予約済み	PD (11,0)
DIRID1	予約済み	C (8)
DISMP1	予約済み	PD (11,0)
DIQLN1	予約済み	PD (11,0)
DINRQ1	予約済み	PD (11,0)
DIRID2	予約済み	C (8)
DISMP2	予約済み	PD (11,0)
DIQLN2	予約済み	PD (11,0)
DINRQ2	予約済み	PD (11,0)
DIRID3	予約済み	C (8)
DISMP3	予約済み	PD (11,0)
DIQLN3	予約済み	PD (11,0)
DINRQ3	予約済み	PD (11,0)
DIRID4	予約済み	C (8)
DISMP4	予約済み	PD (11,0)
DIQLN4	予約済み	PD (11,0)
DINRQ4	予約済み	PD (11,0)
DIRID5	予約済み	C (8)
DISMP5	予約済み	PD (11,0)
DIQLN5	予約済み	PD (11,0)
DINRQ5	予約済み	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
DIRID6	予約済み	C (8)
DISMP6	予約済み	PD (11,0)
DIQLN6	予約済み	PD (11,0)
DINRQ6	予約済み	PD (11,0)
DIRID7	予約済み	C (8)
DISMP7	予約済み	PD (11,0)
DIQLN7	予約済み	PD (11,0)
DINRQ7	予約済み	PD (11,0)
DIRID8	予約済み	C (8)
DISMP8	予約済み	PD (11,0)
DIQLN8	予約済み	PD (11,0)
DINRQ8	予約済み	PD (11,0)
DIRID9	予約済み	C (8)
DISMP9	予約済み	PD (11,0)
DIQLN9	予約済み	PD (11,0)
DINRQ9	予約済み	PD (11,0)
DIRIDA	予約済み	C (8)
DISMPA	予約済み	PD (11,0)
DIQLNA	予約済み	PD (11,0)
DINRQA	予約済み	PD (11,0)
DIRIDB	予約済み	C (8)
DISMPB	予約済み	PD (11,0)
DIQLNB	予約済み	PD (11,0)
DINRQB	予約済み	PD (11,0)
DIRIDC	予約済み	C (8)
DISMPC	予約済み	PD (11,0)
DIQLNC	予約済み	PD (11,0)
DINRQC	予約済み	PD (11,0)
DIRIDD	予約済み	C (8)
DISMPD	予約済み	PD (11,0)
DIQLND	予約済み	PD (11,0)
DINRQD	予約済み	PD (11,0)
DIRIDE	予約済み	C (8)
DISMPE	予約済み	PD (11,0)
DIQLNE	予約済み	PD (11,0)
DINRQE	予約済み	PD (11,0)
DIRIDF	予約済み	C (8)
DISMPF	予約済み	PD (11,0)
DIQLNF	予約済み	PD (11,0)
DINRQF	予約済み	PD (11,0)





注:

バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDISK

このデータには、ディスク・ファイルの項目が含まれ、各  ディスク資源ごとに 1 つずつのレコードが含まれています。通常、複数のディスク資源が関連しているマルチパスのディスク装置以外は、ディスク装置ごとに 1 つのディスク資源があります。  収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。


フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
DIOPID	予約済み	C (1)
DSARM	ディスク・アーム番号: 装置の固有 ID を指定します。マシンに設けられているディスク・ドライブ上の各アクチュエーター・アームは、補助記憶域装置を示します。装置番号の値は、装置が ASP に割り振られるときに、システムによって割り当てられます。	C (4)
DSTYPE	ディスク・ドライブのタイプ (9332、9335、6100 など)。	C (4)
DSDRN	装置の資源名。  通常、複数のディスク資源が関連しているマルチパスのディスク装置以外は、ディスク装置ごとに 1 つのディスク資源 (装置) があります (注 5 を参照)。 	C (10)
DSSCAN	検索ストリング・コマンドの数: 9332、9335、6100 では、検索ストリング・コマンドがサポートされていないため、この数は常にゼロです。	PD (5,0)
DSBLKR	読み取られたブロックの数: ブロックの長さは 520 バイトで、これにはシステム制御情報の 8 バイトが含まれます。	PD (11,0)
DSBLKW	書き出されたブロックの数: ブロックの長さは 520 バイトで、これにはシステム制御情報の 8 バイトが含まれます。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
DSIDLC	<p>プロセッサ・アイドル・ループ・カウンター (注 1 を参照): ディスク制御装置アイドル・ループをパススルーした回数。 9332 と 9335 では、この数の増え方が異なります。 9332 では、このカウンターは、ディスク制御装置全体が活動停止している (例: 活動状態にある入出力操作がない) 場合にのみ加算されますが、 9335 では、ディスク制御装置が活動停止している可能性があつて、このカウンターが増加している場合でも、入出力操作が活動状態になっている (例: シークが実行されている) ことがあります。専用ディスク・プロセッサをサポートするドライブ・タイプの場合、このフィールドは非ゼロになり、その他のドライブ・タイプの場合はゼロになります。</p> <p>DSIDLC と DSIDL T は、同一のディスク制御装置用のすべてのアームで重複しています。</p>	PD (11,0)
DSIDL T	<p>プロセッサ・アイドル・ループの時間 (注 3 を参照): アイドル・ループを 1 回パススルーするのにかかる時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。専用ディスク・プロセッサをサポートするドライブ・タイプの場合、このフィールドは非ゼロになり、その他のドライブ・タイプの場合はゼロになります。報告された値が、実際のアイドル・ループ時間の倍数になっている場合があります。この場合、プロセッサ・アイドル・ループ・カウント (DSIDLC) のフィールドに報告された値は、相応に削減して、計算されたプロセッサ使用率を訂正します。</p> <p>DSIDLC と DSIDL T は、同一のディスク制御装置用のすべてのアームで重複しています。</p>	PD (11,0)
DSSK1	シーク (> 2/3) の数: シークで、アームの移動距離がディスクの 2/3 を超えた回数。	PD (11,0)
DSSK2	シーク (> 1/3 かつ < 2/3) の数 (注 2 を参照): シークで、アームの移動距離がディスクの 1/3 を超えたが、2/3 には至らなかった回数。	PD (11,0)
DSSK3	シーク (> 1/6 かつ < 1/3) の数 (注 2 を参照): シークで、アームの移動距離がディスクの 1/6 を超えたが、1/3 には至らなかった回数。	PD (11,0)
DSSK4	シーク (> 1/12 かつ < 1/6) の数 (注 2 を参照): シークで、アームの移動距離がディスクの 1/12 を超えたが、1/6 には至らなかった回数。	PD (11,0)
DSSK5	シーク (< 1/12) の数 (注 2 を参照): アームがその現在位置から移動したが、その移動距離がディスク 1/12 に満たなかった回数。	PD (11,0)
DSSK6	ゼロ・シークの数 (注 2 を参照): シーク要求で、アクセス・アームが物理的には移動しなかった回数。この操作の結果として、ヘッド・スイッチが起きていることがあります。ディスク・ドライブのタイプが 6100 の場合、このフィールドは 0 です。ゼロ・シークの数は、DSSK5 に累算されていきます。	PD (11,0)
DSQUEL	待ち行列要素の合計: サンプル時間にサービスを待っていた入出力操作の数。この数には、進行中の入出力操作も含まれます。待ち行列の長さの平均を出すには、これを DSSMPL で割ります。	PD (11,0)
DSNBSY	アームが使用されなかった回数: サンプル時間に、活動中の未解決な入出力操作がなかった回数。	PD (11,0)
DSSMPL	毎秒 2 つずつの割合で取られるサンプルの数: DSQUEL および DSNBSY フィールドで、1 秒につき、およそ 2 つずつの割合で取られるサンプルの数。	PD (11,0)
DSCAP	ドライブ・キャパシティー (バイト): ASP がチェックサム保護の下にないときに、オブジェクトや内部機械機能の記憶域として使用するために装置上に備えられている、ASP 内の補助記憶域の合計バイト数。このキャパシティーを計算するには、装置のキャパシティーから、装置に予約されているシステム・スペースの値を引きます。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
DSAVL	装置の有効スペース (バイト): 現在、オブジェクトにも、内部機械機能にも割り当てられておらず、ゆえに装置上での使用が可能な補助記憶域の合計バイト数。	PD (15,0)
DSASP	ASP 番号: 装置が現在割り振られている ASP を示します。値 1 は、システム ASP を示します。2 から 32 までの値は、基本 ASP を示します。33 から 255 の値は独立 ASP を指定します。値 0 は、装置は現在割り振られていないことを示します。	PD (5,0)
DSCSS	予約済み	C (2)
DSPCAP	予約済み	PD (11,0)
DSPAVAL	予約済み	PD (11,0)
DMFLAG	' ' は、アームが  ローカルにミラー保護されていないことを意味します。 'A' は、これが指定されている、ローカルにミラー保護された対の最初のアームであることを意味します。 'B' は、これが指定されている、ローカルにミラー保護された対の 2 番目のアームであることを意味します。	C (1)
DMSTS	ローカルのミラー状況。1 = 活動中、2 = 再開中、3 = 中断	PD (1,0)
DMIRN	ローカルにミラー保護された IOP 資源の名前。	C (10)
DMDRN	ローカルに  ミラー保護された装置資源の名前。	C (10)
DSRDS	データ読み取りコマンドの数。	PD (11,0)
DSWRTS	データ書き出しコマンドの数。	PD (11,0)
DSBUFO	バッファオーバーランの数: ディスクからディスク制御装置バッファへのデータの読み取りが可能であったが、ディスク制御装置バッファに、まだ記憶装置制御機構に検索されないデータが含まれていた回数。この結果、ディスクは、バッファがデータを受信できるようになるまで、さらに回転しなければなりません。ディスク・ドライブのタイプが 6100 の場合、このフィールドは 0 です。	PD (11,0)
DSBUFU	バッファアンダーランの数: ディスク制御装置には、書き出しのためにデータをディスクに送信する用意があったが、制御装置が空であった回数。データは、ディスク IOP によってディスク制御装置バッファに時間内に送信されませんでした。ディスクは、データを待ちながら、さらに回転しなければなりません。ディスク・ドライブのタイプが 6100 の場合、このフィールドは 0 です。	PD (11,0)
DSMDLN	型式番号: ディスク装置の型式番号。	C (4)
DSDCRH	装置キャッシュ読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。	PD (11,0)
DSDCPH	装置キャッシュ部分読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたデータの一部 (すべてではない) が、装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。残りのデータを読み取るには、装置メディアへの物理操作が必要でした。	PD (11,0)
DSDCWH	装置キャッシュ書き出しのヒット: 書き出し操作に関連したデータが、装置書き出しキャッシュ内の既存データと置き換わったり、結合したりして、書き出し操作を除去した回数。	PD (11,0)
DSDCFV	装置キャッシュ高速書き出し: 書き出し操作に関連したデータに対して装置書き出しキャッシュ内のスペースを使用することができ、即座に応答が返された回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSDROP	装置読み取り操作: 制御装置により、装置に対して発行される読み取り操作の数。これには、冗長なシステム・データ区域のために行われる操作も含まれます。これには、このアイドル時間内に行われる診断や、制御装置が予約している区域へのアクセスのための操作は含まれません。	PD (11,0)
DSDWOP	装置書き出し操作: 制御装置により、装置に対して発行される書き出し操作の数。これには、冗長なシステム・データ区域のために行われる操作も含まれます。これには、このアイドル時間内に行われる診断や、制御装置が予約している区域へのアクセスのための操作は含まれません。	PD (11,0)
DSCCRH	制御装置キャッシュ読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、制御装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。	PD (11,0)
DSPCPH	制御装置キャッシュ部分読み取りのヒット: 読み取り操作で要求されたデータの一部が、制御装置読み取り (または書き出し) キャッシュから取得された回数。残りのデータを読み取るには、装置への操作が必要でした。	PD (11,0)
DSCCWH	制御装置キャッシュ書き出しのヒット: 書き出し操作に関連したデータが、制御装置書き出しキャッシュ内の既存データと置き換わる、または結合される回数。これは書き込み操作を除去します。	PD (11,0)
DSCCFW	制御装置キャッシュ高速書き出し: 書き出し操作に関連したデータに対して制御装置書き出しキャッシュ内のスペースを使用することができ、即座に応答が返された回数。	PD (11,0)
DSCOMP	圧縮済み装置の標識。ディスク・データが圧縮されていない場合は '0' で、ディスク・データが圧縮済みの場合は '1' です。	C (1)
DSPBU	使用されている物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域で使用された (書き出された) 物理ブロックの合計数が入ります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSPBA	割り振られている物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域で、DASD 範囲用にコミットされた (予約された) 物理ブロックの合計数が入ります。この値には、使用されている物理ブロックがすべて含まれます。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSLBW	書き出されている論理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、装置のユーザー・データ域に書き出されている論理ブロックの合計数が入ります。この値は、割り振られている範囲に書き出されているデータの総量を表します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSLBA	割り振られている論理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、割り振られている圧縮グループに含まれている論理ブロックの合計数が入ります。この値は、装置のユーザー・データ域内に割り当てられているすべての圧縮グループの総計を表します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSPBCO	圧縮オーバーヘッド用の物理ブロック。圧縮済み装置の場合、このフィールドには、圧縮ディレクトリー構造と、ユーザー・データの保管に使用できる未使用の区域のための物理ブロックの合計数が入ります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSFGDR	前景ディレクトリー読み取り。圧縮済みの装置の場合、このフィールドは、ホスト・システム・コマンドを完了するのに必要なディレクトリー構造を読み取るために実行された、装置読み取り操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
DSFGDW	前景ディレクトリ書き出し。圧縮済みの装置の場合、これは、ホスト・システム・コマンドを完了するのに必要なディレクトリ構造を書き出すために実行された、装置書き出し操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSBGDR	背景ディレクトリ読み取り。圧縮済みの装置の場合、これは、圧縮ディレクトリ構造の管理で実行されたが、ホスト・システム・コマンドの完了するために即座に必要とされたわけではない装置読み取り操作の数となります。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSBGDW	背景ディレクトリ書き出し。圧縮済みの装置の場合、これは、装置書き出し操作の数です。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSFGRE	前景読み取りの例外。圧縮済み装置の場合、これは、圧縮済み装置上の例外区域に保管されたデータを読み取るために、追加の装置読み取り操作が発行された回数です (このカウントは複数ページ操作にのみ適用されています)。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐにも必要とされる操作だけを反映します。	PD (11,0)
DSFGWE	前景書き出しの例外。圧縮済み装置の場合、このフィールドは、圧縮済み装置上の例外区域にデータを書き出すために、追加の装置書き出し操作が発行された回数です (このカウントは複数ページ操作にのみ適用されています)。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐにも必要とされる操作だけを反映します。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSFGS	前景スイープ。圧縮済み装置の場合、スイープとは、データ領域内に未使用区域ができたり、例外領域内に使用区域ができたりしないよう、正しいセクター番号で 1-MB 圧縮グループを保管するために行われる処理です。前景スイープの数は、ホスト・システム・コマンドを完了するのに、1-MB 圧縮グループ全体をスイープ処理する必要のあった回数です。スイープは、ホスト・システムの書き込み操作のデータが、予約されている物理スペースにフィットしない場合に必要となります。新規データは、以前にスペース内にあったデータ程には圧縮されません。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSBGS	背景スイープ。圧縮済み装置の場合、スイープとは、データ領域内に未使用区域ができたり、例外領域内に使用区域ができたりしないよう、正しいセクター番号で 1-MB 圧縮グループを保管するために行われる処理です。背景スイープの数は、圧縮済みのデータ記憶域の能率を維持するために、1-MB 圧縮グループ全体がスイープ処理された回数です。この回数は、ホスト・システム・コマンドを実行するためにすぐにも必要ではなかったスイープだけを反映します。背景スイープは、パフォーマンスの向上や、ドライブの使用可能容量の増加を目的としています。圧縮されていない装置の場合、このフィールドには 0 が入ります。	PD (11,0)
DSCERC	制御装置がシミュレートした読み取りキャッシュのヒット: 読み取り操作で要求されたすべてのデータが、制御装置読み取りキャッシュ (制御装置書き出しキャッシュではなく) から読み取られていることが予測されている回数 (読み取られた回数ではない)。このフィールドは、拡張キャッシュ・シミュレーターが使用可能になっている場合のみ更新されます。	PD (11,0)
DSASPN	ASP 資源名。装置が現在割り振られている ASP の資源名を示します。値をブランクにすると、システム ASP または基本 ASP が指定されます。	C (10)
 DSPS	パリティ・セット。このフィールドの値は、ディスク装置がパリティ・セットにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)

フィールド名	説明	属性
DSHAPS	高可用性パリティ・セット。このフィールドの値は、ディスク装置が高可用性パリティ・セットにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)
DSMU	マルチパス装置。このフィールドの値は、ディスク資源がマルチパス・ディスク装置を表す場合 1 (注 5 を参照)、そうでない場合 0 です。	C (1)
DSIP	マルチパス装置の初期パス。このフィールドの値は、ディスク資源がマルチパス・ディスク装置の初期パスを表す場合 1、そうでない場合 0 です。システムの再始動 (IPL) 後に変更できます。初期パスの資源名は、単一資源名の下でマルチパス・ディスク装置を報告するために使用できます。	C (1)
DSPC	リモートにミラー保護された独立 ASP の実動コピー。このフィールドの値は、ディスク装置がリモートにミラー保護された独立 ASP の実動コピーにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)
DSMC	リモートにミラー保護された独立 ASP のミラー・コピー。このフィールドの値は、ディスク装置がリモートにミラー保護された独立 ASP のミラー・コピーにある場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1) <<

注:

1. 9332/9335 不整合:

- 9335 は、処理装置 (A) が使用中でないときにしか、アイドル・カウントを更新しません。シークのようなディスク操作が進行中であった可能性があります。9332 は、プロセッサ内に活動がないときにだけ、アイドル・カウントを更新します。
- 移動やヘッド・スイッチがない場合、9332 はこの操作をゼロ・シークとしてカウントするのに対し、9335 はカウントしません。
- 操作でヘッド・スイッチが引き起こされている (あるトラック上で読み取りや書き出しを開始し、別のトラック上で終了している) 場合、9332 はこれをゼロ・シークとしてカウントしますが、9335 はカウントしません。

2.

9335: > 2/3	9332: >= 2/3
> 1/3 and <= 2/3	>= 1/3 and < 2/3
> 1/6 and <= 1/3	>= 1/6 and < 1/3
> 1/12 and <= 1/6	>= 1/12 and < 1/6
<= 1/12	< 1/12

3. 記憶装置制御機構の使用率の計算には、アイドル・ループの回数と時間が用いられます。次のようになります。

アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。その値を間隔時間から差し引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{ディスク・プロセッサの使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{DSIDLC} * \text{DSIDLTL})/10^{**}8) / \text{INTSEC}$$

4. 次の公式は、前のテーブルのフィールドのいくつかを使用して、各アームごとの使用率とサービス時間を計算する方法を示しています。>> マルチパス・ディスク装置の場合、これらの公式は使用率および各パスごとのサービス時間 (資源) を計算します。<<

- アームの使用率 (DSUTL): 合計間隔のうち、入出力操作にアームが使用された部分。



$DSUTL = \text{Arm Busy} = (DSSMPL - DSNBSY) / DSSMPL$

- 1 秒あたりのアーム・アクセス回数 (DSAS): 間隔内にこのアームに対して行われた 1 秒あたりの読み取りと書き出しの回数。

$DSAS = (DSRDS + DSWRTS) / INTSEC$

- サービス時間 (DSSRVCT): アームの入出力操作のための平均時間。これには、ディスク制御装置時間が含まれます。

$DSSRVCT = DSUTL / DSAS$

次の公式は、マルチパス・ディスク装置のサービス時間 (DSSTM) を計算します。Xi は i 番目のパスについての値 X の計算値、および  $\sum(X_i)$  はすべてのパス全体での Xi の合計です。

$DSSTM = \sum(DSSRVCT_i * (DSRDS_i + DSWRTS_i)) / \sum(DSRDS_i + DSWRTS_i)$



IOP 使用率が低い (5% 未満) ときのサービス時間は無視されます。これは統計学的なサンプリングに基づいて計算される値です。サンプリングの数が非常に少ない場合は、計算値が正確なものとならないことがあります。

5. パフォーマンス・データは、マルチパス・ディスク装置と関連する、各ディスク資源ごとに報告されます。マルチパス・ディスク装置については、以下のカウンターが装置から出されます。つまり、その値は報告される各ディスク資源ごとに重複するという事です。

- DSIDL - プロセッサ・アイドル・ループ・カウント
- DSIDLT - プロセッサ・アイドル・ループ時間
- DSSK1-6 - シークの数
- DSBUFO - バッファ・オーバーランの数
- DSBUFU - バッファ・アンダーランの数
- DSDCRH - 装置キャッシュ読み取りヒット
- DSDCPH - 装置キャッシュ部分読み取りヒット
- DSDCWH - 装置キャッシュ書き込みヒット
- DSDCFW - 装置キャッシュ高速ライター
- DSDROP - 装置読み取り操作
- DSDWOP - 装置書き込み操作

重複する他のフィールド値には、ドライブ・キャパシティー (DSCAP) およびドライブ使用可能スペース (DSAVL) が含まれます。

特定のマルチパス・ディスク装置のアーム番号 (DSARM) およびミラー・フラグ (DMFLAG) は、その装置に関連したレコードを識別するのに使用されます。

---

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDOMINO

このファイルには、ドミノ(R) (iSeries 版) Domino<sup>(R)</sup> for iSeries<sup>(TM)</sup> カテゴリによって収集されたデータが含まれます。レコードは、システム上で活動状態になっている各ドミノ・サーバーの間隔ごとに 1 つずつ収集されます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

注: これらの説明には、ドミノ (Domino) の「状況表示」機能で示されるメトリックの名前も含まれています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
DMSUBS	サーバー・サブシステム。	C (10)
DMJNAM	サーバー・ジョブ名。	C (10)
DMJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
DMJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
DMSRVN	サーバー名 (名前がこのフィールドよりも長い場合は、先頭から 25 文字が取られます)。	C (25)
DMSSDT	サーバー開始日時 (yyymmddhhmmss)。	C (14)
DMDBPM	Database.BufferPool.Maximum.Megabytes: 構成された使用できるデータベース制御プールの最大サイズ。	B (9,0)
DMDBPP	Database.BufferPool.Peak.Megabytes: サーバーの稼働期間中にドミノが使用したバッファ・プールの最大量。	B (9,0)
DMDBPR	Database.Database.BufferPool.PerCentReadsInBuffer: バッファ・プール内に存在するデータベース読み取りの割合 (%)。	B (5,2)
DMDBCH	Database.DbCache.Hits: データベース・キャッシュへのヒット数。	B (18,0)
DMDBCL	Database.DbCache.Lookups: データベース・キャッシュへの検索数。	B (18,0)
DMNLCH	Database.NAMELookupCacheHits: サーバーの名前とアドレス帳で名前の検索を行った際のキャッシュ・ヒットの数。	B (18,0)
DMNLCL	Database.NAMELookupCacheLookups: サーバーの名前とアドレス帳における検索の数。	B (18,0)
DMASPN	Platform.LogicalDisk.1.AuxStoragePool: ドミノ・データ・ディレクトリーが含まれている補助記憶域プール (ASP) の数。	B (4,0)
DMASPU	Platform.LogicalDisk.1.PctUsed: ドミノ・データ・ディレクトリーが含まれている ASP のディスク・スペース使用率 (%)。 注: このメトリックは、各サーバーで構成された内部サンプル間隔に基づき、サーバーによって計算されます。	B (5,2)
DMASPB	Platform.LogicalDisk.1.PctUtil: ドミノ・データ・ディレクトリーが含まれている ASP での読み取りや書き込みでドライブが使用中になっている時間の割合 (%)。 注: このメトリックは、各サーバーで構成された内部サンプル間隔に基づき、サーバーによって計算されます。	B (5,2)
DMTRNS	Server.Trans.Total: トランザクションの数。	B (18,0)
DMUSRO	Server.Users: サーバー上にオープン・セッションを持つユーザーの数。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMUSR P	Server.Users.Peak: サーバーが開始されてからの最大同時ユーザー数。	B (9,0)
DMUSRT	Server.Users.Peak.Time: 最後にユーザーが最大数に達した時刻 (YYYYMMDDHHMMSS)。	C (14)



フィールド名	説明	属性
DMMLCP	Mail.TotalPending: サーバーの MAIL.BOX でドミノ・ルーター・ジョブによる処理を待っているアウトバウンド・メール・メッセージの数。メールは、ルーター・ジョブが起動され、発信メールが MAIL.BOX から宛先メール・サーバーに移されるまで保留状態になります。メール・サーバーに接続できなければ、メッセージは MAIL.BOX で保留にされたままになります。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMMLWR	Mail.WaitingRecipients: サーバーの MAIL.BOX でドミノ・ルーター・ジョブによる処理を待っているインバウンド・メール・メッセージの数。メールは、ルーター・ジョブが起動され、着信メールが MAIL.BOX からユーザーのメール・ファイルに移されるまで保留状態になります。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMMLBX	Mail.Delivered: サーバーの MAIL.BOX に置かれているインバウンド・メール・メッセージとアウトバウンド・メール・メッセージを合わせた数。	B (18,0)
DMCMCD	Domino.Command.CreateDocument: サーバーに入ってきた 'CreateDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMDD	Domino.Command.DeleteDocument: サーバーに入ってきた 'DeleteDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMED	Domino.Command.EditDocument: サーバーに入ってきた 'EditDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOA	Domino.Command.OpenAgent: サーバーに入ってきた 'OpenAgent' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOB	Domino.Command.OpenDatabase: サーバーに入ってきた 'OpenDatabase' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOD	Domino.Command.OpenDocument: サーバーに入ってきた 'OpenDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOF	Domino.Command.OpenForm: サーバーに入ってきた 'OpenForm' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOI	Domino.Command.OpenImageResource: サーバーに入ってきた 'OpenImageResource' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMOV	Domino.Command.OpenView: サーバーに入ってきた 'OpenView' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMSD	Domino.Command.SaveDocument: サーバーに入ってきた 'SaveDocument' URL のカウント。	B (18,0)
DMCMTU	Domino.Command.Total: サーバーに入ってきたすべての URL のカウント。	B (18,0)
DMRQ1M	Domino.Requests.Per1Minute.Total: 過去 1 分間の合計要求数。(これは、データがサンプリングされた時点での現行値です。)	B (9,0)
DMNPT1	NET.*: データが報告されているドミノ・ポート (4 つのうち 1 つ)。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	C (32)
DMNBR1	NET.*.BytesReceived: このポートで受信されたネットワーク・バイト数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (18,0)
DMNBS1	NET.*.BytesSent: このポートで送信されたネットワーク・バイト数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (18,0)
DMNSI1	NET.*.Sessions.Established.Incoming: このポートで確立された着信セッションの数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (9,0)


フィールド名	説明	属性
DMNSO1	NET.*.Sessions.Established.Outgoing: このポートで確立された発信セッションの数。 注: ノード名のアスタリスク (*) は、ポートの名前を示します。	B (9,0)
DMN*	注: 上の 5 のフィールドは、ポート 2、3、および 4 に関して報告されます。	

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMDPS

このファイルには、データ・ポート・サービスのパフォーマンス・データが入っています。データ・ポート・サービスは、ソース・システムと、iSeries<sup>TM</sup> クラスタ内の *N* 個の指定された (切り替え可能) ターゲット・システムのうちの 1 つとの間での、データの大量ボリューム転送をサポートするライセンス内部コード (LIC) です。データ・ポート・サービスは LIC クライアント、たとえば遠隔独立 ASP ミラー保護などによって使用されます。それぞれの収集間隔のクライアントごとの各 IP アドレスに 1 つのレコードが存在します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく <i>n</i> 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19xx、1 は 20xx を示します。	C (1)
DPTYPE	クライアント・タイプ。データ・ポート・サービスに登録されるクライアントのタイプは次のとおりです。 • 1 — 遠隔独立 ASP ミラー保護。	B (4,0)
DPNAME	クライアント名。データ・ポート・サービスに登録されたクライアントの名前。この名前は特定のクライアント・タイプで固有ですが、すべてのクライアント全体に渡って固有でなければならないということではありません。この名前は、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 — リモートにミラー保護された 1 次独立 ASP の ASP 資源名。	C (10)
DPIPV	IP バージョン。このフィールドは、ターゲット IP アドレスに関して IP バージョン (4 または 6) を定義します。	B (4,0)
DPIPAD	ターゲット IP アドレス。ターゲット・システムの IP アドレス。このレコードは、この IP アドレスと関連する接続上のクライアント通信に、統計を報告します。4 バイト幅の IP バージョン 4 のアドレスは、右寄せされてゼロが埋め込まれます。	H (16)
DPIPAS	ターゲット IP アドレス状況。このフィールドの値は、ターゲット IP アドレスが現在メッセージング用に使用中の場合 1、そうでない場合 0 です。	C (1)
DPNID	ターゲット・ノード ID。iSeries クラスタ内のターゲット・システムのノード ID。	C (8)
DPDTA1	クライアント・データ 1。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 — リモートにミラー保護された 1 次独立 ASP の数。	B (9,0)

フィールド名	説明	属性
DPDTA2	クライアント・データ 2。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 — 未定義。	B (9,0)
DPDTA3	クライアント・データ 3。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 — 未定義。	C (10)
DPDTA4	クライアント・データ 4。クライアントが提供するオプションのデータ。このデータは、クライアント・タイプによって次のように定義されます。 • 1 — 未定義。	C (40)
DPASYN	非同期モード。このフィールドの値は、非同期モードの場合 1、そうでない場合は同期モードで 0 です。非同期モードの場合、クライアントはメッセージを送信し、メッセージ受信時に ACK を再度受け取りますが、それは遠隔クライアントが処理する前です。同期モードの場合、クライアントはメッセージを送信し、メッセージ受信後、および遠隔クライアントの処理後に ACK を再度受け取ります。	C (1)
DPMS	送信されたメッセージ。クライアントが送信するメッセージの数。この値はクライアントが送信を要求すると増えます。送信が正常に行われるかどうかには依存しません。	B (18,0)
DPAS	送信された確認通知。クライアントが送信する確認通知 (ACK) の数。	B (18,0)
DPNS	送信された否定通知。クライアントが送信する否定通知 (NACK) の数。	B (18,0)
DPMR	受信したメッセージ。クライアントが受信したメッセージの数。	B (18,0)
DPAR	受信した確認通知。クライアントが受信した確認通知 (ACK) の数。	B (18,0)
DPNR	受信した否定通知。クライアントが受信した否定通知 (NACK) の数。	B (18,0)
DPMRO	1 度再試行されたメッセージ。1 度だけ再試行されたクライアント・メッセージの数。カウントされるメッセージは、データ・ポート・サービスが開始した再試行と関連するもので、TCP が開始した再試行ではありません。	B (18,0)
DPMRM	複数回再試行されたメッセージ。複数回再試行されたクライアント・メッセージの数。カウントされるメッセージは、データ・ポート・サービスが開始した再試行と関連するもので、TCP が開始した再試行ではありません。メッセージが複数回再試行されると、この値は 1 ずつ増えていきます。	B (18,0)
DPTMR	合計メッセージ再試行。クライアント・メッセージ再試行の合計数。カウントされる再試行は、データ・ポート・サービスが開始した再試行で、TCP が開始した再試行ではありません。メッセージが $n$ 回再試行されると、この値は $n$ ずつ増えていきます。	B (18,0)
DPMRR	代替アドレスに転送されるメッセージ。メッセージを送信する試みがタイムアウトになる回数が多すぎて、代替 IP アドレスに転送されるメッセージの数。	B (18,0)
DPMNA	確認されないメッセージ。応答で ACK または NACK を受け取らなかった、送信済みクライアント・メッセージの数。	B (18,0)
DPMBR	受信したメッセージ・バイト。クライアントが受信したメッセージに関連したバイト数。これには、再試行または ACK および NACK 応答に関連したバイトは含まれません。	B (18,0)
DPMBS	送信されたメッセージ・バイト。クライアントに送信されたメッセージに関連したバイト数。これには、再試行または ACK および NACK 応答に関連したバイトは含まれません。この値はクライアントが送信を要求すると増えます。送信が正常に行われるかどうかには依存しません。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
DPSMS	送信された小さいメッセージ。クライアントが送信した、4K 以下のサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPMMS	送信された中程度のメッセージ。クライアントが送信した、4K より大きく、64 K 以下のサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPLMS	送信された大きいメッセージ。クライアントが送信した、64K より大きいサイズのメッセージ数。	B (18,0)
DPSRTT	マイクロ秒単位の平滑化された往復時間。データが収集された時間までの平均往復時間の現在の推定値 (DTETIM フィールドを参照)。この推定値は、データ・ポート・サービスによって保守されます。往復時間とは、クライアント・メッセージが送信され、正常に応答されるのにかかる時間です。	B (18,0)
DPTRTT	マイクロ秒単位の合計往復時間。往復時間全部の合計。往復時間とは、クライアント・メッセージが送信され、正常に応答されるのにかかる時間です。この値を往復回数で除算し、平均往復時間を出します。	B (18,0)
DPRT	往復回数。往復の回数。この値で合計往復時間を除算し、平均往復時間を出します。	B (18,0) 

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMECL

このデータは、トークンリング・ネットワーク・ファイルの項目を含み、トークン・リングのローカル・エリア・ネットワーク (LAN) ファイル内のフィールドをリストしています。トークンリング・プロトコル統計は、トークン・リング・ポートとトークン・リングの LAN エミュレーションをサポートしている ATM ポートに関連した、活動中のトークン・リング回線記述について報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
EIOPI	予約済み	C (1)
ELITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ELLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ELLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
ELTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ELTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ELIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ELIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ELICT	送信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ELICR	受信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ELPRCL	プロトコル・タイプ: E (トークンリング・ネットワーク用)	C (1)
ELRFT	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ELRFR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
ELFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ELFFR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ELRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ELRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ELSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ELSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ELDFT	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ELDFR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ELDMT	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ELDMR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ELN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ELT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
EMFTR	合計送信フレーム数: 送信されたフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMFRV	合計受信フレーム数: 受信されたフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMMFT	MAC 送信フレーム数: 送信された MAC フレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMMFR	MAC フレーム: 受信された MAC フレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRIT	送信された経路指定情報フレーム: 送信された、経路指定情報フィールドを持つフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRIR	受信された経路指定情報フレーム: 受信された、経路指定情報フィールドを持つフレーム (LLC および MAC) の合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMLNE	回線エラー: フレーム検査シーケンス・エラーのコード違反。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMINE	内部エラー: アダプターの内部エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMBRE	バースト・エラー: フレームまたはトークンの開始区切り文字の後に、物理装置によって同じ極性のバーストが検出されています。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMAFE	確認済みアドレス標識エラーまたはコピー済みフレーム標識エラー: 物理制御フィールドの拡張フィールド・エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMABT	異常終了区切り文字: 内部エラーのために送信された異常終了区切り文字。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMLST	消失フレーム: IOA が送信除去状態にあるときに終了した物理トレーラー・タイマー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)



フィールド名	説明	属性
EMRXC	受信輻輳: IOA が使用できる受信のためのバッファがないため、フレームがコピーされませんでした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFCE	コピー済みフレーム・エラー: 特定の宛先アドレスを持つフィールドが、違ったアダプターにコピーされました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFQE	アダプターの頻度エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTKE	トークン・エラー: トークン・タイマーがフレームやトークンを検出せずに終了したアダプター。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMDBE	直接メモリー・アクセス・バス・エラー: IOP/IOA バスの DMA エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMDPE	直接メモリー・アクセス・パリティ・エラー: IOP/IOA の DMA パリティ・エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMANR	アドレス確認不可エラーのあるフレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFNC	フレーム・コピー不可エラーのあるフレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTSE	アダプターのフレーム送信エラーまたはフレーム・ストリップ処理エラーの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUAP	無許可アクセス優先順位: 要求されたアクセス優先順位は未認可です。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUMF	未認可 MAC フレーム: アダプターが、指定されたソース・クラスで MAC フレームを送信することを許可されていないか、MAC フレームに、ゼロのソース・クラスが含まれているか、MAC フレームの物理制御フィールドのアテンション・フィールドが > 1 になっています。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMSFT	ソフト・エラー: アダプターが報告したソフト・エラーの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMTBC	送信されたビーコン・フレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMIOA	IOA 状況オーバーラン: アダプターの中断状況待ち行列のオーバーラン。前の状況が破棄されました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFDC	破棄されたフレームの合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMSIN	MAC がデコードできなかった中断の合計数。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMBRV	正常に受信された MAC バイトの合計: これには、正常に受信されたフレーム内のバイト数が含まれます。これには、受信したマルチキャストやブロードキャスト・フレームのバイトが含まれます。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
EMBTR	正常に送信された MAC バイトの合計: 正常に送信されたバイトの合計数。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (11,0)
EMFNTR	送信されなかったフレームの合計: これには、ハードウェアが時間を超過して完了した送信の信号を出していないために送信できなかったフレームの数が含まれます。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
EMRGUC	リング使用カウント。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。 LAN 使用率 (%) = EMRG*C	PD (11,0)
EMRGSC	リング・サンプル・カウント。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。 LAN 使用率 (%) = EMRG*C	PD (11,0)
EMCVRF	反復フレーム内に検出された FCS またはコード違反: このカウンターは、コード違反のある反復フレームや、フレーム検査順序 (FCS) 巡回冗長検査に失敗した反復フレームごとに増加します。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMFNTR	戻らなかった送信フレーム数: このカウンターは、タイムアウトや他のフレームの受信のために、送信されたフレームがリングから戻らなかった場合に増加します。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMUNDR	アンダーランの数: このカウンターは、DMA カウンターが検出されるごとに増加します。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
EMDUP	回線の二重状況。いくつかの回線では、時間がたつと、この値は変化する可能性があります。このフィールドには、以下のような値が含まれることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• B — 二重状況は通知されていません。</li> <li>• F — 全二重: 回線は、データの送信と受信を同時に行うことができます。</li> <li>• H — 半二重: 回線は、データの送信かデータの受信のいずれかを行うことができますが、データの送信と受信を同時に行うことはできません。</li> </ul>	C (1)
EMUPF	サポートされていないプロトコル・フレーム: サポートされていないプロトコルとして指定されたために破棄されたフレームの数。この数は、破棄されたフレーム・カウンターに含められます。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMETH

このデータは、イーサネット・ファイルを含み、イーサネット・ファイル内のフィールドをリストしていません。イーサネット・プロトコル統計は、イーサネット・ポートとイーサネットの LAN エミュレーションをサポートしている ATM ポートに関連した、活動中のイーサネット回線記述について報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)



フィールド名	説明	属性
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
ETIOPI	予約済み	C (1)
ETTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ETLLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
ETLLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
ETLTFT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLTFR	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
ETLICT	送信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ETLICR	受信されたすべての I フレーム内の文字の合計数。	PD (11,0)
ETLPRCL	プロトコル・タイプ: T (イーサネット)。	C (1)
ETLRFT	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ETLRFR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
ETLFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ETLFFR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
ETLRJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ETLRJT	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
ETLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ETLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
ETLDFT	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ETLDFR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
ETLDMT	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ETLDMR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
ETLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLTIT	TI タイマー (非活動タイマー) が満了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
ETLFRT	I フレームの再送信が発生した回数。	PD (11,0)
ETLBRT	再送信された I フレームのバイト。	PD (11,0)
ETLLBC	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
ETMFTG	エラー・フリーで送信されたフレーム。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMFRG	エラー・フリーで受信されたフレーム。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ETMIFM	インバウンド・フレームの欠落: IOA がレシーバー・バッファ・エラーか、欠落フレームを検出しました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMCRE	CRC エラー: レシーバーが検出したチェックサム・エラー。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMEXR	16 を超える再試行: 再試行が多すぎるために、正常に送信されなかったフレーム。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMOWC	期間外衝突: チャンネルのスロット・タイムが経過した後に発生した衝突。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMALE	位置合わせエラー: インバウンド・フレームに非整数のバイト数と CRC エラーが含まれていました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMCRL	キャリア・ロス: 送信中、IO アダプター上のチップ・セットへのキャリア入力が false です。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTDR	タイム・ドメイン屈折: ケーブル障害までの距離の概算に使用されるカウンター。この値は、最後に発生した「16 を超える再試行」に関連します。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMRBE	受信バッファ・エラー: フレームの受信の際にサイロ・オーバーフローが発生しました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMSPI	不明確な中断: 中断が受信されましたが、認識可能な中断にデコードすることができませんでした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMDIF	破棄されたインバウンド・フレーム: AIF 項目の欠損のため、レシーバーがフレームを破棄しました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMROV	受信オーバーラン: バッファ不足のために、レシーバーが着信フレームのすべて、または一部を失いました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMMEE	メモリー・エラー: IO アダプター上のチップ・セットはバス・マスターですが、これが、DAL** 回線にアドレスを代入するための 25.6 usecs 内に、準備完了信号を受信しませんでした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMIOV	中断オーバーラン: 状況待ち行列項目の不足のため、中断が処理されませんでした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTUN	送信アンダーフロー: データ遅延のため、送信側がメモリーからメッセージを切り捨てました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMBBE	バブル・エラー: 送信側がチャンネル上の最大許容時間を超過しました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMSQE	信号品質エラー: 送信が正常に完了されていることを示す信号が、正常な送信の 2 usecs 内に到着しませんでした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
ETMM1R	送信の再試行 (2 回以上): 正常に送信を行うまでにフレームには 2 回以上の再試行が必要でした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETM1R	送信の再試行 (1 回のみ): 正常に送信を行うまでにフレームには 1 回の再試行が必要でした。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMDCN	据え置き状態: チャンネルが使用中であったために、IO アダプター上のチップ・セットが送信を据え置きました。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMBRV	正常に受信された MAC バイトの合計: これには、正常に受信されたフレーム内のバイト数が含まれます。これには、受信したマルチキャストやブロードキャスト・フレームのバイトが含まれます。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (15,0)
ETMBTR	正常に送信された MAC バイトの合計: 正常に送信されたバイトの合計数。この数には、宛先アドレスから開始して FCS に至るまでの、FCS を除外したすべてが含まれます。ソース・アドレス、宛先アドレス、長さまたはタイプ、パッドが含まれています。	PD (15,0)
ETMFNT	送信されなかったフレームの合計: これには、ハードウェアが時間を超過して完了した送信の信号を出していないために送信できなかったフレームの数が含まれます。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11,0)
ETMMFD	破棄されたメール・フレームの合計。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMTFD	破棄された送信フレーム。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (5,0)
ETMDUP	回線の二重状況。いくつかの回線では、時間がたつと、この値は変化する可能性があります。このフィールドには、以下のような値が含まれることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• B — 二重状況は通知されていません。</li> <li>• F — 全二重: 回線は、データの送信と受信を同時に行うことができます。</li> <li>• H — 半二重: 回線は、データの送信かデータの受信のいずれかを行うことができますが、データの送信と受信を同時に行うことはできません。</li> </ul>	C (1)
ETMUPF	サポートされていないプロトコル・フレーム: サポートされていないプロトコルとして指定されたために破棄されたフレームの数。この数は、破棄されたインバウンド・フレーム・カウンターに含まれます。このフィールドは、ATM の LAN エミュレーションには適用されていません。	PD (11)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMFRLY

このデータには、フレーム・リレー・カウンターの項目が含まれています。QAPMFRLY は、フレーム・リレー・カウンター用のデータベース・ファイルです。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5 0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7 0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
YIOPI	予約済み	C (1)
YITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
YLND	ネットワーク・インターフェース (NWI) 記述: このネットワーク・インターフェースの記述の名前。	C (10)
YLSP	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
YLTF	送信されたフレームの合計数。	PD (11,0)
YLTFR	受信されたフレームの合計数。	PD (11,0)
YLIFT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
YLIFR	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
YLICT	送信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
YLICR	受信された I フレーム文字の合計数。	PD (11,0)
YLPRCL	プロトコル・タイプ: Y (フレーム・リレー用)	C (1)
YLRFT	送信された受信不可 (RNR) フレームの数。	PD (11,0)
YLRFR	受信された受信不可 (RNR) フレームの数。	PD (11,0)
YLFFT	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (11,0)
YLFFR	受信されたフレーム拒否フレームの合計数。	PD (11,0)
YLRJFR	受信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
YLRJFT	送信された拒否フレームの数。	PD (11,0)
YLSFT	送信された拡張非同期平衡モード設定 (SABME) のフレームの数。	PD (11,0)
YLSFR	受信された拡張非同期平衡モード設定 (SABME) のフレームの数。	PD (11,0)
YLDFT	送信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
YLDFR	受信された切断 (DISC) フレームの数。	PD (11,0)
YLDMT	送信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
YLDMR	受信された切断モード (DM) フレームの数。	PD (11,0)
YLN2R	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
YLT1T	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (11,0)
YMLTI	ローカル管理インターフェース (LMI) タイムアウト。	PD (11,0)
YMLSE	ローカル管理インターフェース (LMI) シーケンス・エラー。	PD (11,0)
YMLPE	ローカル管理インターフェース (LMI) プロトコル・エラー。	PD (11,0)
YMPDE	ポート・モニターのデータ・セット・レディー (DSR) エラー。	PD (11,0)
YMPCE	ポート・モニターの送信可 (CTS) エラー。	PD (11,0)
YMMER	MAC エラー。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHDLC

このデータには、ハイレベル・データ・リンク制御 (HDLC) ファイルの項目が含まれています。統計は、HDLC ファイル内のフィールドに対して 1 行を基本に保持されます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場合については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SHIOP	予約済み	C (1)
SHTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SHLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
SHLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
SHBTRN	送信済みバイト: 再送信されたバイトを含む、送信済みバイトの数。	PD (11,0)
SHBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のバイトもすべて含んだ、受信済みバイトの数。	PD (11,0)
SHPRCL	プロトコル・タイプ: S (SDLC)。	C (1)
SHFTRN	再送信されたフレームを除外した、送信済みフレーム (I フレーム、監視フレーム、番号のないフレーム) の数。	PD (11,0)
SHIFTR	再送信された I フレームを除外した、送信済み I フレームの数。	PD (11,0)
SHIFRT	再送信された I フレームの数。	PD (11,0)
SHFRT	再送信された、I フレームと監視フレームと番号のないフレームの数。	PD (11,0)
SHEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしのフレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
SHEFIR	エラー・フリーの受信 I フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
SHFRIE	エラーの受信フレーム数: エラーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしフレームの数。3 つのエラーの可能性があります。(1) 監視フレームまたは I フレームが、フレームの再送信を要求する Nr カウントと共に受信された。(2) I フレームが、フレームが欠落したことを示す Ns カウントと共に受信された。(3) フレームが、検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信された。	PD (11,0)
SHIFR	受信された無効フレーム: 受信された無効フレームの数。これらは次のような状況で受信されたフレームです。(1) 短フレーム・エラーのフレームが 32 ビット未満だった。(2) 残りのエラー・フレームはバイト境界上にはない。	PD (11,0)
SHRRFT	送信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRRFR	受信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRNRT	送信された受信不可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHRNRR	受信された受信不可監視フレームの数。	PD (11,0)
SHLNKR	データ・リンク・リセット: 端末が既に正規応答モードにあるときに、通常応答モード設定 (SNRM) が受信された回数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SHCPT	次のステーションにポーリングする前の、正規切断モードにあるときに、システムが、ポーリングへの応答を待つ時間の長さ (秒)。	PD (3,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPB

このファイルには、IBM<sup>(R)</sup> HTTP Server (powered by Apache) for iSeries<sup>(TM)</sup> カテゴリによって収集されたデータが含まれます。これは、それぞれのサーバー・インスタンスに関連した基本的なデータです。このファイルには、各サーバー・インスタンスごとに、1 間隔につき 1 つのレコードが格納されます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
HTJNAM	サーバー・ジョブ名 (サーバー名): このフィールドと次の 2 つのサーバー・ジョブ・フィールドは、そのサーバーの子ジョブを識別します。	C (10)
HTJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
HTJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
HTSSDT	サーバーの始動日時 (yyyymmddhhmmss): 最新の始動または再始動の日時。	C (14)
HTTHDA	活動状態のスレッド: データのサンプリング時に活動していたスレッドの数。	B (9,0)
HTTHDI	活動停止中のスレッド: データのサンプリング時に活動を停止していたスレッドの数。	B (9,0)
HTNINC	インバウンド接続 (SSL 以外): サーバーによって受け入れられた SSL 以外のインバウンド接続の数。	B (18,0)
HTSINC	インバウンド接続 (SSL): サーバーによって受け入れられた SSL インバウンド接続の数。	B (18,0)
HTRRCV	受信された要求: サーバーが受信した、すべてのタイプの要求の数。	B (18,0)
HTRSND	送信された応答: サーバーが送信した、すべてのタイプの応答の数。	B (18,0)
HTBRQR	拒否された要求: 受信されたが、無効であった要求の数。	B (18,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMHTTPD

このファイルには、HTTP Server (powered by Apache) カテゴリによって収集された詳細データが含まれます。これには、サーバーが処理するさまざまな要求タイプに関して報告されるデータが含まれます。活動状態の各サーバー、および各間隔ごとに、構成されているそれぞれの要求タイプにつき 1 つのレコードがこのファイルに書き込まれます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

注: 要求タイプによってデータが処理されたかどうかにかかわらず、サーバーに関して構成されているすべての要求タイプが報告されます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
HTJNAM	サーバー・ジョブ名 (サーバー名): このフィールドと次の 2 つのサーバー・ジョブ・フィールドは、そのサーバーの子ジョブを識別します。	C (10)
HTJUSR	サーバー・ジョブ・ユーザー。	C (10)
HTJNBR	サーバー・ジョブ番号。	C (6)
HTRTYP	要求タイプ: このレコードによって報告される要求タイプを識別します。通常、次のような値になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SR - サーバーによって内部的に処理された要求</li> <li>• SL - SSL を介して受信されたすべてのタイプの要求 (SSL は、実際には要求タイプではありません。このレコードは SSL 接続を介して発生した活動を報告します。それらの活動は、該当する他の要求タイプでも報告されます。)</li> <li>• PX - プロキシ要求</li> <li>• CG - CGI 要求</li> <li>• WS - WebSphere<sup>(R)</sup> 要求</li> <li>• JV - IBM<sup>(R)</sup> Java<sup>(TM)</sup> Servlet Engine 要求</li> <li>• UM - ユーザー・モジュールによって処理された要求</li> <li>• FS - FRCA (Fast Response Cache Accelerator) によって処理された静的要求</li> <li>• FX - FRCA によってプロキシ処理された要求</li> </ul>	C (2)
HTRQSR	受信された要求。	B (18,0)
HTRQSS	送信された応答。	B (18,0)
HTBRQS	送信されたエラー応答。	B (18,0)
HTNOCR	処理された、キャッシュされない要求。 注: 要求タイプ SL、CG、WS、JV、および UM はキャッシュが使用されないため、このフィールドはこれらの要求タイプ用に予約されています。	B (18,0)
HTBRCV	受信されたバイト数。	B (18,0)
HTBSND	送信されたバイト数。	B (18,0)
HTNRMT	キャッシュされない要求の処理時間 (ミリ秒)。	B (9,0)
HTCRTM	キャッシュされる要求の処理時間 (ミリ秒)。 注: 要求タイプ SL、CG、WS、JV、および UM はキャッシュが使用されないため、このフィールドはこれらの要求タイプ用に予約されています。	B (9,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIDLC

このデータには、サービス総合デジタル網 (ISDN) データ・リンク制御ファイル項目が含まれており、ISDN データ・リンク制御 (IDLC) ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。



フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
ISIOP	予約済み	C (1)
ISTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
ISLND	回線記述: 回線記述の名前。	C (10)
ISNWI	ネットワーク・インターフェース記述: ネットワーク・インターフェース記述の名前。	C (10)
ISLSP	リンク速度: このチャンネルの速度 (ビット/秒単位)。	PD (11,0)
ISPRCL	プロトコル・タイプ: I (IDLC)。	C (1)
ILCRCE	受信 CRC エラー: サイクル冗長検査 (CRC) エラーがあった受信フレームの数。	PD (11,0)
ILSFE	短フレーム・エラー: 受信した短フレームの数。短フレームは、開始フラグと終了フラグとの間のオクテットが許容限界より少ないフレームです。	PD (11,0)
ILORUN	受信オーバーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが着信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
ILURUN	送信アンダーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが発信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
ILABRT	打ち切り受信数: 受信したフレームに HDLC 打ち切り標識が含まれていたフレームの数。	PD (11,0)
ILFRIE	エラーの受信フレーム数: 受信 (CRC) エラー、短フレーム・エラー、受信オーバーラン、送信アンダーラン、打ち切り受信数、およびフレーム・シーケンス・エラー (ILCRCE、ILSFE、ILORUN、ILURUN、ILABRT、ISSEQE) の合計。	PD (11,0)
ISFRT	再送信されたフレーム。	PD (11,0)
ISSEQE	シーケンス・エラー: フレームが失われたことを示す順序番号が入った受信フレームの数。	PD (11,0)
ISFTRN	送信フレームの合計数: これには、リモート・リンク・ステーションに送信された情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたフレーム、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたフレームも含まれます。	PD (11,0)
ISFRCV	受信フレーム数の合計数: これには、リモート・リンク・ステーションから受信した情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
ISBTRN	送信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションに送信したバイトの合計数。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたバイト、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたバイトも含まれます。	PD (11,0)
ISBRVC	受信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションから受信したバイトの合計数。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
ISB1	B1 チャンネル: B1 チャンネルが使用されていた場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)
ISB2	B2 チャンネル: B2 チャンネルが使用されていた場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)



フィールド名	説明	属性
ISCHAN	使用されている B チャンネル: 使用されている B チャンネルは、このフィールドが 1 に設定されているときに、この中に含まれているビットと関連しています。ビット 0 (最大重みビット (MSB)) と 31 (最小重みビット (LSB)) は予約済みです。ビット 1 から 30 は、それぞれ、B チャンネル 30 から 1 に関連しています。	C (4)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMIOPD

この表は、IOP 拡張データ・ファイル内のフィールドをリストします。➤ ネットワーク・サーバー (\*IPCS カテゴリ)、および入出力アダプター (\*IOPBASEカテゴリ) に関するデータが報告されます。ネットワーク・サーバーのデータには、統合 xSeries (Integrated xSeries<sup>(R)</sup>) サーバー・データ、および仮想入出力データが含まれます。仮想入出力データは、使用中の仮想装置ごとに 1 つのレコードで構成されます。同時メンテナンスが実行される場合 (IOP の下でのハードウェアの追加または除去)、ユーザーはコレクターを循環させて、入出力アダプター・データが確実に正しく報告されるようにする必要があります。⚡ 収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。➤ オペレーティング・システム・データ (データ・タイプ 2) の場合、この値は、間隔の間隔日時 (DTETIM) での変更と同じでないことがあります。これは、経過した間隔時間が統合 xSeries サーバーから直接来るためです。⚡	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
XIIOP	予約済み	C (1)
XITYPE	このレコードに表示されている IOP のタイプ。	C (4)
XIDTYP	データ・タイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 — 予約済み</li> <li>• 2 — OS/2<sup>(R)</sup> その他のオペレーティング・システム (*IPCS カテゴリ)</li> <li>• 3 — HPF386 (*IPCS カテゴリ)</li> <li>• 4 — LAN サーバー (*IPCS カテゴリ)</li> <li>• ➤ 5 — 仮想入出力 (*IPCS カテゴリ)⚡</li> <li>• A — 入出力アダプター (*IOPBASE カテゴリ)</li> </ul>	C (1)
XIDTA1	データ・フィールド 1	C (2)
XIDTA2	データ・フィールド 2	C (12)
XICT01	カウンター 1	PD (11)
XICT02	カウンター 2	PD (11)
XICT03	カウンター 3	PD (11)
XICT04	カウンター 4	PD (11)
XICT05	カウンター 5	PD (11)
XICT06	カウンター 6	PD (11)

フィールド名	説明	属性
XICT07	カウンター 7	PD (11)
XICT08	カウンター 8	PD (11)
XICT09	カウンター 9	PD (11)
XICT10	カウンター 10	PD (11)
XICT11	カウンター 11	PD (11)
XICT12	カウンター 12	PD (11)
XICT13	カウンター 13	PD (11)
XICT14	カウンター 14	PD (11)
XICT15	カウンター 15	PD (11)
XICT16	カウンター 16	PD (11)
XICT17	カウンター 17	PD (11)
XICT18	カウンター 18	PD (11)
XICT19	カウンター 19	PD (11)
XICT20	カウンター 20	PD (11)
XICT21	カウンター 21	PD (11)
XICT22	カウンター 22	PD (11)
XICT23	カウンター 23	PD (11)
XICT24	カウンター 24	PD (11)
XICT25	カウンター 25	PD (11)
XICT26	カウンター 26	PD (11)
XICT27	カウンター 27	PD (11)
XICT28	カウンター 28	PD (11)
XICT29	カウンター 29	PD (11)
XICT30	カウンター 30	PD (11)
XICT31	カウンター 31	PD (11)
XICT32	カウンター 32	PD (11)
XICT33	カウンター 33	PD (11)
XICT34	カウンター 34	PD (11)
XICT35	カウンター 35	PD (11)
XICT36	カウンター 36	PD (11)
XICT37	カウンター 37	PD (11)
XICT38	カウンター 38	PD (11)
XICT39	カウンター 39	PD (11)
XICT40	カウンター 40	PD (11)
XICT41	カウンター 41	PD (11)
XICT42	カウンター 42	PD (11)
XICT43	カウンター 43	PD (11)
XICT44	カウンター 44	PD (11)
XICT45	カウンター 45	PD (11)
XICT46	カウンター 46	PD (11)
XICT47	カウンター 47	PD (11)


フィールド名	説明	属性
XICT48	カウンター 48	PD (11)
XICT49	カウンター 49	PD (11)
XICT50	カウンター 50	PD (11)
XIADRN	アダプター資源名: 報告された資源がアダプターである場合は、このフィールドにはそのアダプターの資源名が入ります。報告された資源が IOP である場合は、このフィールドにはその IOP の資源名が入ります。	C (10)
 XINWSD	ネットワーク・サーバーの記述名 (ネットワーク・サーバー (NWSD) 名が適用外である場合ブランクが報告される)。	C (10) 

注:

以下の表は、使用されるカウンターのタイプを表示しています。

**D (デルタ・カウンター):** 間隔内の発生回数 (ほとんどのパフォーマンス・カウンターはこのタイプです)。

**S (状態カウンター):** コレクション時の値、または間隔内の最大値。

<b>XIDTYP = '1' (予約済み)</b>	
<b>XIDTYP = '2' (OS/2 またはその他のオペレーティング・システム)</b>	
カウンター	説明
(CTO1) D	CPU 時間 (ミリ秒)。複数のプロセッサを持つアダプターの場合、この値はシングル・プロセッサの範囲に正規化されます。
(CTO2) D	スレッドがスケジュール変更された回数。
(CTO3) D	中断の数。
(CTO4) D	中断にかかった CPU 時間 (ミリ秒)。
(CTO5) D	ページ障害の数。
(CTO6) D	スワップイン・ページの数。
(CTO7) D	要求時ロードされたページ数。
(CTO8) D	スワップアウトされたページ数。
(CTO9) D	破棄されたページ数。
(CT10) D	回復されたアイドル・ページ数。
(CT11) D	アイドル・ページ数。
(CT12) D	再割り当てされたアイドル・ページ数。
(CT13) S	空き待ち行列内の要素の数。
(CT14) S	空き待ち行列内の時間要素の長さ (ミリ秒)。
(CT15) S	使用済み待ち行列内の要素の数。
(CT16) S	使用済み待ち行列内の時間要素の長さ (ミリ秒)。
<b>XIDTYP = '3' (HPFS386)</b>	
<b>XIDTYP = '4' (LAN サーバー)</b>	
レコード・タイプ 3 (HPFS386) および 4 (LAN サーバー) はすでにサポートされなくなった機能を表しています。レコード・タイプ 3 および 4 に関する情報については、V5R1 Supplemental Manuals Web サイトの V4R4 実行管理の手引き  (SD88-5009-03) を参照してください。	

XIDTYP = '5' (仮想入出力)	
カウンター	説明
(DTA1) S	仮想装置のタイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>・ '1' = アダプター</li> <li>・ '2' = ディスク</li> <li>・ '3' = 光ディスク</li> <li>・ '4' = テープ</li> </ul>
(DTA2) S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 から 10 文字: 仮想装置名。注: テープおよび光ディスク装置の場合、これは装置資源名です。ディスク装置の場合は、ネットワーク・サーバー記憶域スペースの名前です。</li> <li>・ 11 から 12 文字: 予約済み (ブランク)。</li> </ul>
(CTO1) D	読み取り操作
(CTO2) D	書き込み操作
(CTO3) D	その他の操作
(CTO4) D	エラーになった操作
(CTO5) D	仮想装置から読み取られるキロバイト
(CTO6) D	仮想装置に書き出されるキロバイト
(CTO7) S	予約済み
(CTO8) S	予約済み ◀
XIDTYP = 'A'(入出力アダプター・データ)	
(DTA1) S:	予約済み (ブランク)
(DTA2) S:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字 1 から 4: 入出力アダプター・タイプ</li> <li>・ 文字 5 から 7: 入出力アダプター・モデル</li> <li>・ 文字 8 から 12: 予約済み (ブランク)</li> </ul>
(CTO1) D:	アダプター時間: 1 次 IOP プロセッサーで実行しているアダプター・タスクによる処理時間の合計。アダプター・タスクは、アダプターとそれに接続されたハードウェアをサポートします。一部の旧式の IOP (例: 6112) の場合、アダプター時間は報告されません。

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBMI

これらのデータベース・ファイルの項目には、\*JOBMI カテゴリで収集されるタスク、1 次および 2 次スレッド・データが含まれます。「ジョブ」とは、ジョブ、タスク、またはスレッドを暗に示します。収集サービスが提供するものは、一定の間隔内で CPU を消費するジョブに関するデータのみです。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)


フィールド名	説明	属性
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (16)
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBTYPE	ジョブ・タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A: 自動開始</li> <li>• B: バッチ</li> <li>• I: 対話式</li> <li>• M: サブシステム・モニター</li> <li>• R: スプール読み取りプログラム</li> <li>• S: システム</li> <li>• V: SLIC タスク</li> <li>• W: スプール書き出しプログラム</li> <li>• X: SCPF ジョブ</li> </ul>	C (1)
JBSTYP	ジョブ・サブタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• T: MRT (システム/36 (System/36<sup>TM</sup>) 環境のみ)</li> <li>• E: Evoke (通信バッチ)</li> <li>• P: 印刷ドライバー・ジョブ</li> <li>• J: 事前開始ジョブ</li> <li>• F: M36 (アドバンスト/36 サーバー・ジョブ)</li> <li>• D: バッチ即時ジョブ</li> <li>• U: 代替スプール・ユーザー</li> </ul>	C (1)
JBSTSF	状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 通常の間隔のコレクション</li> <li>• 1 — 間隔内で開始したジョブ</li> <li>• 2 — 間隔内で終了したジョブ</li> <li>• 3 — 開始し、終了したジョブ</li> </ul> 注: 経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。	PD (1,0)
JBTYP	タスク・タイプ (01: 常駐タスク、 02: 監視プログラム・タスク、 03: MI プロセス・タスク、 04: S36 エミュレーション・タスク)。	C (2)
JBTYIE	78 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー』。	C (2)
JBPOOL	ジョブ・プール。	C (2)
JBPRTY	ジョブ優先順位。	C (3)
JBCPU	使用された処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (15,3)
JBRSP	合計トランザクション時間 (秒単位)。	PD (15,3)
JBSLC	タイム・スライス値 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBNTTR	トランザクションの数。	PD (11,0)
JBDBR	同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBNDDB	同期的な非データベースの読み取りの数: 非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBWRT	書き出しの数: 物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBAW	このジョブでの活動状態から待ち状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBWI	このジョブでの待ち状態から不適格状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBAI	このジョブでの活動状態から不適格状態への変更の合計数。	PD (11,0)
JBNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBDBW	同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JBANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JBPW	同期的な永続的書き出しの数。	PD (11,0)
JBPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
JBOBIN	2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBODEC	10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
JBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
JBWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
JBSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。	PD (15,3)
JBSKSC	ソケット送信の数。	PD (11,0)
JBSKBS	送信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JBSKRC	ソケット受信の数。	PD (11,0)
JBSKBR	受信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JBXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
JBXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
JBTCPU	合計ジョブ CPU 時間 (ミリ秒単位)。マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された合計 CPU 時間。これらの値の収集と報告には時間のずれがあるため、これは、すべてのジョブ・スレッドの JBCPU の合計と等しくはならない可能性があります。	PD (15,3)



フィールド名	説明	属性
JBTHDF	2 次スレッド・フラグ。マルチスレッド・ジョブの 2 次スレッドを識別します。値は、タスクおよび 1 次スレッドの場合は 0、2 次スレッドの場合は 1 です。	PD (1,0)
JBTHID	スレッド ID。4 バイトの表示可能スレッド ID。プロセス内でのスレッドで固有の HEX ストリング。タスクおよび以前のリリースのデータの場合は空白です。	C (8)
JBTHAC	活動状態のスレッド。データのサンプリング時にプロセス内で活動状態になっていたスレッドの数 (その時点での)。活動状態スレッドは、その資源に対して活動状態で実行、中断、または待機のいずれかを行っていることが考えられます。1 次スレッドも含まれます。	PD (11,0)
JBTHCT	作成されたスレッド。このジョブで開始されたスレッドの数。活動状態のスレッドと終了されたスレッドの両方を含みます。	PD (11,0)
JBMTXT	mutex 待ち時間 (ミリ秒単位)。スレッドが mutex を待っている累積時間。	PD (15,3)
JBIBM1	予約済み	PD (11,0)
JBINSX	予約済み	PD (11,0)
JBSVIF	サーバー対話式フラグ。機能によって消費される資源がシステムの対話型のフィーチャーに充てられている場合、1 に設定されます。	C (1)
JBTFLT	ページ不在の合計。	PD (11,0)
JBTDE	システム・タスク ID。	C (8)
JBPTDE	1 次スレッド ID。	C (8)
JBLDUM	予約済み	PD (1,0)
JBEDBC	データベース CPU 時間。単一のスレッドまたはタスクにおいてデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。このフィールドは、個々のタスクまたはスレッドごとに作成されます。マルチスレッド・ジョブの場合、値はスレッド間で合計されていません。	P (15,3)
JBTDBC	データベース CPU 時間の合計。マルチスレッド化されたジョブのすべてのスレッドでデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。 注: これは、ジョブ内のすべてのスレッドにおける JBEDBC の総計とは異なる場合があります。このフィールドは、1 次スレッドに対してのみ作成されます。	P (15,3)
JBCOP	タスクの下で実行された 1 次コミット操作の回数。	PD (11,0)
JBCOS	タスクの下で実行された 2 次コミット操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミットも含まれます。	PD (11,0)
JBDOP	タスクの下で実行された 1 次コミット解除操作の回数。	PD (11,0)
JBDOS	タスクの下で実行された 2 次コミット解除操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミット解除も含まれます。	PD (11,0)
JBPJE	タスクの下で実行されたディスクへの物理ジャーナル書き込み操作の回数。	PD (11,0)
JBNSJE	SMAPP に直接関連していないジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBUJD	ユーザー提供のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBSJD	システム提供 (デフォルト) のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBBFW	ディスクに書き込まれたジャーナル・バイトの数。これらの項目は、ジャーナル・レシーバーの永続域にパッケージされます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
JBBFA	ジャーナル・レシーバーの永続域に保管されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれたバイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBTW	ディスクに書き込まれた一時域ジャーナル・レシーバー・バイトの数。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBBTA	ジャーナル・レシーバーの一時域用に生成されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれた一時バイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBTWT	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機するのに費やした時間の長さ (ミリ秒)。これには、サービスを受けるタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれるほか、同じジャーナル・バンドルに常駐するジャーナル項目を持つ他のタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれます。	PD (11,0)
JBTNW	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機した回数。	PD (11,0)
JBXRRR	ランダム・ストリーム・ファイル読み取り操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRRW	ランダム・ストリーム・ファイル書き込み操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRFS	fsync 操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRBR	ストリーム・ファイルの読み取られたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBXRBW	ストリーム・ファイルの書き込まれたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBFSH	サーバー認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBASH	サーバー認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェークの数。	PD (11,0)
JBFSHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェークの数。	PD (11,0)
JBASHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェークの数。	PD (11,0)
JBPGA	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振られている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBPGD	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振り解除されている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBCUSR	データがサンプルとされたときにジョブが実行していたユーザー・プロフィール。	C (10) 

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBOS

これらのデータベース・ファイル項目には、OS/400<sup>(R)</sup> のジョブに固有なデータが含まれています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTCEN	世紀桁。	C (1)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	C (10)
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBTYPE	ジョブ・タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A: 自動開始</li> <li>• B: バッチ</li> <li>• I: 対話式</li> <li>• M: サブシステム・モニター</li> <li>• R: スプール読み取りプログラム</li> <li>• S: システム</li> <li>• V: SLIC タスク</li> <li>• W: スプール書き出しプログラム</li> <li>• X: SCPF ジョブ</li> </ul>	C (1)

フィールド名	説明	属性
JBSTYP	<p>ジョブ・サブタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• T: MRT (システム/36 (System/36<sup>TM</sup>) 環境のみ)</li> <li>• E: Evoke (通信バッチ)</li> <li>• P: 印刷ドライバー・ジョブ</li> <li>• J: 事前開始ジョブ</li> <li>• F: M36 (アドバンスト/36 サーバー・ジョブ)</li> <li>• D: バッチ即時ジョブ</li> <li>• U: 代替スプール・ユーザー</li> </ul>	C (1)
JBSTSF	<p>状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 通常の間隔のコレクション</li> <li>• 1 — 間隔内で開始したジョブ</li> <li>• 2 — 間隔内で終了したジョブ</li> <li>• 3 — 開始し、終了したジョブ</li> </ul> <p>注: 経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。</p>	PD (1,0)
JBSSYS	ジョブが実行されているサブシステムの名前。	C (10)
JBSLIB	サブシステム記述が含まれているライブラリーの名前。	C (10)
JBROUT	このジョブが実行されるサブシステムの経路指定項目の索引。	PD (5,0)
JBACCO	ジョブ・アカウンティング・コード。フィールドは表示できません。	C (15)
JBRSP	<p>合計トランザクション時間 (秒単位)。</p> <p>注: いくつかの OS/400 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。</p>	PD (15,3)
JBNTR	<p>トランザクションの数。</p> <p>注: いくつかの OS/400 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。</p>	PD (11,0)
JBAIQT	アプリケーション入力のキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。	PD (15,1)
JBNAIQ	アプリケーション入力のキューイング・トランザクションの数。	PD (11,0)
JBRUT	資源使用時間の合計 (秒単位)。	PD (15,3)
JBNRU	資源使用トランザクションの数。	PD (11,0)
JBPLN	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成または印刷される場合があります。	PD (11,0)
JBPPG	印刷ページの数。	PD (11,0)
JBPFL	印刷ファイルの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBLWT	データベース書き出しの数 (論理): 内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、 CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。 SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JBLRD	データベース読み取りの数 (論理): データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、 CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。 SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JBDBU	さまざまなデータベース操作の数: 更新、削除、データの強制終了、コミット、ロールバック、および解放 (論理)。	PD (11,0)
JBCPT	通信書き出しの数: これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。 OS/400-ICF 装置に関する入出力の場合、 OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。	PD (11,0)
JBCGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。 OS/400-ICF 装置に関する入出力の場合、 OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。	PD (11,0)
JBSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBLND	回線記述: このワークステーションとその制御装置が接続されている通信回線の名前。これはリモート・ワークステーションの場合にのみ使用可能です。	C (10)
JBCUD	制御装置記述: このワークステーションが接続されている制御装置の名前。	C (10)
JB2LND	2 次回線記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。	C (10)
JB2CUD	2 次制御装置記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。	C (10)
JBIRN	IOP 資源名。	C (10)
JBDRN	装置の資源名。	C (10)
JBPORT	ワークステーションのポート番号。	PD (3,0)
JBSTN	ワークステーション番号。	PD (3,0)
JBPTSF	パススルー・ソース・フラグ。	PD (1,0)
JBPTTF	パススルー・ターゲット・フラグ。	PD (1,0)
JBEAF	エミュレーション活動状態フラグ。	PD (1,0)
JBPCSF	iSeries <sup>(TM)</sup> Access アプリケーション・フラグ。	PD (1,0)
JBDDMF	ターゲット DDM ジョブ・フラグ。	PD (1,0)
JBMRTF	MRT フラグ。	PD (1,0)
JBS36E	ジョブがシステム/36 環境で実行されているか? (Y/N)	C (1)
JBQT	MRT を入力するためのキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。	PD (11,0)
JBMMT	MRTMAX で経過した合計時間 (秒単位)。	PD (11,0)
JBNEQT	MRT への項目の合計数。	PD (11,0)
JBPUTN	ユーザーまたは制御データを送信するために、ACPUT が呼び出された回数。データが送信されない呼び出しは含まれません。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBPUTA	ユーザーのプログラムによって送信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。	PD (11,0)
JBGETN	ユーザーまたは制御データを受信するために、ACGET が呼び出された回数。ユーザー・アプリケーションにデータを提供しない呼び出しは含まれません。	PD (11,0)
JBGETA	ユーザーのプログラムによって受信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。	PD (11,0)
JBPGIN	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔の数。	PD (11,0)
JBPGIL	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBGGIL	取得連鎖の最初の取得が完了した時点で始まり、新しい連鎖の最初の取得が発行された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBRTI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を送信するために発行された要求入出力コマンドの数です。	PD (11,0)
JBRI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を受信するために発行された REQIO の数です。	PD (11,0)
JBXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
JBDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBSJNM	実行依頼者のジョブ名。	C (10)
JBSJUS	実行依頼者のジョブのユーザー。	C (10)
JBSJNB	実行依頼者のジョブ番号。	C (6)
JBSJFG	発行されたジョブ・フラグ。このフラグは、ローカルで発行されたジョブを、リモート・システムから発行されたジョブと区別するために設計されています。現時点でこのフラグがサポートしているのは、ローカルで発行されたジョブのみです。	C (1)
JBRSYS	予約済み	C (10)
JBDEVN	予約済み	C (10)
JBRLNM	予約済み	C (8)
JBLLNM	予約済み	C (8)
JBMODE	予約済み	C (8)
JBRMNT	予約済み	C (8)
JBBUP	予約済み	PD (11,0)
JBBDL	予約済み	PD (11,0)
JBBFE	予約済み	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
JBBCO	予約済み	PD (11,0)
JBBRO	予約済み	PD (11,0)
JBLBO	予約済み	PD (11,0)
JBLBC	予約済み	PD (11,0)
JBLBI	予約済み	PD (11,0)
JLBBS	予約済み	PD (11,0)
JBDQS	予約済み	PD (11,0)
JBDQR	予約済み	PD (11,0)
JBNDA	予約済み	PD (11,0)
JBNUS	予約済み	PD (11,0)
JBSIT1	予約済み	PD (11,0)
JBSIT2	予約済み	PD (11,0)
JBSIT3	予約済み	PD (11,0)
JBGRUP	ジョブ・グループ。	C (3)
JBTDE	システム・タスク ID。このフィールドは表示できません。	C (8)
JBFLAG	ジョブ・フラグ (注を参照)。フィールドは表示できません。	C (2)
JBSVRT	サーバー・タイプ。ジョブによって表されているサーバーのタイプ。値が空白 (または空白・スペース) である場合そのジョブはサーバーの一部ではないことを示しています。	C (30)
JBFSOPN	ファイル・システムのオープン。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDC	ファイル・システム・ディレクトリーの作成。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDC	ファイル・システムのディレクトリー以外の作成。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの作成操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDD	ファイル・システム・ディレクトリーの削除。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDD	ファイル・システムのディレクトリー以外の削除。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの削除操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)

注:

ジョブ・フラグ:

ビット
-----

0 パススルー・サービス
1 パススルー・ターゲット
2 エミュレーション活動状態
3 iSeries Access アプリケーション
4 ターゲット DDM ジョブ
5 MRT
6-15 未使用

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBS および QAPMJOB

QAPMJOB ファイルはパフォーマンス・モニターとの互換性を持たせるために用意されており、QAPMJOBMI ファイルと QAPMJOBOS ファイルの間でデータを結合させます。QAPMJOBS ファイルは、パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドを使用して、パフォーマンス・モニター・データベース・ファイルを新しいリリースにマイグレーションする際に作成されます。収集サービスでは QAPMJOBS ファイルは作成されません。

データベース・ファイルには、各ジョブ、タスク、またはスレッドごとのデータ (ジョブ、タスク、またはスレッドごとに 1 つのレコード) が含まれています。収集サービスが提供するものは、一定の間隔内で CPU を消費するジョブに関するデータのみです。「ジョブ」は、ジョブ、タスク、またはスレッドを意味します。このファイル内のデータは、\*JOBMI および \*JOBOS カテゴリからのものです。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場合については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
JBSSYS	ジョブが実行されているサブシステムの名前。	C (10)
JBSLIB	サブシステム記述が含まれているライブラリーの名前。	C (10)
JBNAME	ジョブ名/ワークステーション名。	» C (16) «
JBUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JBNBR	ジョブ番号。	C (6)
JBACCO	ジョブ・アカウント・コード。フィールドは表示できません。	C (15)
JBTYPE	ジョブ・タイプ (A: 自動開始、B: バッチ、I: 対話式、M: サブシステム・モニター、R: スプール読み取りプログラム、S: システム、V: SLIC タスク、W: スプール書き出しプログラム、X: SCPF ジョブ)。	C (1)
JBSTYP	ジョブ・サブタイプ。 (T: MRT (システム/36 (System/36 <sup>TM</sup> ) 環境のみ)、E: 呼び出し (通信バッチ)、P: 印刷ドライバー・ジョブ、J: 事前開始ジョブ、F: M36 (アドバンスド/36 サーバー・ジョブ)、D: バッチ即時ジョブ、U: 代替スプール・ユーザー)	C (1)
JBTYP	タスク・タイプ。 (01: 常駐タスク、02: 監視プログラム・タスク、03: MI プロセス・タスク、04: S36 エミュレーション・タスク)	C (2)

フィールド名	説明	属性
JBTTYE	タスク・タイプ・エクステンダー。タスク・タイプ・エクステンダーの詳細については、78ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー』での定義を参照してください。(注1を参照。)	C (2)
JBFLAG	ジョブ・フラグ。(ビット0: パススルー・ソース、1: パススルー・ターゲット、2: エミュレーション活動状態、3: iSeries <sup>TM</sup> Access アプリケーション、4: ターゲット DDM ジョブ、5: MRT、6-15: 使用されない) フィールドは表示できません。	C (2)
JBS36E	ジョブがシステム/36環境で実行されているか? (Y/N)	C (1)
JBPOOL	ジョブ・プール。	C (2)
JBPRTY	ジョブ優先順位。	C (3)
JBCPU	使用された処理装置時間 (ミリ秒単位)。(注2を参照。)	PD (15,3)
JBRSP	合計トランザクション時間 (秒単位)。いくつかの OS/400 <sup>®</sup> 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。	PD (15,3)
JBSLC	タイム・スライス値 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JBNTR	トランザクションの数。いくつかの OS/400 機能がトランザクションの概念をサポートしています。トランザクションの定義およびトランザクションの特性は、ジョブのタイプまたはジョブの特定の機能によって異なります。対話式ジョブの場合、表示入出力トランザクションも含まれます。トランザクションは、ワークステーションからの入力を検出した時点で開始され、キーボードがアンロックされた時点で終了します。SNADS ジョブの場合、トランザクションは配布の処理です。	PD (11,0)
JBDBR	同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBNDDB	同期的な非データベースの読み取りの数: 非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBWRT	書き出しの数: 物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBAW	このジョブでの活動状態から待ち状態への変更の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBWI	このジョブでの待ち状態から不適格状態への変更の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBAI	このジョブでの活動状態から不適格状態への変更の合計数。(注2を参照。)	PD (11,0)
JBPLN	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成または印刷される場合があります。(注3を参照。)	PD (11,0)
JBPPG	印刷ページの数。(注3を参照。)	PD (11,0)
JBPFL	印刷ファイルの数。(注3を参照。)	PD (11,0)
JBLWT	データベース書き出しの数 (論理): 内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。(注3を参照。)	PD (11,0)


フィールド名	説明	属性
JBLRD	データベース読み取りの数 (論理): データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBDBU	さまざまなデータベース操作の数: 更新、削除、データの強制終了、コミット、ロールバック、および解放 (論理)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBCPT	通信書き出しの数: これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。OS/400-ICF 装置に関する入出力の場合、OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBCGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。OS/400-ICF 装置に関する入出力の場合、OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBLND	回線記述: このワークステーションとその制御装置が接続されている通信回線の名前。これはリモート・ワークステーションの場合にのみ使用可能です。(注 3 を参照。)	C (10)
JBCUD	制御装置記述: このワークステーションが接続されている制御装置の名前。(注 3 を参照。)	C (10)
JB2LND	2 次回線記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。(注 3 を参照。)	C (10)
JB2CUD	2 次制御装置記述 (パススルーおよびエミュレーションのみ)。(注 3 を参照。)	C (10)
JBRG	予約済み	PD (9,0)
JBPRG	予約済み	PD (9,0)
JBNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBDBW	同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBPW	同期的な永続的書き出しの数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBCS	予約済み	PD (11,0)
JBPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプレメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBEAO	予約済み	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBOBIN	2 進数オーバーフローの数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBODEC	10 進数オーバーフローの数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBIRN	IOP 資源名。(注 3 を参照。)	C (10)
JBDRN	装置の資源名。(注 3 を参照。)	C (10)
JIOPB	予約済み	PD (3,0)
JIOPA	予約済み	PD (3,0)
JBPORT	ワークステーションのポート番号。(注 3 を参照。)	PD (3,0)
JBSTN	ワークステーション番号。(注 3 を参照。)	PD (3,0)
JBPTSF	パススルー・ソース・フラグ。	PD (1,0)
JBPTTF	パススルー・ターゲット・フラグ。	PD (1,0)
JBEAF	エミュレーション活動状態フラグ。	PD (1,0)
JBPCSF	iSeries Access アプリケーション・フラグ	PD (1,0)
JBDDMF	ターゲット DDM ジョブ・フラグ。	PD (1,0)
JBMRTF	MRT フラグ。	PD (1,0)
JBROUT	このジョブが実行されるサブシステムの経路指定項目の索引。	PD (5,0)
JBAPT	予約済み	PD (11,0)
JBNSW	予約済み	PD (11,0)
JBSST	予約済み	PD (11,0)
JBQT2	予約済み	PD (11,0)
JBCDR	予約済み	PD (11,0)
JBCDS	予約済み	PD (11,0)
JBAIQT	アプリケーション入力のキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (15,1)
JBNAIQ	アプリケーション入力のキューイング・トランザクションの数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBRUT	資源使用時間の合計 (秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (15,3)
JBNRU	資源使用トランザクションの数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBQT	MRT を入力するためのキューイング時間の合計 (100 分の 1 秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBMMT	MRTMAX で経過した合計時間 (秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBNEQT	MRT への項目の合計数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBPUTN	ユーザーまたは制御データを送信するために、ACPUT が呼び出された回数。データが送信されない呼び出しは含まれません。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBPUTA	ユーザーのプログラムによって送信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。(注 3 を参照。)	PD (11,0)


フィールド名	説明	属性
JBGETN	ユーザーまたは制御データを受信するために、ACGET が呼び出された回数。ユーザー・アプリケーションにデータを提供しない呼び出しは含まれません。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBGETA	ユーザーのプログラムによって受信されたユーザーおよび制御データの量の合計。この値には、LLID、MAPNAME、または FMH-7 データ長は含まれません。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBPGIN	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔の数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBPGIL	連鎖の最初の書き込みで始まり、CD がユーザーに戻された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBGGIL	取得連鎖の最初の取得が完了した時点で始まり、新しい連鎖の最初の取得が発行された時点で終わる間隔で経過した時間 (ミリ秒単位)。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBRTI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を送信するために発行された要求入出力コマンドの数です。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBRRRI	これは、何らかのデータ (FMH-7 を含む) を受信するために発行された REQIO の数です。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。(注 2 を参照。)	PD (15,3)
JBSKSC	ソケット送信の数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBSKBS	送信されたソケット・バイトの数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBSKRC	ソケット受信の数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBSKBR	受信されたソケット・バイトの数。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。(注 2 を参照。)	PD (11,0)
JBXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
JBSJNM	実行依頼者のジョブ名。(注 3 を参照。)	C (10)
JBSJUS	実行依頼者のジョブのユーザー。ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。(注 3 を参照。)	C (10)
JBSJNB	実行依頼者のジョブ番号。(注 3 を参照。)	C (6)
JBSJFG	発行されたジョブ・フラグ。このフラグは、ローカルで発行されたジョブを、リモート・システムから発行されたジョブと区別するために設計されています。現時点でこのフラグがサポートしているのは、ローカルで発行されたジョブのみです。(注 3 を参照。)	C (1)
JBRSYS	予約済み	C (10)
JBDEVN	予約済み	C (10)
JBRLNM	予約済み	C (8)
JBLLNM	予約済み	C (8)
JBMODE	予約済み	C (8)
JBRMNT	予約済み	C (8)
JBINSX	予約済み	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
JBBUP	予約済み	PD (11,0)
JBBDL	予約済み	PD (11,0)
JBBFE	予約済み	PD (11,0)
JBBCO	予約済み	PD (11,0)
JBBRO	予約済み	PD (11,0)
JBLBO	予約済み	PD (11,0)
JBLBC	予約済み	PD (11,0)
JLBI	予約済み	PD (11,0)
JLBS	予約済み	PD (11,0)
JBDQS	予約済み	PD (11,0)
JBDQR	予約済み	PD (11,0)
JBNDA	予約済み	PD (11,0)
JBNUS	予約済み	PD (11,0)
JBSIT1	予約済み	PD (11,0)
JBSIT2	予約済み	PD (11,0)
JBSIT3	予約済み	PD (11,0)
JBTCPU	合計ジョブ CPU (ミリ秒単位)。マルチスレッド・ジョブのすべてのスレッドによって使用された合計 CPU。 注: これらの値の収集と報告には時間のずれがあるため、これは、すべてのジョブ・スレッドでの JBCPU の合計ではありません。(注 3 を参照。)	▶▶ PD (15,3) ◀◀
JBTHDF	2 次スレッド・フラグ。マルチスレッド・ジョブの 2 次スレッドを識別します。値は、タスクおよび 1 次スレッドの場合は 0、2 次スレッドの場合は 1 です。	PD (1,0)
JBTHID	スレッド ID。4 バイトの表示可能スレッド ID。プロセス内でのスレッドで固有の HEX スtring。タスクおよび以前のリリースのデータの場合は空白です。	C (8)
JBTHAC	活動状態のスレッド。データのサンプリング時にプロセス内で活動状態になっていたスレッドの数 (その時点での)。活動状態スレッドは、その資源に対して活動状態で実行、中断、または待機のいずれかを行っていることが考えられます。1 次スレッドも含まれます。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBTHCT	作成されたスレッド。このジョブで開始されたスレッドの数。活動状態のスレッドと終了されたスレッドの両方を含みます。(注 3 を参照。)	PD (11,0)
JBMTXT	mutex 待ち時間 (ミリ秒単位)。スレッドが mutex を待っている累積時間。(注 2 を参照。)	▶▶ PD (15,3) ◀◀
JBIBM1	予約済み	PD (11,0)
JBSTSF	状況フラグ: この間隔に関連するジョブ状況を示します。値は 0 (通常の間隔コレクション)、1 (間隔で開始されたジョブ)、2 (間隔で終了したジョブ)、3 (開始および終了されたジョブ) です。経路指定または転送されたジョブは、終了レコード (JBSTSF = 2) および新規ジョブ・レコード (JBSTSF = 1) になります。	PD (1,0)
JBSVIF	サーバー対話式フラグ。機能によって消費される資源がシステムの対話型のフィーチャーに充てられている場合、1 に設定されます。	C (1)
JBTFLT	ページ不在の合計。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBEDBC	データベース CPU 時間。単一のスレッドまたはタスクにおいてデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。 (注 3 を参照。)	P (15,3)
JBTDBC	データベース CPU 時間の合計。マルチスレッド化されたジョブのすべてのスレッドでデータベース処理を実行するために使用される CPU 時間の総計 (ミリ秒単位)。注: これは、すべてのジョブ・スレッドにおける JBEDBC の総計とは異なる場合があります。 (注 3 を参照。)	P (15,3)
JBSVRT	サーバー・タイプ。ジョブによって表されているサーバーのタイプ。値がブランク (またはブランク・スペース) である場合そのジョブはサーバーの一部ではないことを示しています。	C (30)
 JBCOP	タスクの下で実行された 1 次コミット操作の回数。	PD (11,0)
JBCOS	タスクの下で実行された 2 次コミット操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミットも含まれます。	PD (11,0)
JBDOP	タスクの下で実行された 1 次コミット解除操作の回数。	PD (11,0)
JBDOS	タスクの下で実行された 2 次コミット解除操作の回数。これには、アプリケーションおよびシステムによって提供された参照保全コミット解除も含まれます。	PD (11,0)
JBPJE	タスクの下で実行されたディスクへの物理ジャーナル書き込み操作の回数。	PD (11,0)
JBNSJE	SMAPP に直接関連していないジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBUJD	ユーザー提供のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBSJD	システム提供 (デフォルト) のジャーナルに保管された、SMAPP に起因するジャーナル項目の数。	PD (11,0)
JBBFW	ディスクに書き込まれたジャーナル・バイトの数。これらの項目は、ジャーナル・レシーバーの永続域にパッケージされます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBFA	ジャーナル・レシーバーの永続域に保管されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれたバイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。これらは、検索および表示が可能な従来のジャーナル項目です。	PD (15,0)
JBBTW	ディスクに書き込まれた一時域ジャーナル・レシーバー・バイトの数。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)
JBBTA	ジャーナル・レシーバーの一時域用に生成されたバイト数。このカウントには、ディスクにすでに書き込まれた一時バイト数、およびメイン・メモリーにまだキャッシュされているバイト数が含まれます。一時域には、ユーザーが CHGJRN コマンドで *RmvIntEnt を指定した場合にのみ、システムによって作成され、IPL 時に使用され、この一時域に送られる隠れジャーナル項目が入っています。この一時域は、ディスク上の別個の区域であり、通常のジャーナル項目を保管するために使用されるディスク・スペースとは区別されています。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
JBTWT	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機するのに費やした時間の長さ (ミリ秒)。これには、サービスを受けるタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれるほか、同じジャーナル・バンドルに常駐するジャーナル項目を持つ他のタスクによって開始された物理ディスク書き込み操作の待機時間が含まれます。	PD (11,0)
JBTNW	ジャーナル・バンドルがディスクに書き込まれるのをこのタスクが待機した回数。	PD (11,0)
JBXRRR	ランダム・ストリーム・ファイル読み取り操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRRW	ランダム・ストリーム・ファイル書き込み操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRFS	fsync 操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
JBXRBR	ストリーム・ファイルの読み取られたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBXRBW	ストリーム・ファイルの書き込まれたバイト数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
JBFSH	サーバー認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBASH	サーバー認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBFSHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用するフル Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBASHA	サーバーおよびクライアントの認証を使用する省略 (高速) Secure Sockets Layer (SSL) ハンドシェイクの数。	PD (11,0)
JBPGA	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振られている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBPGD	ジョブが開始してから、ジョブによって割り振り解除されている一時、および永続記憶域のページの合計数。	P (11,0)
JBCUSR	データがサンプルとされたときにジョブが実行していたユーザー・プロフィール。	C (10)
JBFSOPN	ファイル・システムのオープン。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JBFSDC	ファイル・システム・ディレクトリーの作成。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDC	ファイル・システムのディレクトリー以外の作成。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの作成操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSDD	ファイル・システム・ディレクトリーの削除。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0)
JBFSNDD	ファイル・システムのディレクトリー以外の削除。ファイルやシンボリック・リンクなど、非ディレクトリー・オブジェクトの削除操作のカウントです。このカウントの中には、以下のファイル・システムが含まれます。ルート・ファイル・システム、QOpenSys ファイル・システム、およびユーザー定義ファイル・システム。	PD (11,0) 

注:

1. タスク・タイプ・エクステンダーの詳細については、『パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー』での定義を参照してください。
2. これらのフィールドは、個々のタスクまたはスレッドごとに作成されます。マルチスレッド・ジョブの場合、これらはスレッド間で合計されていません。
3. これらのフィールドが提供されるのは、1 次スレッドの場合のみです。このフィールドが数字カウンターのマルチスレッド・ジョブのすべてのジョブの累積合計です。

## パフォーマンス・データ・ファイル: タスク・タイプ・エクステンダー

タスク・タイプ・エクステンダーは、タスクによって提供される機能的なサポートの区域を識別します。

このタスク・タイプ・エクステンダーのフィールドは、同じ種類の操作を実行するタスク同士を論理的にグループ化する場合に使用します。このフィールドは、主にパフォーマンスのモニターに使用されます。下の表は、タスク・タイプ・エクステンダーをリストしたもので、最初の列が 2 つの EBCDIC 文字、次の列がそのタスク・タイプ・エクステンダーの説明を示しています。


収集サービスのファイルについては、『1 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル』』を参照してください。

パフォーマンス・タスク ('A' から 'A9')	
フィールド名	説明
AP	パフォーマンス収集サービス・プローブ
バス・トランスポート・タスク ('B' から 'B9')	
フィールド名	説明
BB	トランスポート・バス
BC	トランスポート・クラスター
BI	トランスポート SPD IOBU
BL	トランスポート・ログ

BM	トランスポート SPD 保守データ
BR	トランスポート・リモート記憶域
BT	トランスポート・ツイン光ディスク
クライアント・サーバー・タスク ('C' から 'C9')	
フィールド名	説明
CS	共用フォルダー
装置ドライバー・タスク ('D' から 'D9')	
フィールド名	説明
DA	ワークステーション IOM
DB	PU2 端末 IOM
DC	オープン端末 IOM
DD	イーサネット LAN IOM
DE	2 進同期 3270 IOM
DF	5294 端末 IOM
DG	X25 端末 IOM
DI	FDDI IOM
DJ	ISDN IOM
DK	ディスケット IOM
DL	IDLC IOM
DO	光ディスク IOM
DP	PPP データ・リンク・ドライバー
DR	暗号化ドライバー
DS	DASD IOM
DT	IOP ドライバー
DU	LAN ドライバー
DV	仮想端末 LUD IOM
DW	無線回線 IOM
DX	FAX 回線 IOM
DY	フレーム・リレー IOM
DZ	ILAN 回線 IOM
D0	サービス・プロセッサ IOM
D1	非同期端末 IOM
D2	非同期回線 IOM
D3	トークンリング IOM
D4	テープ IOM
D5	ワークステーション IOM
D6	平衡型 IOM
D7	SDLC 回線 IOM
D8	2 進同期 IOM
D9	MTAM IOM
その他のタスク ('E' から 'E9')	
フィールド名	説明

EH	保守ハードウェア資源情報
EI	各種 I/O
EL	エラー・ログ
ES	暗号方式シード管理
EV	権限管理拡張検査
<b>統合 xSeries (Integrated xSeries<sup>(R)</sup>) サーバー入出力管理タスク ('F' から 'F9')</b>	
フィールド名	説明
F0	統合 xSeries サーバー IOM
FP	AIX <sup>(R)</sup> IOP IOM
FS	統合 xSeries サーバー記憶域管理 IOM
<b>IPCF タスク ('I' から 'I9')</b>	
フィールド名	説明
IR	IPCF ルーター
IS	IPCF サーバー
<b>ストリーム・カーネル・タスク ('K' から 'K9')</b>	
フィールド名	説明
KO	ストリーム・サーバー
<b>保管と復元、ロードとダンプのタスク ('L' から 'L9')</b>	
フィールド名	説明
LM	メインのロードとダンプ
LP	ロードとダンプのパイプライン
<b>MSCP タスク ('M' から 'M9')</b>	
フィールド名	説明
M0	MSCP
M1	回答マネージャー
M2	SNAP
<b>パススルー・タスク ('P' から 'P9')</b>	
フィールド名	説明
PS	ソース表示パススルー
PT	ターゲット表示パススルー
<b>資源管理タスク ('R' から 'R9')</b>	
フィールド名	説明
RC	資源管理データ・コレクター
RM	資源管理サービス
RP	プロセス
<b>記憶域管理入出力タスク ('S' から 'S9')</b>	
フィールド名	説明
SA	非同期の記憶域管理
SD	記憶域管理 DASD サーバー
SP	ページアウト
SW	活動時保管
SX	エキスパート・キャッシュ



データベース・タスク ('T' から 'T9')	
フィールド名	説明
TD	データベース・サーバー
TX	トランザクション管理タイマー 
サービス機能 ('V' から 'V9')	
サービス機能	説明
サーバー・メッセージ・ブロック・タスク ('W' から 'W9')	
フィールド名	説明
WB	TCP/IP での NETBIOS
WS	サーバー・メッセージ・ブロック
その他のタスク ('Z' から 'Z9')	
フィールド名	説明
ZF	非同期のバイト・ストリーム・ファイル
ZI	中断されたタスクのクラス
ZR	回復
アドバンスト/36 タスク ('3' から '39')	
フィールド名	説明
3A	アドバンスト/36 ディスク
3C	アドバンスト/36 ワークステーション制御装置
3I	アドバンスト/36 ディスケット
3L	アドバンスト/36 通信回線
3T	アドバンスト/36 テープ
3W	アドバンスト/36 ワークステーション/プリンター
36	アドバンスト/36 エミュレーター・メインタスク

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWT

このファイルには、ジョブ、タスク、スレッドの待ち条件に関する情報が含まれます。間隔中に CPU を消費したそれぞれのジョブ、タスク、スレッドごとに、少なくとも 1 つのレコードが書き込まれます (特にサービス活動中には、複数のレコードが書き込まれる可能性があります)。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

このファイルの目的は、ジョブ (つまりタスク、1 次スレッド、または 2 次スレッド) が費やす待ち時間を計り、待機のタイプを何らかの形で示すことです。待機の理由は多数あり、個別に扱うのが難しいため、関係する機能ごとに待機がセットとしてグループ分けされています。各グループごとに、待機の数と、ジョブが待機に費やした時間とが報告されます。

注: 待機カウンターは、ジョブの待機状態が終わったときに更新されます。したがって、現在待機しているジョブのカウンターは変更されず、間隔内でジョブが何の処理も行わなかった場合には、ジョブそのものが報告されません。待機が報告されたとき、実際にはそれが報告された間隔よりも長く待機している可能性があります。

QAPMJOBWTD ファイルは、各カウンター・セットごとに待ち条件のタイプに関する記述を提供します。このファイルには最大で 16 セットのカウンター用のフィールドが含まれていますが、そのすべてが使用さ

れるとは限りません。カウンターの数は、JWTNUM フィールドに報告されます。計測されるカウンター・セットの数が 16 を超える場合、報告される各ジョブごとに、追加の 1 つまたは複数のレコードが書き込まれます。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
JWNAME	ジョブ/タスク名。	C (16)
JWUSER	ジョブのユーザー。	C (10)
JWNBR	ジョブ番号。	C (6)
JWTDE	システム・タスク ID。	C (8)
JWCURT	現在の待ち時間: TDE が現在待機状態にある場合 (例: サンプルング時に待ち状態にあった場合)、これは非ゼロになり、現在の待機の時間を示します (この時間は、他の待機カウンター・セットには含まれません)。	B (9,0)
JWCURE	予約済み	B (9,0)
JWCURB	現在の待機バケット: TDE が現在待機している場合、これは非ゼロになり、待機が完了したときに更新されるバケットを示します。	B (4,0)
JWDSEQ	記述の順序番号: この待機データに関連した QAPMJOBWTD レコードを識別します。	B (4,0)
JWBGN	このレコードで報告される最初のカウンター・セットの開始番号。	B (4,0)
JWCT01	カウント 1。ジョブがこのグループに関連した待ち条件を検出した回数。	B (9,0)
JWTM01	時間 1。ジョブがこのグループにおいて待機に費やした時間 (ミリ秒)。	B (9,0)
JWCTnn JWTMnn	注: カウントと時間は、定義された 16 個のカウンター・セットにわたって繰り返されます (nn は 02 から 16 の範囲)。	(B (9,0) + B (9,0)) * 15

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJOBWTD

このファイルには、QAPMJOBWT ファイルに存在するカウンター・セットに関する記述が含まれます。待機データの最初のインスタンスが検出されたとき (通常は収集の最初の時点で)、活動状態の各カウンター・セットごとに 1 つのレコードが書き込まれます。サービス活動中に、このデータのインスタンスが複数検出される場合もあります。





収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): これらの記述を提供する、サンプル間隔の日付と時刻。通常、これは *MGTCOL オブジェクト内の最初の間隔です。	C (12)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)

フィールド名	説明	属性
JWDSEQ	説明の順序番号: これは、記述セットの固有 ID となります。この値は、カウンター・データを適切な記述セットに関連付けるために、QAPMJOBWT ファイルの JWDSEQ フィールドで使用されます。更新された記述がこのファイルに書き込まれるたびに、その記述セットに関する新しい値がこのフィールドに含まれます。	B (4,0)
JWTNUM	報告された待機カウンター・セットの合計数。	B (4,0)
JWSNBR	このレコードが記述しているカウンター・セット番号。	B (4,0)
JWDESC	JWCTnn および JWTMnn フィールドに報告されたデータのタイプに関する記述。注: このフィールドは Unicode です。	C (50)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMJSUM

これらのデータベース・ファイル項目には、ジョブの要約情報が含まれています。このファイルは、\*JOBMI、\*JOBOS、および \*SYSLVL カテゴリーがすべてパフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドから要求された場合にのみ作成されます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	ジョブ間隔項目およびジョブ完了日に関する間隔の日付 (yymmdd) と、ジョブ完了項目に関する時間 (hhmmss)。	C (12)
INTSEC	経過した間隔 (秒単位)。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
JSCBKT	<p>ジョブ・グループ: このレコード内でデータが報告されるジョブのタイプを示します。以下の値がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDM: 分散データ管理機能</li> <li>• CA4: iSeries<sup>TM</sup> Access</li> <li>• PAS: パススルー</li> <li>• MRT: 複数要求元端末</li> <li>• S6E: システム/36 (System/36<sup>TM</sup>) 環境</li> <li>• CME: 通信バッチ</li> <li>• AUT: 自動開始バッチ</li> <li>• BCH: バッチ・ジョブ (他のグループには含まれません)</li> <li>• INT: 対話式  ジョブ (ジョブ・タイプ "I" は上記の他のパケットでは報告されない)</li> <li>• SPL: スプール・ジョブおよび CPF 開始ジョブ</li> </ul> <p> 注: すべてのジョブは、上記のジョブ・グループの 1 つ、および 1 つだけでカテゴリー化され、報告されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• INF: 対話式フィーチャー (このグループは、マシンが対話式と見なすジョブと関連するデータを報告します。これらのジョブで消費される資源は、対話式フィーチャー使用率に含まれる場合があります)。 </li> </ul>	C (3)

フィールド名	説明	属性
JSCPU	使用された処理装置時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSTRNT	合計トランザクション時間 (秒単位)。	PD (15,3)
JSTRNS	トランザクションの数。	PD (11,0)
JSPRTL	印刷行の数: プログラムによって書き出された行の数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成されたり印刷されたりする場合があります。	PD (11,0)
JSPRTP	印刷ページの数。	PD (11,0)
JSSPD	合計の中断時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSRRT	再経路指定中にジョブが待機した合計時間 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
JSNEW	新しいジョブ。	PD (11,0)
JSTERM	終了したジョブ。	PD (11,0)
JSJBCT	ジョブ数。	PD (11,0)
JSPDBR	同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPNDB	同期的な非データベースの読み取りの数: 非データベース機能での、同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPWRT	書き出しの数: 物理データベースおよび非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSLDBR	データベース読み取りの数 (論理): データベース・モジュールが呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、読み取られた個々のレコードの数ではなく、読み取られたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JSLDBW	データベース書き出しの数 (論理): 内部データベース書き出し機能が呼び出された回数。これには、読み取りプログラム/書き出しプログラムへの入出力操作や、CPYSPLF または DSPSPLF コマンドによる入出力操作は含まれていません。SEQONLY(*YES) が指定されている場合、これらの数は、書き出された個々のレコードの数ではなく、書き出されたレコードの各ブロックを示しています。	PD (11,0)
JSLDBU	さまざまなデータベース操作の数: 更新、削除、データの強制終了、および解放 (論理)。	PD (11,0)
JSCMPT	通信書き出しの数: これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。OS/400- <sup>(R)</sup> ICF 装置に関する入出力の場合、OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。	PD (11,0)
JSCMGT	通信読み取りの数 (論理): これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。OS/400-ICF 装置に関する入出力の場合、OS/400-ICF ファイルに関連した活動のみが含まれます。	PD (11,0)
JSBRG	予約済み	PD (11,0)
JSPRG	予約済み	PD (11,0)
JSNDW	同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSDBW	同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSANDW	非同期的な非データベースの書き出しの数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
JSADBW	非同期的なデータベースの書き出しの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
JSANDR	非同期的な非データベースの読み取り数: 非データベース機能での、非同期的な物理非データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSADBR	非同期的なデータベースの読み取りの数: データベース機能での、非同期的な物理データベースの読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
JSPW	同期的な永続的書き出しの数。	PD (11,0)
JSCS	予約済み	PD (11,0)
JSPAGF	PAG 障害の数。プログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが主記憶装置になかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
JSEAO	予約済み	PD (11,0)
JSOBIN	2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JSODEC	10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
JSOFLP	浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
JSIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
JSWIO	未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
JSSKSC	ソケット送信の数。	PD (11,0)
JSSKBS	送信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JSSKRC	ソケット受信の数。	PD (11,0)
JSSKBR	受信されたソケット・バイトの数。	PD (11,0)
JSXRFR	ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
JSXRFW	ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
JSXSLR	ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
JSXDYR	ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
JSDLCH	ファイル・システム・ディレクトリー検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
JSDLCM	ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
JSSZWT	占有待ち時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLAPD

このデータには、サービス総合デジタル網 (ISDN) の LAPD ファイル項目が含まれており、LAPD ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)

フィールド名	説明	属性
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LDIOP	予約済み	C (1)
LDTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
LDNWI	ネットワーク・インターフェース: ネットワーク・インターフェース記述の名前。	C (10)
LDLSP	リンク速度: このチャンネルの速度 (ビット/秒単位)。	PD (11,0)
LDPRCL	プロトコル・タイプ: D (LAPD 用)。	C (1)
LPLOFA	フレーム位置合わせの消失: 有効な回線コード違反の対が検出されずに、2 つの 48 ビット・フレームに相当する期間が経過した回数の合計。	PD (11,0)
LPLECV	予約済み	PD (11,0)
LPDTSI	予約済み	PD (11,0)
LPDTSO	予約済み	PD (11,0)
LPFECV	予約済み	PD (11,0)
LPES	エラーの秒数: 1 つまたは複数のパス・コード違反、1 つまたは複数のフレーム外障害、1 つまたは複数の制御スリップ・イベント、またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数の合計。	PD (5,0)
LPSES	深刻なエラーの秒数: 320 以上のパス・コード違反エラー・イベント、1 つまたは複数のフレーム外障害、またはアラーム指示信号イベントの検出が発生した秒数の合計。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ESF 信号の場合、320 以上のパス・コード違反エラー・イベント、1 つまたは複数のフレーム外障害、またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数の合計。</li> <li>E1-CRC 信号の場合、832 以上のパス・コード違反エラー・イベント、または 1 つまたは複数のフレーム外障害が発生した秒数の合計。</li> <li>E1-noCRC 信号の場合、2048 以上の回線コード違反が発生した秒数。</li> <li>D4 信号の場合、フレーム・エラー・イベント、1 つのフレーム外障害、または 1544 以上の回線コード違反が発生した秒数。</li> </ul>	PD (5,0)
LPCOL	衝突検出: TE が、同じパスの使用を試行した別の TE によって壊された送信フレームを検出した回数。	PD (11,0)
LLCRCE	受信 CRC エラー: CRC (サイクル冗長検査) エラーがあった受信フレームの数。	PD (11,0)
LLSFE	短フレーム・エラー: 受信した短フレームの数。短フレームは、開始フラグと終了フラグとの間のオクテットが許容限界より少ないフレームです。	PD (11,0)
LLORUN	受信オーバーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが着信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
LLURUN	送信アンダーラン: ローカル制御装置の過負荷が原因で、ISDN サブシステムが発信データのペースを維持できなかった回数。	PD (11,0)
LLABRT	打ち切り受信数: 受信したフレームに HDLC 打ち切り標識が含まれていたフレームの数。	PD (11,0)
LLFRIE	エラーの受信フレーム数: 受信サイクル冗長検査 (CRC) エラー、短フレーム・エラー、受信オーバーラン、送信アンダーラン、打ち切り受信数、およびフレーム・シーケンス・エラー (LLCRCE、LLSFE、LLORUN、LLURUN、LLABRT、LSSEQE) の合計。	PD (11,0)
LSFRT	再送信されたフレーム。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
LSSEQE	シーケンス・エラー: フレームが失われたことを示す順序番号が入った受信フレームの数。	PD (11,0)
LSFTRN	送信フレームの合計数: これには、リモート・リンク・ステーションに送信された情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたフレーム、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたフレームも含まれます。	PD (11,0)
LSFRCV	受信フレーム数の合計数: これには、リモート・リンク・ステーションから受信した情報 (I)、非番号付き情報 (UI) および監視 (S) フレームが含まれます。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
LSBTRN	送信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションに送信したバイトの合計数。これには、正常に送信されたものの他に、再送信されたバイト、および送信アンダーランによって停止された転送で送信されたバイトも含まれます。	PD (11,0)
LSBRCV	受信したバイトの合計: リモート・リンク・ステーションから受信したバイトの合計数。これにはエラーは含まれません。	PD (11,0)
LQTOC	発信呼び出しの合計: 発信呼び出し試行の数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの発信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの発信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQROC	発信呼び出しの再試行: ネットワークに拒否された発信呼び出しの数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの発信の再試行が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの発信の再試行はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQTIC	着信呼び出しの合計: 着信呼び出し試行の数。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの着信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの着信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LQRIC	着信呼び出しの拒否: TE によって拒否された着信呼び出しの数。受動バスの場合、その呼び出しは、同じ受動バスを共有する別の TE のためのものであることが考えられます。これには、 IOP と IOM の両方によって直接拒否された呼び出しも含まれます。 X.31 の場合、これにはパケット交換接続を要求する SETUP メッセージの拒否された着信が含まれます。 Q.932 の場合、REGISTER メッセージの拒否された着信はこのカウントには含まれません。	PD (11,0)
LDCHLS1	S1 保守チャンネル: S1 保守チャンネルが活動状態であった場合は 1 に設定されます。	PD (1,0)
LPLES	回線エラーの秒数: 1 つまたは複数の回線コード違反が発生した秒数。	PD (5,0)
LPCSS	制御スリップの秒数: 1 つまたは複数の制御スリップ・イベントが発生した秒数。	PD (5,0)
LPBES	バースト性エラーの秒数 (エラー秒タイプ B): 2 以上 320 未満のパス・コード違反エラー・イベントが発生しているが、深刻なエラーのフレーム障害および着信アラーム指示信号障害の検出は発生していない秒数。	PD (5,0)
LPSEFS	深刻なエラーのフレームの秒数: 1 つまたは複数のフレーム外障害またはアラーム指示信号障害の検出が発生した秒数。	PD (5,0)
LPDM	低下時間 (分単位): 見積もられたエラー率が 1E-6 を超えているが、1E-3 は超えていない時間 (分単位)。	PD (5,0)
LPUS	使用不可秒数: インターフェースが使用できない秒数。	PD (5,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLIOP

このデータには平衡型 IOP データ・ファイル項目が含まれており、平衡型 IOP データ・ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LHOP	予約済み	C (1)
LITYPE	IOP タイプ。	C (4)
LIRIDC	制御装置の資源 ID: フィールドは表示できません。	C (8)
LITPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
LIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
LIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)
LIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIOPSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
LISGLR	別のバス単位から受信した信号バス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIOPST	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位に送信した OPSTART。	PD (11,0)
LISGLS	別のバス単位に送信された信号。	PD (11,0)
LIRSTQ	別のバス単位に送信された再始動待ち行列のバス単位メッセージ。	PD (11,0)
LIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
LIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
LIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
LHIOQC	入出力待ちの待ち行列のカウンタ: サンプル時に入出力待ちの待ち行列に置かれていた入出力要求の数。入出力待ちの待ち行列は、処理中のまたは処理を待機中の入出力要求を保持します。	PD (11,0)
LISQC	延期の待ち行列のカウンタ: サンプル時に延期の待ち行列に置かれていた要素の数。	PD (11,0)
LIAQC	活動状態の待ち行列のカウンタ: サンプル時に活動状態の待ち行列に置かれていた要素の数。活動状態の待ち行列は、ホスト・システムから送信されたが、まだ入出力待ちの待ち行列に送信されていない入出力要求を保持します。	PD (11,0)
LITWIU	平衡型使用カウンタ: 入出力待ちの待ち行列がサンプルされた時点での回数 (カウンタがゼロ (入出力が進行中) でない場合)。この値をサンプルのカウンタで割ると、結果 (100 倍する) は入出力が行われた時点の回数の割合 (パーセント) になります。	PD (5,0)
LISMPL	サンプリングの回数: さまざまな IOP 待ち行列がサンプリングされたスナップショット間隔中の回数。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
LIIDLCL	アイドル・カウント (注を参照): ワークステーション IOP がアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。この回数は、アイドル・ループの時間と共に利用されます。	PD (11,0)
LIIDLTL	アイドル・ループ時間 (× 0.01 マイクロ秒) (注を参照): アイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。	PD (11,0)

注:

アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、通信 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようになります。


$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{CIIDLCL} * \text{CIIDLTL}) / 100) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMLPAR

このファイルには、IBM<sup>(R)</sup> Director Server が収集サービスを実行している区画にインストールされて (およびサーバー・ジョブが実行して) おり、\*LPAR カテゴリが選択されている場合に収集される、論理区画パフォーマンス・データが含まれます。IBM Director Agent は、他の区画から収集されるデータ用に、それらの区画にインストールされていなければなりません。収集間隔ごとの各論理区画に 1 つのレコードがあります。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): ローカル収集サービス・ジョブがこのデータを要求した日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: エージェントで測定された最後のサンプル間隔からの秒数。エージェントがしばらく非活動状態であった後に再度活動状態になった場合には、この値が複数の間隔にまたがる場合があります。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。0 は 19xx、1 は 20xx を示します。	C (1)
LPPID	区画 ID。これは、PN の GKEY を持つ QAPMCONF ファイル中の区画番号と整合したバイナリー値です。	B (4,0)
LPCPUU	使用される CPU ナノ秒。この区画中のすべてのプロセッサがこの間隔で使用する、プロセッサ・ナノ秒数。	B (18,0)

フィールド名	説明	属性
LPCPUA	使用可能な CPU ナノ秒。この区画中のすべてのプロセッサに対してこの間隔で使用可能な、プロセッサ・ナノ秒数。このフィールドがオペレーティング・システムによってサポートされていない場合は、0 になります。	B (18,0)
LPVPRC	仮想プロセッサ。現在この区画に構成されている仮想プロセッサ数。	B (4,0)
LPPUN	処理装置。現在この区画に割り振られている処理装置の数として表される区画キャパシティー。	PD (5,2)
LPDTTM	区画の日時。 YYYYMMDDhhmmss フォーマットで表される区画のローカル日付と時刻。	C (14)
LPUTCO	UTC オフセット。区画用の分単位の協定世界時オフセット。	B (4,0)
LPCLKO	クロック・オフセット。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。このフィールドがオペレーティング・システムによってサポートされていない場合は、0 になります。	B (18,0)
LPOSID	オペレーティング・システム ID。現在区画で実行中のオペレーティング・システム。 100=OS/400 <sup>(R)</sup> 、200=AIX <sup>(R)</sup> 、および 300=Linux <sup>(TM)</sup> 。	B (4,0)
LPVRM	オペレーティング・システムのバージョン。このフィールドは、オペレーティング・システムで定義された形式で表示されます。たとえば、OS/400 バージョン 5 リリース 3 モディフィケーション 0 は V5R3M0 と表されます。	C (11) 

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMMIOP

このデータには多機能 IOP ファイル項目が含まれており、多機能 IOP ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
MIIOP	予約済み	C (1)
MITYPE	IOP タイプ。	C (4)
MIPRCU	プロセッサ使用率: この多機能 IOP がアイドル状態で経過した固定時間間隔の数。	PD (11,0)
MIRAMU	使用可能ローカル・ストレージ (バイト単位): IOP 内の使用可能な空きローカル・ストレージのバイト数。空きローカル・ストレージは、フラグメント化のためおそらく不連続になっています。	PD (11,0)
MITPKT	転送されたパケットの合計。	PD (11,0)
MIKBYO	バス間で IOP からシステムに送信された KB の合計。	PD (11,0)
MIKBYI	バスを介してシステムから IOP に送信された KB の合計。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
MIOPSR	通常フローを使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ。	PD (11,0)
MIO PSS	反転フロー方法 2 を使用する別のバス単位から受信した、OPSTART バス単位メッセージ (常に 0)。	PD (11,0)
MISGLR	受信した信号。	PD (11,0)
MIO PST	送信された OPSTART。	PD (11,0)
MISLGS	送信された信号。	PD (11,0)
MIRSTQ	送信された再始動待ち行列。	PD (11,0)
MIRQDO	データの出力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、IOP からバスを介してシステムにデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
MIRQDI	データの入力のために送信された DMA 要求: IOP がシステムに送信する、システムからバスを介して IOP にデータを送信する要求の数。	PD (11,0)
MIBNAR	受信した BNA のオカレンス。	PD (11,0)
MIIDL C	アイドル・ループ・カウント (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを実行した回数。これは、IOP に実行すべき作業がないときに実行されます。このカウントとアイドル・ループ時間を使用して、1 次 IOP プロセッサ使用率 (秒単位) を計算します。	PD (11,0)
MIIDL T	アイドル・ループ時間 (注を参照): 1 次 IOP プロセッサがアイドル・ループを 1 回実行する時間 (マイクロ秒の 100 分の 1 単位)。報告された値が、実際のアイドル・ループ時間の倍数になっている場合があります。その場合、計算される IOP プロセッサ使用率を正しいものにするために、アイドル・ループ・カウントとして報告されている値が同じ倍数で約分されます。	PD (11,0)
MISYSF	IOP システム機能時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している基本システム機能の IOP で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIDISK	ディスク時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているディスク・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MICOMM	通信時間の合計: 1 次 IOP プロセッサで実行しているすべての通信プロトコル・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MISDLC	SDLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 通信プロトコル・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIASYN	ASYNC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している非同期通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIBSC	BSC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している BSC 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25L	X.25 LLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 LLC 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25P	X.25 PLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 パケット層通信 (PLC) タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIX25D	X.25 DLC 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している X.25 データ・リンク制御 (DLC) および Point-to-Point Protocol (PPP) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
MILAN	LAN 通信時間: トークンリング・ネットワーク、イーサネット、フレーム・リレー、ファイバー分散データ・インターフェース (FDDI)、および非同期転送モード (ATM) 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。これには、トークンリングおよびイーサネット LAN エミュレーションによる処理時間が含まれます。	PD (11,0)
MISDL	SDLC 短期保留モード時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している SDLC 短期保留モード・タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIRV02	ISDN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN LAPD、LAPE、および PMI 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIRV03	ISDN 通信時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している ISDN Q.931 通信タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MISP	サービス・プロセッサ時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているサービス・プロセッサ機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF1ID	副次機能 1 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF1TM	副次機能 1 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF2ID	副次機能 2 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF2TM	副次機能 2 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF3ID	副次機能 3 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C (2)
MIF3TM	副次機能 3 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF4ID	副次機能 4 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能の ID。	C(2)
MIF4TM	副次機能 4 の時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MIF5ID	副次機能 5 の ID: 1 次 IOP プロセッサで実行する追加機能の ID。	C(2)
MIF5TM	副次機能 5 の時間 (1 次 IOP プロセッサで実行している IOP 機能で使用される時間 (ミリ秒単位))。	PD (11,0)
MITW NX	1 次 IOP プロセッサで実行しているワークステーションおよびローカル平衡型タスクで使用される処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。	PD (11,0)
MICPU2	プロセッサ 2 使用率: 特殊機能を扱う 2 番目の IOP プロセッサの使用率 (ミリ秒単位)。このフィールドは、統合 xSeries (Integrated xSeries™) サーバー (入出力アダプター・バージョンは除く) に適用され、他の IOP の場合はゼロになります。収集サービスでは、統合 xSeries サーバーの値は報告されません。	PD (11,0)
MIADP	予約済み	PD (11,0)
MIO TH	他の機能時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している他の IOP 機能によって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒)。他の機能には、副次機能 1-5 の ID フィールドがすべて使用中であるために、副次機能 1-5 ID フィールドに報告されないものが含まれます。	PD (11,0)
MIINT	割り込みレベルの時間: 1 次 IOP プロセッサで実行している割り込みレベル処理によって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒単位)。これには、特定のタスクに関連付けることができる割り込みレベル処理時間は含まれません。	PD (11,0)
MIRA	リモート・アクセス時間: 1 次 IOP プロセッサで実行しているリモート・アクセス・タスクによって使われた処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)



注:

アイドル・ループ・カウントおよびアイドル・ループ時間が以下のように使用されて、多機能 IOP 使用率が計算されます。

1. アイドル・ループ・カウント回数とアイドル・ループ時間の積を、マイクロ秒の 100 分の 1 単位から秒に変換します。これを間隔時間から引き、その結果を間隔時間で割ります。たとえば、次のようにします。

$$\text{IOP 使用率} = (\text{INTSEC} - (\text{MIIDLE} * \text{MIIDLT}) / 10^{**8}) / \text{INTSEC}$$

2. バージョン 3 リリース 7 から、パフォーマンス・モニターで報告される入出力処理機構 (IOP) の統計は変更され、バージョン 3 リリース 7 以降のリリースに導入されている IOP のパフォーマンス統計は、QAPMMIOP ファイルで報告されます。パフォーマンス統計は、IOP が 3 つの IOP 機能 (通信、ディスク、ローカル・ワークステーション) の 1 つしかサポートしていない場合でも、QAPMMIOP ファイルで報告されます。バージョン 3 リリース 7 より前で導入されていた IOP のパフォーマンス統計は、引き続き適当な IOP ファイル (QAPMCIOP、QAPMDIOP、QAPMLIOP、および QAPMMIOP) で報告されます。
3. 機能 1 から 5 の ID は、1 次 IOP プロセッサで実行できる追加機能で使用されます。各機能 ID には、関連付けられている機能時間値があります。機能 ID は以下の値を持っています。

値	説明
00	時間値が与えられていません。
11	統合 xSeries サーバーのパイプ・タスク (統合 xSeries サーバーは、以前のファイル・サーバー入出力処理機構および FSIOP です)
20	ストレージ・サブシステム・タスク
22	テープ・タスク
23	ディスク・タスク
24	光ディスク・タスク
30	通信サブシステム・タスク
42	ローカル・トーク・タスク
43	無線タスク
60	暗号タスク

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOL および QAPMPOOLL

QAPMPOOLL ファイルは、収集サービスとパフォーマンス・モニターの間の互換性を果たせるために提供されています。QAPMPOOL ファイルは、パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドを使用して、パフォーマンス・モニター・データベース・ファイルを新しいリリースにマイグレーションする際に作成されます。収集サービスでは QAPMPOOL ファイルは作成されません。代わりに、収集サービスは QAPMPOOLL ファイルを作成します。

このデータにはメイン・ストレージ・プール・ファイル項目が含まれており、そのストレージ・プール・ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (2)
POACTL	プール活動レベル設定: マシンで同時に活動状態にできるプロセスの最大数。	PD (5,0)
POSIZ	プール・サイズ (KB 単位): プールに割り当てられているメイン・ストレージの量。	PD (9,0)
PORES	プール予約済みサイズ (KB 単位): マシン機能専用になっている、プールからのストレージの量を指定します。	PD (9,0)
PODBF	プール・データベース不在: MI 命令がデータベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PONDBF	プール非データベース不在: MI 命令が非データベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PODBPG	読み取られたプール・データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
PONDPG	読み取られたプール非データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
POAW	活動から待ちへ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から待ち状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POWI	待ちから不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが待ち状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POAI	活動から不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
PTTYPE	調整のタイプ: ストレージ・プールを調整するためにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 調整なし</li> <li>• 1 — 静的調整</li> <li>• 2 — メイン・ストレージへの転送の動的調整</li> <li>• 3 — メイン・ストレージおよび補助ストレージへの転送の動的調整</li> </ul>	C (1)
PTPAGE	ページ処理を変更します。変更されたページを補助ストレージに書き出す時を判別するのにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — 変更されたページを補助ストレージへ定期的に書き出します</li> </ul>	C (1)
PTNDBF	非データベース・ブロック化因数。補助ストレージから非データベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDBF1	データベース・ブロック化因数 (クラス 1)。補助ストレージからデータベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)

フィールド名	説明	属性
PTDEX1	データベース交換操作タイプ (クラス 1)。作業セット・サイズを減らすために使用される交換操作。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — 交換操作を許可します</li> <li>• 2 — 交換操作を使用不可にします</li> <li>• 3 — 交換操作を使用不可にします</li> </ul> メイン・ストレージ内にすでに存在しているデータは、ストレージ・プール内で追加のストレージが必要な時に置換するのに適しています。	C (1)
PTDTS1	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 1)。オブジェクトを補助ストレージに書き出すための要求を処理するのに、システムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — メイン・ストレージからオブジェクトを除去します</li> <li>• 2 — 補助ストレージにオブジェクトを書き出します</li> <li>• 3 — オブジェクトが置換に適していることを示します</li> <li>• 4 — システム・ページ置換アルゴリズムを使用します</li> </ul>	C (1)
PTDBF2	データベース・ブロック化因数 (クラス 2)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX2	データベース許可交換操作 (クラス 2)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS2	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 2)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF3	データベース・ブロック化因数 (クラス 3)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX3	データベース許可交換操作 (クラス 3)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS3	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 3)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF4	データベース・ブロック化因数 (クラス 4)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX4	データベース許可交換操作 (クラス 4)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS4	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 4)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)

注:

プール調整の詳細については、V5R1 補足マニュアルの Web サイトにある V4R4 実行管理の手引き (SD88-5009-03) の『オブジェクト用記憶域プールを動的に調整するシステム・セットアップ (エキスパート・キャッシュ)』を参照してください。実行管理機能の概念および戦略に関する新しい情報については、『実行管理機能』のトピックを参照することもできます。



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLB

このデータにはメイン・ストレージ・プール・ファイル項目が含まれており、システム・ストレージ・プールのカウンターをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (3)
POACTL	プール活動レベル設定: マシンで同時に活動状態にできるプロセスの最大数。	PD (5,0)
POSIZ	プール・サイズ (KB 単位): プールに割り当てられているメイン・ストレージの量。	PD (9,0)
PORES	プール予約済みサイズ (KB 単位): マシン機能専用になっている、プールからのストレージの量を指定します。	PD (9,0)
PODBF	プール・データベース不在: MI 命令がデータベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PONDBF	プール非データベース不在: MI 命令が非データベース機能を処理できるようにするため、データをプールに転送するのに必要だったプロセス (このプールに割り当てられるとは限りません) に対する割り込みの合計数。	PD (11,0)
PODBPG	読み取られたプール・データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
PONDPG	読み取られたプール非データベース・ページ: セット・アクセス状態、暗黙的なアクセス・グループ移動、および内部マシン・アクションの結果として命令を実行できるようにするために、補助ストレージからプールへ転送されたデータベース・データのページの合計数。	PD (11,0)
POAW	活動から待ちへ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から待ち状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POWI	待ちから不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが待ち状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)
POAI	活動から不適格へ移行した回数: このプールに割り当てられたプロセスが活動状態から不適格状態へ移行した回数。	PD (11,0)

注:

プール調整の詳細については、V5R1 補足マニュアルの Web サイトにある V4R4 実行管理の手引き (SD88-5009-03) の『オブジェクト用記憶域プールを動的に調整するシステム・セットアップ (エキスパート・キャッシュ)』を参照してください。実行管理機能の概念および戦略に関する新しい情報については、『実行管理機能』のトピックを参照することもできます。



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPOOLT

このデータにはメイン・ストレージ・プール・ファイル項目が含まれており、そのストレージ・プールの調整情報をリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
PONBR	プール番号: このプールの固有 ID を指定します。値は 1 から 64 です。	C (3)
PTTYPE	調整のタイプ: ストレージ・プールを調整するためにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — 調整なし</li> <li>• 1 — 静的調整</li> <li>• 2 — メイン・ストレージへの転送の動的調整</li> <li>• 3 — メイン・ストレージおよび補助ストレージへの転送の動的調整</li> </ul>	C (1)
PTPAGE	ページ処理を変更します。変更されたページを補助ストレージに書き出す時を判別するのにシステムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — 変更されたページを補助ストレージへ定期的に書き出します</li> </ul>	C (1)
PTNDBF	非データベース・ブロック化因数。補助ストレージから非データベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDBF1	データベース・ブロック化因数 (クラス 1)。補助ストレージからデータベース・オブジェクトを読み取る要求が行われた時に、メイン・ストレージに送られるデータの量 (KB 単位)。	PD (3,0)
PTDEX1	データベース交換操作タイプ (クラス 1)。作業セット・サイズを減らすために使用される交換操作。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — 交換操作を許可します</li> <li>• 2 — 交換操作を使用不可にします</li> <li>• 3 — 交換操作を使用不可にします</li> </ul> <p>メイン・ストレージ内にすでに存在しているデータは、ストレージ・プール内で追加のストレージが必要な時に置換するのに適しています。</p>	C (1)
PTDTS1	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 1)。オブジェクトを補助ストレージに書き出すための要求を処理するのに、システムが使用する方式。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 — システム・デフォルトを使用します</li> <li>• 1 — メイン・ストレージからオブジェクトを除去します</li> <li>• 2 — 補助ストレージにオブジェクトを書き出します</li> <li>• 3 — オブジェクトが置換に適していることを示します</li> <li>• 4 — システム・ページ置換アルゴリズムを使用します</li> </ul>	C (1)
PTDBF2	データベース・ブロック化因数 (クラス 2)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX2	データベース許可交換操作 (クラス 2)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS2	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 2)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF3	データベース・ブロック化因数 (クラス 3)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX3	データベース許可交換操作 (クラス 3)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)



フィールド名	説明	属性
PTDTS3	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 3)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)
PTDBF4	データベース・ブロック化因数 (クラス 4)。 PTDBF1 を参照してください。	PD (3,0)
PTDEX4	データベース許可交換操作 (クラス 4)。 PTDEX1 を参照してください。	C (1)
PTDTS4	補助ストレージへの転送のデータベース・タイプ (クラス 4)。 PTDTS1 を参照してください。	C (1)

注:

プール調整の詳細については、V5R1 補足マニュアルの Web サイトにある V4R4 実行管理の手引き (SD88-5009-03) の『オブジェクト用記憶域プールを動的に調整するシステム・セットアップ (エキスパート・キャッシュ)』を参照してください。実行管理機能の概念および戦略に関する新しい情報については、『実行管理機能』のトピックを参照することもできます。



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMPPP

このデータには、Point-to-Point Protocol (2 地点間プロトコル、PPP) ファイルのフィールドが含まれます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
PPTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
PPLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
PPLSP	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。	BIN (18,0)
PPRCL	プロトコル・タイプ: P (PPP)。	C (1)
PPBTRN	送信済みバイト: 再送信されたバイトを含む、送信済みバイトの数。	BIN (18,0)
PPBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のバイトもすべて含んだ、受信済みバイトの数。	BIN (18,0)
PPFTRN	伝送されたフレーム: 伝送されたフレームの数。	BIN (18,0)
PPEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信されたフレームの数。	BIN (18,0)
PPFRIE	エラーの受信フレーム数: フレーム検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信されたフレームの数。	BIN (9,0)
PPIFR	受信した無効フレーム数: 残余エラー (フレームがバイト境界上でない) 状態で受信されたフレームの数。	BIN (9,0)



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRESP

このデータには、ローカル・ワークステーションの応答時ファイル項目が含まれており、ローカル・ワークステーション制御装置内で収集されたデータに基づくトランザクション情報が含まれています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
LRIOP	予約済み	C (1)
LRBKT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: ゼロより大きく、スナップショット間隔内でのこのワークステーションの n 秒以下であるトランザクションの数。 n 値は応答時間モニター 1 ブラケットの上限で、「iSeries <sup>TM</sup> ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページの「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定します。トランザクションは、Enter キーまたは機能キーが押されたためにキーボードがロックされた時から、画面が更新されたためにキーボードがアンロックされた時までの時間として定義されます。	PD (7,0)
LRBKT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 1 より大きく、応答時間モニター 2 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
LRBKT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 2 より大きく、応答時間モニター 3 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
LRBKT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 3 より大きく、応答時間モニター 4 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
LRBKT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 4 の限界よりも上の (長い) トランザクションの数。	PD (7,0)
LRPORT	ワークステーションのポート番号。	PD (3,0)
LRSTN	ワークステーション番号。	PD (3,0)
LRTRNS	オーバーフロー (LRBKT5) を含む、このレコードで測定され報告されたすべてのやり取りの個々の時間すべての合計。すべてのトランザクションの合計時間 (秒単位)。	PD (7,0)
LRCUD	制御装置記述名。	C (10)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMRWS

QAPMRWS ファイルは、パフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドを使用して、パフォーマンス・モニター・データベース・ファイルを新しいリリースにマイグレーションする際に作成されます。収集サービスでは、このファイルは作成されません。このデータには、リモート・ワークステーションの応答時ファイル項目が含まれており、リモート・ワークステーション制御装置内で収集されたデータに基づくトランザクション情報が含まれています。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: これらのトランザクションが発生していた秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
RWIOP	予約済み	C (1)
RWBKT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: ゼロより大きく、スナップショット間隔内でのこのワークステーションの n 秒以下であるトランザクションの数。n 値は最初の応答時間モニター・ブラケットの上限で、「iSeries <sup>TM</sup> ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページの「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定します。トランザクションは、Enter キーまたは機能キーが押されたためにキーボードがロックされた時から、画面が更新されたためにキーボードがアンロックされた時までの時間として定義されます。	PD (7,0)
RWBKT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 1 より大きく、応答時間モニター 2 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
RWBKT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 2 より大きく、応答時間モニター 3 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
RWBKT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 3 より大きく、応答時間モニター 4 の限界以下であるトランザクションの数。	PD (7,0)
RWBKT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間モニター 4 の限界よりも長いトランザクションの数。	PD (7,0)
RWTRNS	オーバーフロー (RWBKT5) を含む、このレコードで測定され報告されたすべてのやり取りの個々の時間すべての合計。すべてのトランザクションの合計時間 (秒単位)。	PD (7,0)
RWPORT	ワークステーションのポート番号。	PD (3,0)
RWSTN	このポートのワークステーション番号。	PD (3,0)
RWCUD	制御装置記述: このワークステーションが接続されている制御装置の名前。	C (10)
RWLND	回線記述: このワークステーションとその制御装置が接続されている通信回線の名前。	C (10)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSAP

このデータには、サービス・アクセス・ポイント (SAP) ファイル項目が含まれており、SAP ファイル内のフィールドをリストしています。活動状態の TRLAN、イーサネット、DDI、およびフレーム・リレー回線記述の SAP 統計が報告されます (それぞれは、TRLAN、イーサネット、DDI、およびフレーム・リレー・ポートに関連付けられています)。また SAP 統計は、トークンリングおよびイーサネット LAN エミュレーションをサポートする ATM ポートについても報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SCIOPI	予約済み	C (1)
SCTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SCSSAP	SSAP ID: ソース SAP (SSAP) ID。	C (2)
SCLND	回線記述: 上記でリストされている SAP を含む、回線の記述の名前。フレーム・リレーの場合、これはネットワーク・インターフェース (NWI) 記述です。	C (10)
SCLSPD	回線速度: 回線のビット/秒 (bps) 速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
SCIRCV	受信した UI フレーム: この SSAP で受信した UI フレームの合計数。	PD (11,0)
SCIXMT	送信した UI フレーム: この SSAP で送信した UI フレームの合計数。	PD (11,0)
SCBRCV	受信した UI バイト: UI フレーム内に含まれている、この SSAP で受信したバイトの合計数。	PD (11,0)
SCBXMT	送信した UI バイト: UI フレーム内に含まれている、この SSAP で送信したバイトの合計数。	PD (11,0)
SCIDSC	この SSAP で受信し、廃棄された UI フレームの数。	PD (11,0)
SCPRCL	プロトコル・タイプは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• E:トークンリング</li><li>• F:DDI</li><li>• T:イーサネット</li><li>• Y:フレーム・リレー</li></ul>	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNA

この表では、システム・ネットワーク体系 (SNA) ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTDA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SCTLNM	制御装置記述名。	C (10)
SLINNM	回線記述名。	C (10)
STSKNM	T2 端末入出力管理機能 (SIOM) のタスク名。	C (6)
SLIOMT	回線入出力管理機能のタスク名。	C (6)
SACPNM	隣接制御点 (CP) 名。	C (8)
SANWID	隣接ネットワーク ID。	C (8)
SAPPN	APPN 可能 (Y=はい、N=いいえ)。	C (1)
SCTYP	制御装置タイプ (A=APPC、H=ホスト)。	C (1)
SSMFS	送信最大フレーム・サイズ。	PD (11,0)
SRMFS	受信最大フレーム・サイズ。	PD (11,0)
STLLBU	隣接システムとの最新の接続が確立された時の日付 (yymmdd) および時間 (hhmmss)。	C (12)
SNLBU	リモート・システムとの接続が確立された回数。	PD (11,0)
STACVO	デバイスを自動的に作成またはオンに構成変更 (あるいはその両方) するのにかかった累積経過時間。	PD (11,0)
SNACVO	自動的に作成またはオンに構成変更 (あるいはその両方) した装置の数。	PD (11,0)
SNADD	自動的に削除された装置の数。	PD (11,0)
SNWAIN	他の T2 SIOM タスクから送信される作業活動の数 (受け取ったメッセージなど)。	PD (11,0)
SNWAOU	他の T2 SIOM タスクに送信される作業活動の数 (受け取ったメッセージなど)。	PD (11,0)
以下のフィールドは末端地点セッション属性を参照します。		
ENNSS	開始されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ENNSE	終了されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ENNB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ENNEB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ENSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ENSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ENSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ENSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ENIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ENIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ENQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENQTRR	ネットワーク送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ENNRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENLRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ENTRUD	ネットワーク優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ENNRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ENLRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHNSS	開始された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EHNSE	終了された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EHNBB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EHNEB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EHSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
EHSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
EHSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
EHIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EHQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHQTRR	高送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
EHN Rud	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHL Rud	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EHR Rud	高優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
EHN Rur	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EHL Rur	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMNSS	開始された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EMNSE	終了された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
EMNBB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EMNEB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
EMSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
EMSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EMSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
EMSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
EMIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
EMIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
EMQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMQTRR	中送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
EMNRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMLRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
EMTRUD	中優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
EMNRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
EMLRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELNSS	開始された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ELNSE	終了された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ELNBB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ELNEB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ELSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ELSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ELSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
ELSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ELIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ELIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ELQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
ELQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELQTRR	低送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ELNRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELLRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ELTRUD	低優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ELNRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ELLRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
以下のフィールドは中間セッションを参照します。		
INNSS	開始されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
INNSE	終了されたネットワーク優先順位セッションの数。	PD (11,0)
INNBB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
INNEB	すべてのネットワーク優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
INSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
INSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
INSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
INSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
INIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
INIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべてのネットワーク優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
INQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INQTRR	ネットワーク送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
INNRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
INLRUD	隣接システムに転送される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
INTRUD	ネットワーク優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
INNRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
INLRUR	隣接システムから受信される、ネットワーク優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHNSS	開始された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IHNSE	終了された高優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IHNBB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IHNEB	すべての高優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IHSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
IHSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
IHSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
IHIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての高優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IHQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHQTRR	高送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
IHNRUD	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHLRUD	隣接システムに転送される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IHTRUD	高優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
IHNRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IHLRUR	隣接システムから受信される、高優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
IMNSS	開始された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IMNSE	終了された中優先順位セッションの数。	PD (11,0)
IMNBB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IMNEB	すべての中優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
IMSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
IMSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
IMSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
IMIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての中優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
IMQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMQTRR	中送信優先順位の待ち行列内の累積待ち時間。	PD (11,0)
IMNRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMLRUD	隣接システムに転送される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
IMTRUD	中優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
IMNRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
IMLRUR	隣接システムから受信される、中優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILNSS	開始された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ILNSE	終了された低優先順位セッションの数。	PD (11,0)
ILNBB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、開始ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)
ILNEB	すべての低優先順位セッションで送信および受信された、終了ブラケットを持つ要求単位の数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
ILSPWT	セッション・レベル送信メッセージによるすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。この待ち時間は、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間を測定します。	PD (11,0)
ILSPNW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムから受け取るペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ILSPPW	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生する可能性がある待機の数。これは、隣接システムが送信する各ペーシング応答を待つことにより、アプリケーション・データの送信が遅れた時に発生する最悪の場合です。	PD (11,0)
ILSPWS	セッション・レベル送信ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積ウィンドウ・サイズ。ネットワーク優先順位セッションで隣接システムからペーシング応答を受信するたびに、このカウントは、ペーシング応答で指定したウィンドウ・サイズずつ増加します。	PD (11,0)
ILIPWT	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションの累積待ち時間 (ミリ秒単位)。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ILIPNW	内部セッション・レベル・ペーシングでのすべての低優先順位セッションで発生した待機の数。つまり、隣接システムに転送されるデータを待つことにより、アプリケーション・データが妨げられていた (送信できなかった) 時間です。	PD (11,0)
ILQNRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILQLRE	送信優先順位待ち行列に入れる、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILQNRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILQLRL	送信優先順位待ち行列から出す、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILQTRR	低送信優先順位の待ち行列内での累積待ち時間。	PD (11,0)
ILNRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILLRUD	隣接システムに転送される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)
ILTRUD	低優先順位の要求応答単位を隣接システムに転送する累積サービス時間。	PD (11,0)
ILNRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の数。	PD (11,0)
ILLRUR	隣接システムから受信される、低優先順位の要求応答単位の長さ。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSNADS

この表では、SNA 配布サービス (SNADS) ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場合については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)

フィールド名	説明	属性
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SNJNAM	SNADS ジョブ名。	C (10)
SNJUSR	SNADS ジョブ・ユーザー。	C (10)
SNJNBR	SNADS ジョブ番号。	C(6)
SNFTYP	これは、このジョブが実行している SNADS 機能を示す SNADS 機能タイプです。 SNFTYP フィールドは、この SNADS ジョブが扱う活動のタイプを判別するのに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 — SNADS ルーター</li> <li>• 2 — SNADS 受信機能</li> <li>• 3 — SNADS 送信機能</li> <li>• 8 — SNADS DLS ゲート (文書ライブラリー・サービス)</li> <li>• 9 — SNADS RPDS ゲート (VM/MVS ブリッジ、SMTP、X.400)</li> </ul>	PD (3,0)
SNNTR	トランザクション・カウント。	PD (11,0)
SNTRT	トランザクション時間: 配布が待ち行列に置かれてから、このジョブ内でのその配布の処理が完了するまでの時間	PD (11,0)
SNRUT	資源使用時間: 配布が処理される時間の合計 (配布が待ち行列で待っている時間は含まれません)。	PD (11,0)
SNATN	活動状態移行: 条件 (処理する配布) が満たされるまでの待機と配布の処理の開始の間の移行の数。	PD (11,0)
SNERR	エラー・カウント: エラー終了したトランザクションの数。	PD (11,0)
SNNRC	宛先の数: 配布で識別されている宛先の数。	PD (11,0)
SNFSO	ファイル・サーバー・オブジェクト (FSO) カウント: データ・オブジェクトまたは文書を処理するのに必要なトランザクションの数。	PD (11,0)
SNFSOB	FSO バイト・カウント: トランザクションによって処理される FSO (データ・オブジェクトおよび文書) のサイズ。	PD (11,0)
SNFOC	ファンアウト・カウント: 経路指定中に配布のコピーを受信した配布待ち行列の数の累算値。ルーターが処理する配布が 1 つの場合、この値は、配布がシステムから出される送信側トランザクション (パス) の数です。これは、システムから出される配布コピーの数です。(このフィールドをサポートしているのは、ルーター・ジョブのみです。)	PD (11,0)
SNLOC	ローカル転送待ち行列が、経路指定中に配布のコピーを受け取った場合は '1' に設定されます。これは、ローカル・システムがその配布の宛先だったことを示しています。(このフィールドをサポートしているのは、ルーター・ジョブのみです。)	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTND

このデータには、FDDI 端末ファイル項目が含まれています。これは、分散データ・インターフェース (DDI) 情報用の端末カウンター・ファイルです。これらのフィールドは DDI 端末カウンター・ファイル内にあります。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。



フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SDIOPI	予約済み	C (1)
SDTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SDPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SDLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
SDSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
SDLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SDTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SDTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SDBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SDBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SDIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SDIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SDIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
SDBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SDRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SDRNRR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SDFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SDFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SDREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SDREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SDSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SDSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SDDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SDDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SDDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SDDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SDN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SDTITE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SDTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SDLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SDPRCL	プロトコル・タイプ: C (DDI 用)。	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNE

このデータには、イーサネット端末ファイル項目が含まれており、イーサネット端末ファイル内のフィールドをリストしています。イーサネット LAN 端末統計は、イーサネット・ポート、およびイーサネット LAN エミュレーションをサポートする ATM ポートと関連付けられている、活動状態のイーサネット回線記述について報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
STIOPI	予約済み	C (1)
STTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
STPCEP	プロバイダー接続エンドポイント (PCEP) ID。	C (8)
STLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
STSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
STLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。複数の回線の場合、この値は時間によって変わることがあります。	PD (11,0)
STTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
STTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
STBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
STBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
STIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
STIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
STIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
STBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
STRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
STRNRR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
STFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
STFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
STREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
STREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
STSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
STSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
STDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
STDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
STDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
STDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
STN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
STTITE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
STTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
STLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
STPRCL	プロトコル・タイプ: T (イーサネット・ネットワーク用)	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNL

このデータには、トークンリング端末ファイル項目が含まれており、トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 端末ファイル内のフィールドをリストしています。トークンリング LAN 端末統計は、イーサネット・ポート、およびトークンリング LAN エミュレーションをサポートする ATM ポートと関連付けられている、活動状態のトークンリング回線記述について報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SLIOPI	予約済み	C (1)
SLTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SLPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SLLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
SLSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
SLLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SLTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SLTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SLBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SLBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SLIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SLIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SLIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)
SLBREX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SLRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SLRNR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SLFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SLFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SLREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SLREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
SLSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SLSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SLDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SLDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SLDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SLDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SLN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SLT1TE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SLTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SLLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SLPRCL	プロトコル・タイプ: E (トークンリング・ネットワーク用)	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSTNY

このデータには、フレーム・リレー端末ファイル項目が含まれており、フレーム・リレー端末ファイル内のフィールドをリストしています。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
SYIOPI	予約済み	C (1)
SYTYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
SYPCEP	プロバイダー接続末端地点 (PCEP) ID。	C (8)
SYLND	ネットワーク・インターフェース (NWI) 記述: このネットワーク・インターフェースの記述の名前。	C (10)
SYSTNN	端末名: この回線上の端末の名前。	C (10)
SYLSPD	回線速度: ビット/秒 (bps) で表される回線速度。	PD (11,0)
SYTXMT	送信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SYTRCV	受信されたタイプ II フレームの合計数。	PD (11,0)
SYBXMT	すべての I フレーム内の送信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SYBRCV	すべての I フレーム内の受信されたバイトの合計数。	PD (11,0)
SYIXMT	送信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SYIRCV	受信された I フレームの合計数。	PD (11,0)
SYIREX	再送された I フレームの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYBEX	I フレーム内での再送されたバイト数。	PD (11,0)
SYRNRX	送信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SYRNR	受信された受信不可のフレームの数。	PD (5,0)
SYFRMX	送信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SYFRMR	受信されたフレーム拒否のフレームの数。	PD (5,0)
SYREJR	受信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SYREJX	送信された拒否フレームの数。	PD (5,0)
SYSABX	送信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SYSABR	受信された拡張非同期平衡モード設定のフレームの数。	PD (5,0)
SYDISX	送信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SYDISR	受信された切断フレームの数。	PD (5,0)
SYDMFX	送信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SYDMFR	受信された切断モード・フレームの数。	PD (5,0)
SYN2RE	N2 再試行終了カウント: このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SYT1TE	T1 タイマー終了カウント: T1 タイマーが終了した回数。このカウントは、ホストが端末への通信を n 回試行し、端末が応答する前に T1 タイマーが n 回終了した時点で更新されます。	PD (5,0)
SYTITE	Ti タイマー終了カウント: Ti タイマー (非活動タイマー) が終了した回数。	PD (5,0)
SYLBCT	ローカル・ビジー・カウント: 端末がローカル・ビジー副状態になった回数。	PD (5,0)
SYPRCL	プロトコル・タイプ: Y (フレーム・リレー用)	C (1)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYS および QAPMSYSL

QAPMSYS ファイルは、パフォーマンス・モニターのデータベース・ファイルがパフォーマンス・データの変換 (CVTPFRDTA) コマンドによって新しいリリースにマイグレーションされる時に作成されます。収集サービスでは、このファイルは作成されません。QAPMSYSL ファイルは、パフォーマンス・モニターとの互換のために作成されるもので、QAPMJSUM、QAPMSYSCPU、および QAPMSYSTEM の各ファイルのデータを結合させます。このファイルは、パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドでこれらすべてのカテゴリーが要求された場合に作成されます。このファイルには、システム間隔ファイルの項目が含まれています。

フィールドの説明の中では、以下の用語が、ジョブのグループごとに繰り返し用いられています。

- データベース読み取り操作の数。データベース機能に対して行われた物理的な読み取り操作の合計数。
- 非データベース読み取り操作の数。非データベース機能に対して行われた物理的な読み取り操作の合計数。
- 書き出し操作の数。物理的な書き出し操作の合計数。
- 印刷行数。プログラムによって書き出された行数。実際に印刷される行数とは異なります。スプール・ファイルでは、最終的に複数のコピーが作成されたり印刷されたりする場合があります。
- データベース書き出し/読み取り (論理) の数。データベース・モジュールが呼び出された回数。読み取り/書き出しプログラムへの入出力操作、あるいはスプール・ファイルのコピー (CPYSPLF) コマンドやスプール・ファイルの表示 (DPSPLF) コマンドによって実行された入出力操作は、これに含まれません。



ん。SEQONLY(\*YES) が有効な場合、これらの数値は、個々のレコードの読み取り/書き出しの数ではなく、各ブロックごとのレコードの読み取り/書き出しの数を示します。

- 通信書き出し/読み取り (論理) の数。これには、リモート・ワークステーションの活動は含まれません。通信デバイスに対する入出力で OS/400<sup>(R)</sup>-ICF ファイルに関連して行われた活動のみがこれに含まれます。

ブロックになっている入出力は、1 つの入出力操作として認識されるので注意してください。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
SYDPGF	ディレクトリー・ページ不在: 補助記憶域ディレクトリーのページが探索や割り振り操作のために主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYAPGF	アクセス・グループ・メンバー・ページ不在: アクセス・グループ内に含まれているオブジェクトのページがアクセス・グループから独立して主記憶装置に転送された回数。この転送は、そのページが含まれているアクセス・グループが除去された場合や、そのアクセス・グループのある部分が主記憶装置から移されたために行われます。	PD (11,0)
SYMPGF	マイクロコード・ページ不在: マイクロコードのページが主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTR	マイクロタスク読み取り操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが補助記憶域から転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTW	マイクロタスク書き出し操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが主記憶装置から補助記憶域に転送された回数。	PD (11,0)
SYSASP	使用可能な補助記憶域プール・スペース: マシン・インターフェース (MI) オブジェクトやマシン内部の機能に現在割り当てられておらず、システム ASP で割り振ることのできる補助記憶域のスペースのバイト数。	PD (15,0)
SYPRMW	主記憶装置から転送された永続データ: 直前のサンプル以降に、主記憶装置から補助記憶域内のシステム ASP に転送された永続データの 512 バイト・ブロックの数。	PD (11,0)
SYXSRW	予約済み	PD (11,0)
SYEAOT	予約済み	PD (11,0)
SYEAOL	予約済み	PD (11,0)
SYBSYC	予約済み	PD (11,0)
SYSIZC	サイズのカウンタ: サイズ例外の合計数。	PD (11,0)
SYDECD	10 進数データのカウンタ: 10 進数データ例外の合計数。	PD (11,0)
SYSEZC	占有のカウンタ: 占有待機の合計数。	PD (11,0)
SYSZWT	ミリ秒単位の占有/待機時間。	PD (11,0)
SYSYNL	同期ロックの競合のカウンタ。	PD (11,0)
SYASYL	非同期ロックの競合のカウンタ。	PD (11,0)
SYVFYC	検査のカウンタ。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SYAUTH	▶ オブジェクト権限検査。オブジェクトで権限が検査された回数。1つのオブジェクトの権限検査の結果、キャッシュ付きまたはキャッシュなしのユーザー権限探索が0回、1回、または複数回行われます (SYNUAL フィールドの説明を参照)。◀	PD (11,0)
SYCHNB	予約済み	PD (11,0)
SYEXPN	例外の合計数。	PD (11,0)
SYLRT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries <sup>TM</sup> ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 1 の値より小さいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 2 の値より小さく、境界 1 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 3 の値より小さく、境界 2 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より小さく、境界 3 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SDCPU	ターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) に使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SDRES1	予約済み	PD (15,3)
SDRES2	予約済み	PD (11,0)
SDPRTL	すべてのターゲット DDM ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SDP RTP	すべてのターゲット DDM ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SDSPD	ターゲット DDM ジョブの中断時間の合計カウント。	PD (11,0)
SDRRT	ターゲット DDM ジョブが再ルーティングの間待機した時間の合計カウント。	PD (11,0)
SDNEW	新規のターゲット DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDTERM	終了したターゲット DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDJBCT	DDM ジョブの数。	PD (11,0)
SDPDBR	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDPNDB	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SDPWRT	ターゲット DDM ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDLDBR	ターゲット DDM ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDLDBW	ターゲット DDM ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDLDBU	ターゲット DDM ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SDCMPT	ターゲット DDM ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SDCMGT	ターゲット DDM ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SDBRG	予約済み	PD (11,0)
SDPRG	予約済み	PD (11,0)
SDNDW	同期非データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDDBW	同期データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDANDW	非同期非データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDADBW	非同期データベース書き出しの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SDANDR	非同期非データベース読み取りの数: ターゲット DDM ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SDADBR	非同期データベース読み取りの数: ターゲット DDM ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SDPW	ターゲット DDM ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SDCS	予約済み	PD (11,0)
SDPAGF	PAG 障害の数。ターゲット DDM ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SDEAO	予約済み	PD (11,0)
SDOBIN	ターゲット DDM ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDODEC	ターゲット DDM ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDOFLP	ターゲット DDM ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SDIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) にページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SDWIO	ターゲット分散データ管理機能 (DDM ジョブ) が未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SDSKSC	ソケット送信の DDM 番号。	PD (11,0)
SDSKBS	送信されたソケット・バイトの DDM 番号。	PD (11,0)
SDSKRC	ソケット受信の DDM 番号。	PD (11,0)
SDSKBR	受信されたソケット・バイトの DDM 番号。	PD (11,0)
SDXRFR	DDM ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SDXRFW	DDM ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SDXSLR	DDM ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SDXDYR	DDM ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SDDLCH	DDM ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SDDLCHM	DDM ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SDSZWT	ミリ秒単位の DDM 占有/待機時間。	PD (11,0)
SWCPU	iSeries Access アプリケーションに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SWRES1	予約済み	PD (15,3)
SWRES2	予約済み	PD (11,0)
SWPRTL	すべての iSeries Access アプリケーション・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SWP RTP	すべての iSeries Access アプリケーション・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SWSPD	iSeries Access アプリケーション・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SWRRT	iSeries Access アプリケーション・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SWNEW	開始済みの iSeries Access アプリケーション・ジョブの数。	PD (11,0)
SWTERM	終了済みの iSeries Access アプリケーション・ジョブの数。	PD (11,0)
SWJBCT	iSeries Access ジョブの数。	PD (11,0)
SWPDBR	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWPNDB	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWPWRT	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWLDBR	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWLDBW	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWLDBU	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SWCMPT	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SWCMGT	iSeries Access アプリケーション・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SWBRG	予約済み	PD (11,0)
SWPRG	予約済み	PD (11,0)
SWNDW	同期非データベース書き出しの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWDBW	同期データベース書き出しの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWANDW	非同期非データベース書き出しの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SWADBW	非同期データベース書き出しの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SWANDR	非同期非データベース読み取りの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SWADBR	非同期データベース読み取りの数: iSeries Access アプリケーション・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SWPW	iSeries アクセス・アプリケーションによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SWCS	予約済み	PD (11,0)
SWPAGF	PAG 障害の数。 iSeries アクセス・アプリケーション・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SWEAO	予約済み	PD (11,0)
SWOBIN	iSeries アクセス・アプリケーションによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWODEC	iSeries アクセス・アプリケーションによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWOFLP	iSeries Access アプリケーションによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SWIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで iSeries Access アプリケーション・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SWWIO	iSeries Access アプリケーション・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SWSKSC	ソケット送信の iSeries Access 番号。	PD (11,0)
SWSKBS	送信されたソケット・バイトの iSeries Access 番号。	PD (11,0)
SWSKRC	ソケット受信の iSeries Access 番号。	PD (11,0)
SWSKBR	受信されたソケット・バイトの iSeries Access 番号。	PD (11,0)
SWXRFR	iSeries Access ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SWXRFW	iSeries Access ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SWXSLR	iSeries Access ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SWXDYR	iSeries Access ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SWDLCH	iSeries Access ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SWDLCM	iSeries Access ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SWSZWT	ミリ秒単位の iSeries Access 占有/待機時間。	PD (11,0)
SPCPU	パススルー・ターゲット・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SPRES1	パススルー・ターゲット・ジョブによる合計トランザクション時間。	PD (15,3)
SPRES2	パススルー・ターゲット・ジョブによるトランザクションの合計数。	PD (11,0)
SPPRTL	すべてのパススルー・ターゲット・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SPPRTP	すべてのパススルー・ターゲット・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SPSPD	パススルー・ターゲット・ジョブの中断時間の合計カウント。	PD (11,0)
SPRRT	パススルー・ターゲット・ジョブが再ルーティングの間待機した時間の合計カウント。	PD (11,0)
SPNEW	開始されたパススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)
SPTERM	終了したパススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)
SPJBCT	パススルー・ターゲット・ジョブの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SPPDBR	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPPNDB	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPPWRT	パススルー・ターゲット・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SPLDBR	パススルー・ターゲット・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPLDBW	パススルー・ターゲット・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SPLDBU	パススルー・ターゲット・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SPCMPT	パススルー・ターゲット・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SPCMGT	パススルー・ターゲット・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SPBRG	予約済み	PD (11,0)
SPPRG	予約済み	PD (11,0)
SPNDW	同期非データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPDBW	同期データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPANDW	非同期非データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPADBW	非同期データベース書き出しの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SPANDR	非同期非データベース読み取りの数: パススルー・ターゲット・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SPADBR	非同期データベース読み取りの数: パススルー・ターゲット・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SPPW	パススルー・ターゲット・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SPCS	予約済み	PD (11,0)
SPPAGF	PAG 障害の数: パススルー・ターゲット・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SPEAO	予約済み	PD (11,0)
SPOBIN	パススルー・ターゲット・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPODEC	パススルー・ターゲット・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPOFLP	パススルー・ターゲット・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SPIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでパススルー・ターゲット・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SPWIO	パススルー・ターゲット・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SPSKSC	ソケット送信のパススルー番号。	PD (11,0)
SPSKBS	送信されたソケット・バイトのパススルー番号。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SPSKRC	ソケット受信のパススルー番号。	PD (11,0)
SPSKBR	受信されたソケット・バイトのパススルー番号。	PD (11,0)
SPXRFR	パススルー・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SPXRFW	パススルー・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SPXSLR	パススルー・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SPXDYR	パススルー・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SPDLCH	パススルー・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SPDLCM	パススルー・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SPSZWT	ミリ秒単位のパススルー占有/待機時間。	PD (11,0)
SMCPU	複数要求端末 (MRT) ジョブ (システム/36 (System/36 <sup>TM</sup> ) 環境のみ) に使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMRES1	予約済み	PD (15,3)
SMRES2	予約済み	PD (11,0)
SMPRTL	すべての複数要求端末 (MRT) ジョブ (システム/36 環境のみ) の印刷行の合計数。	PD (11,0)
SMPRTP	すべての MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SMSPD	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が中断された合計時間。	PD (11,0)
SMRRT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SMNEW	開始された MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMTERM	終了した MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMJBCT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) の数。	PD (11,0)
SMPDBR	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMPNDB	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMPWRT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMLDBR	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMLDBW	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMLDBU	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SMCMPT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SMCMGT	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SMBRG	予約済み	PD (11,0)
SMPRG	予約済み	PD (11,0)
SMNDW	同期非データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SMDBW	同期データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SMANDW	非同期非データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SMADBW	非同期データベース書き出しの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SMANDR	非同期非データベース読み取りの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SMADBR	非同期データベース読み取りの数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) がデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SMPW	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SMCS	予約済み	PD (11,0)
SMPAGF	PAG 障害の数: MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) によってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SMEAO	予約済み	PD (11,0)
SMOBIN	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SMODEC	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SMOFLP	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) による浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SMIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) にページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SMWIO	MRT ジョブ (システム/36 環境のみ) が未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SMSKSC	ソケット送信の MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKBS	送信されたソケット・バイトの MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKRC	ソケット受信の MRTS 番号。	PD (11,0)
SMSKBR	受信されたソケット・バイトの MRTS 番号。	PD (11,0)
SMXRFR	MRTS ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SMXRFW	MRTS ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SMXSLR	MRTS ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SMXDYR	MRTS ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SMDLCH	MRTS ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SMDLCM	MRTS ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SMSZWT	ミリ秒単位の MRTS 占有/待機時間。	PD (11,0)
S6CPU	システム/36 環境ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
S6TRNT	合計応答時間。	PD (15,3)
S6TRNS	トランザクションの数。	PD (11,0)
S6PRTL	すべてのシステム/36 環境ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
S6P RTP	すべてのシステム/36 環境ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
S6SPD	システム/36 環境ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
S6RRT	システム/36 環境ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
S6NEW	開始されたシステム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)
S6TERM	終了したシステム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)
S6JBCT	システム/36 環境ジョブの数。	PD (11,0)
S6PDBR	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6PNDB	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6PWRT	システム/36 環境ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6LDBR	システム/36 環境ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6LDBW	システム/36 環境ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6LDBU	システム/36 環境ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
S6CMPT	システム/36 環境ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
S6CMGT	システム/36 環境ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
S6BRG	予約済み	PD (11,0)
S6PRG	予約済み	PD (11,0)
S6NDW	同期非データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6DBW	同期データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ANDW	非同期非データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ADBW	非同期データベース書き出しの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
S6ANDR	非同期非データベース読み取りの数: システム/36 環境ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
S6ADBR	非同期データベース読み取りの数: システム/36 環境ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
S6PW	システム/36 環境ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
S6CS	予約済み	PD (11,0)
S6PAGF	PAG 障害の数: システム/36 環境ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
S6EAO	予約済み	PD (11,0)
S6OBIN	システム/36 環境ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6ODEC	システム/36 環境ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6OFLP	システム/36 環境ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
S6IPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでシステム/36 環境ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
S6WIO	システム/36 環境ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
S6SKSC	ソケット送信の S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKBS	送信されたソケット・バイトの S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKRC	ソケット受信の S36E 番号。	PD (11,0)
S6SKBR	受信されたソケット・バイトの S36E 番号。	PD (11,0)
S6XRFR	S36E ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
S6XRFW	S36E ファイル・システム・ディレクトリー書き出し。	PD (11,0)
S6XSLR	S36E ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
S6XDYR	S36E ディレクトリー・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
S6DLCH	S36E ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
S6DLCM	S36E ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
S6SZWT	ミリ秒単位の S36E 占有/待機時間。	PD (11,0)
SECPU	通信バッチ・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SERES1	予約済み	PD (15,3)
SERES2	予約済み	PD (11,0)
SEPRTL	すべての通信バッチ・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SEPRTF	すべての通信バッチ・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SESPD	通信バッチ・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SERRT	通信バッチ・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SENEW	開始された通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SETERM	終了した通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SEJBCT	通信バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SEPDBR	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEPNDB	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEPWRT	通信バッチ・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SELDBR	通信バッチ・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SELDBW	通信バッチ・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SELDBU	通信バッチ・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SECMPT	通信バッチ・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SECMGT	通信バッチ・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SEBRG	予約済み	PD (11,0)
SEPRG	予約済み	PD (11,0)
SENDW	同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEDBW	同期データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEANDW	非同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEADBW	非同期データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SEANDR	非同期非データベース読み取りの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SEADBR	非同期データベース読み取りの数: 通信バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SEPWW	通信バッチ・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SECS	予約済み	PD (11,0)
SEPAGF	PAG 障害の数: 通信バッチ・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SEEAO	予約済み	PD (11,0)
SEOBIN	通信バッチ・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEODEC	通信バッチ・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEOFLL	通信バッチ・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SEIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで通信バッチ・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SEWIO	通信バッチ・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SESKSC	ソケット送信の呼び出し番号。	PD (11,0)
SESKBS	送信されたソケット・バイトの呼び出し番号。	PD (11,0)
SESKRC	ソケット受信の呼び出し番号。	PD (11,0)
SESKBR	受信されたソケット・バイトの呼び出し番号。	PD (11,0)
SEXRFRR	呼び出しファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SEXRFWR	呼び出しファイル・システム・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SEXSLRR	呼び出しファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SEXDYRR	呼び出しストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SEDLCHR	呼び出しファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SEDLCMR	呼び出しファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SESZWTR	ミリ秒単位の呼び出し占有/待機時間。	PD (11,0)
SACPU	自動開始ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SARES1	予約済み	PD (15,3)
SARES2	予約済み	PD (11,0)
SAPRTL	すべての自動開始ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SAPRTP	すべての自動開始ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SASPD	自動開始ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SARRT	自動開始ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SANEW	開始された自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SATERM	終了した自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SAJBCT	自動開始ジョブの数。	PD (11,0)
SAPDBR	自動開始ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SAPNDB	自動開始ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SAPWRT	自動開始ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SALDBR	自動開始ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SALDBW	自動開始ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SALDBU	自動開始ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SACMPT	自動開始ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SACMGT	自動開始ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SABRG	予約済み	PD (11,0)
SAPRG	予約済み	PD (11,0)
SANDW	同期非データベース書き出しの数: 通信バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SADBW	同期データベース書き出しの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAANDW	非同期非データベース書き出しの数: 自動開始ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAADBW	非同期データベース書き出しの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SAANDR	非同期非データベース読み取りの数: 自動開始ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SAADBR	非同期データベース読み取りの数: 自動開始ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SAPW	自動開始ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SACS	予約済み	PD (11,0)
SAPAGF	PAG 障害の数: 自動開始ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SAEAO	予約済み	PD (11,0)
SAOBIN	自動開始ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SAODEC	自動開始ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SAOFLP	自動開始ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SAIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで自動開始ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SAWIO	自動開始ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SASKSC	ソケット送信の自動開始番号。	PD (11,0)
SASKBS	送信されたソケット・バイトの自動開始番号。	PD (11,0)
SASKRC	ソケット受信の自動開始番号。	PD (11,0)
SASKBR	受信されたソケット・バイトの自動開始番号。	PD (11,0)
SAXRFR	自動開始ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SAXRFW	自動開始ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SAXSLR	自動開始ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SAXDYR	自動開始ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SADLCH	自動開始ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SADLCM	自動開始ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SASZWT	ミリ秒単位の自動開始占有/待機時間。	PD (11,0)
SBCPU	バッチ・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SBRES1	予約済み	PD (15,3)
SBRES2	予約済み	PD (11,0)
SBPRTL	すべてのバッチ・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SBPRTTP	すべてのバッチ・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SBSPPD	バッチ・ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SBRRT	バッチ・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SBNEW	開始されたバッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SBTERM	終了したバッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SBJBCT	バッチ・ジョブの数。	PD (11,0)
SBPDBR	バッチ・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBPNDB	バッチ・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBPWRT	バッチ・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBLDBR	バッチ・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBLDBW	バッチ・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBLDBU	バッチ・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SBCMPT	バッチ・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SBCMGT	バッチ・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SBBRG	予約済み	PD (11,0)
SBPRG	予約済み	PD (11,0)
SBNDW	同期非データベース書き出しの数: バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBDBW	同期データベース書き出しの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBANDW	非同期非データベース書き出しの数: バッチ・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBADBW	非同期データベース書き出しの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SBANDR	非同期非データベース読み取りの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SBADBR	非同期データベース読み取りの数: バッチ・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SBPW	バッチ・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SBCS	予約済み	PD (11,0)
SBPAGF	PAG 障害の数: バッチ・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SBEAO	予約済み	PD (11,0)
SBOBIN	バッチ・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)



フィールド名	説明	属性
SBODEC	バッチ・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SBOFLP	バッチ・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SBIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスでバッチ・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SBWIO	バッチ・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SBSKSC	ソケット送信のバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKBS	受信されたソケット・バイトのバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKRC	ソケット受信のバッチ番号。	PD (11,0)
SBSKBR	受信されたソケット・バイトのバッチ番号。	PD (11,0)
SBXRFR	バッチ・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SBXRFW	バッチ・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SBXSLR	バッチ・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SBXDYR	バッチ・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SBDLCH	バッチ・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SBDLCM	バッチ・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SBSZWT	ミリ秒単位のバッチ占有/待機時間。	PD (11,0)
SICPU	対話型ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SITRNT	対話型ジョブによる合計トランザクション時間。	PD (15,3)
SITRNS	対話型ジョブによるトランザクションの合計数。	PD (11,0)
SIPRTL	すべての対話型ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SIPRTP	すべての対話型ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SISPD	対話型ジョブが延期された合計時間。	PD (11,0)
SIRRT	対話型ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SINEW	開始された対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SITERM	終了した対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SIJBCT	対話型ジョブの数。	PD (11,0)
SIPDBR	対話型ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIPNDB	対話型ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIPWRT	対話型ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SILDBR	対話型ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SILDBW	対話型ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SILDBU	対話型ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SICMPT	対話型ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SICMGT	対話型ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SIBRG	予約済み	PD (11,0)
SIPRG	予約済み	PD (11,0)
SINDW	同期非データベース書き出しの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIDBW	同期データベース書き出しの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SIANDW	非同期非データベース書き出しの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIADBW	非同期データベース書き出しの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SIANDR	非同期非データベース読み取りの数: 対話型ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SIADBR	非同期データベース読み取りの数: 対話型ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)
SIPW	対話型ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SICS	予約済み	PD (11,0)
SIPAGF	PAG 障害の数: 対話型ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SIEAO	予約済み	PD (11,0)
SIOBIN	対話型ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIODEC	対話型ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIOFLP	対話型ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SIIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで対話型ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SIWIO	対話型ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SISKSC	ソケット送信の対話式番号。	PD (11,0)
SISKBS	送信されたソケット・バイトの対話式番号。	PD (11,0)
SISKRC	ソケット受信の対話式番号。	PD (11,0)
SISKBR	受信されたソケット・バイトの対話式番号。	PD (11,0)
SIXRFR	対話式ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SIXRFW	対話式ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SIXSLR	対話式ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SIXDYR	対話式ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SIDLCH	対話式ファイル検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SIDLCM	対話式ファイル検索キャッシュ脱着。	PD (11,0)
SISZWT	ミリ秒単位の対話式占有/待機時間。	PD (11,0)
SXCPU	CPF 開始 (SCPF) ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SXRES1	予約済み	PD (15,3)
SXRES2	予約済み	PD (11,0)
SXPRTL	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの印刷行の合計数。	PD (11,0)
SXPRTPT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの印刷ページの合計数。	PD (11,0)
SXSPD	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが中断された合計時間。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SXRRT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが再ルーティングの間待機した合計時間。	PD (11,0)
SXNEW	開始された SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)
SXTERM	終了した SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)
SXJBCT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブの数。	PD (11,0)
SXPDBR	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXPNDB	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期非データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXPWRT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる物理的な同期データベースおよび非データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXLDBR	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる論理データベース読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXLDBW	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる論理データベース書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXLDBU	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる各種データベース操作の合計数。	PD (11,0)
SXCMPT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる通信書き出しの合計数。	PD (11,0)
SXCMGT	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる通信読み取りの合計数。	PD (11,0)
SXBRG	予約済み	PD (11,0)
SXPRG	予約済み	PD (11,0)
SXNDW	同期非データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXDBW	同期データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXANDW	非同期非データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXADBW	非同期データベース書き出しの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXANDR	非同期非データベース読み取りの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが非データベース機能に対して行った物理的な非同期非データベース書き出し操作の合計数。	PD (11,0)
SXADBR	非同期データベース読み取りの数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブがデータベース機能に対して行った物理的な非同期データベース読み取り操作の合計数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SXPW	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる永続的書き出しの数。	PD (11,0)
SXCS	予約済み	PD (11,0)
SXPAGF	PAG 障害の数: SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによってプログラム・アクセス・グループ (PAG) が参照されたが、それが主記憶装置に存在しなかった合計回数。ライセンス内部コードでは、データをキャッシュに入れるための処理アクセス・グループは使用しなくなりました。このインプリメンテーションのため、現行リリース以降ではこのフィールドは必ず 0 になります。	PD (11,0)
SXEAO	予約済み	PD (11,0)
SXOBIN	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる 2 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXODEC	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる 10 進数オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXOFLP	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブによる浮動小数点オーバーフローの数。	PD (11,0)
SXIPF	補助記憶域入出力操作に使われていたアドレスで SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブにページ不在が発生した回数。	PD (11,0)
SXWIO	SCPF ジョブ、スプール読み取りプログラム・ジョブ、またはスプール書き出しプログラム・ジョブが未解決の非同期入出力操作の完了を明示的に待機した回数。	PD (11,0)
SXSKSC	ソケット送信のスプール番号。	PD (11,0)
SXSKBS	送信されたソケット・バイトのスプール番号。	PD (11,0)
SXSKRC	ソケット受信のスプール番号。	PD (11,0)
SXSKBR	受信されたソケット・バイトのスプール番号。	PD (11,0)
SXXRFR	スプール・ストリーム・ファイル読み取り。	PD (11,0)
SXXRFW	スプール・ストリーム・ファイル書き出し。	PD (11,0)
SXXSLR	スプール・ファイル・システム・シンボリック・リンク読み取り。	PD (11,0)
SXXDYR	スプール・ファイル・システム・ディレクトリー読み取り。	PD (11,0)
SXXDLCH	スプール・ファイル・システム検索キャッシュ・ヒット。	PD (11,0)
SXXDLCM	スプール・ファイル・システム検索キャッシュ脱落。	PD (11,0)
SXSZWT	ミリ秒単位のスプール占有/待機時間。	PD (11,0)
SHCPU	マイクロコード/システム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMPLP	マシン・プール・ページング: マシン・プールの内外に転送されたページの数。	PD (11,0)
SMUPL	最高ユーザー・プール・ページング: ユーザー・プールの内外に転送されたページの最高数。	PD (11,0)
SUPLI	最高ページングのあったプール: 最高数のページが内外に転送されたプールの番号。	C (2)
SMXDU	最大ディスク使用率。すべての単一パス・ディスク装置およびすべてのマルチパス・ディスク装置の最大使用率。	PD (11,0)
SMXDUI	使用率が最大のアクチュエーター。	C (4)
SMMMT	すべての MRT 要求によって MRTMAX で費やされた時間 (秒)。	PD (11,0)
SMME	MRT に経路指定されたリクエストの数。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYFOPN	システム全体での全オープンの回数。	PD (11,0)
SYIXRB	システム全体での索引再作成の回数。	PD (11,0)
SYJOXR	ユーザーによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXP	ユーザーによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIR	システムによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIP	システムによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXD	ユーザーがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOID	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOJP	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果の、ユーザーが作成したジャーナルへのジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOBJ	ユーザーが作成したジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOB D	システム内部のジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOJY	システムによって現在ジャーナル処理されている公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOJN	現在ジャーナル処理されていない公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOSE	システムが見積もった公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYJORT	システム管理の公開アクセス・パス調整。	PD (11,0)
SYJOND	システムが見積もった、システムでジャーナル処理されている公開アクセス・パスがない場合の公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYSCPU	最初の処理装置 (処理装置が 1 つしかない場合も含む) で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYCPU2....4	2 番目から 4 番目の処理装置で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。該当する番号の処理装置がシステムに存在しない場合は、値がブランクになります。	PD (9,0)
SYCP5....32	5 番目から 32 番目の処理装置で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。該当する番号の処理装置がシステムに存在しない場合は、値がブランクになります。	PD (9,0)
SYHEAO	任意のテラスペース内にある 16 MB 境界の交差の数。テラスペースの EAO 例外も呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFST	余分な処理を必要とするスペース・アドレス計算 (テラスペースのアドレッシングではない) の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、スペース・オブジェクトの先頭ページ内や、マシンが位置合わせを選択しなかった関連スペース内になると、このように余分な処理が必要になる場合があります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTH	余分な処理を必要とするテラスペース・アドレス計算の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、テラスペースにある 16 MB 境界の直後のページ内になると、このように余分な処理が必要になります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYIFUS	対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTE	しきい値を超えた対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSDBC	データベース CPU 時間。データベース処理に使用された CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSSWC	2 次ワークロードの CPU 時間。専用サーバーのリソースを十分に利用できないワークロードを実行するすべてのジョブにかかる CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)



フィールド名	説明	属性
SYLPTB	LPAR 時間基準。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。	PD (11,0)
SYNUAL	キャッシュなしユーザー権限探索。キャッシュなしユーザー権限探索が実行された回数。1 つのオブジェクトの権限検査の結果、ユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます。ユーザー権限探索は、ユーザー、ユーザーのグループ、または借用ユーザーについて行われ、キャッシュ付きでもキャッシュなしでも構いません。	PD (15,0)
SYIFTA	使用可能な対話型 CPU 時間。区画内で使用可能だった対話式 CPU 時間の長さ。これは、区画内で使用するために構成された対話式キャパシティーです (対話式しきい値としても表示される)。	PD (11,0)
SYSPTU	使用された CPU 時間。区画に使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYSCTA	使用可能な構成済み CPU 時間。この区画に使用できるように構成されたか、またはそのように保証された合計処理時間 (ミリ秒単位)。これは間隔内で処理装置割り振りによって決定される、システム処理キャパシティーです。注: 上限なしの区画の場合、実際に使用される CPU はこの値を超えても構いません。	PD (11,0)
SYSUTA	使用可能な上限なしの CPU 時間。この区画用に使用可能にされた合計処理時間 (ミリ秒単位) (時間外の構成変更用に調整)。保証された構成済みキャパシティーと、他の区画に使用されていなかった共用プール時間の両方が含まれます。上限あり、および、専用区画の場合、または共用プール・データが使用できない場合、これは構成済みの上限なし CPU 時間 (SYSUTC) と同じです。	PD (11,0)
SYSUTC	構成済みの上限なしの CPU 時間。この区画が共用プール内での使用のために構成 (許可) される CPU 時間の最大量 (時間外の構成変更用に調整)。このフィールドは、最小限に構成された仮想プロセッサ、および構成された共用プール・プロセッサを定義します。上限あり、および、専用区画の場合、これは使用可能な構成済み CPU 時間 (SYSCTA) と同じです。	PD (11,0)
SYSPLU	使用された共用プール CPU 時間。プールを共用するすべての区画が、共用プール内で使用する CPU の合計。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYSPLA	使用可能な共用プール CPU 時間。共用プール内で使用可能な CPU の合計時間。この値は、プールに割り振られる物理プロセッサの数に基づいて決定されます。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0) <<

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSCPU

このファイルはすべての処理装置の使用率を報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

このファイルで報告される個々の CPU データは、拡大縮小されなくなりました。詳細は、CPU 使用率の報告を参照してください。



フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
SCTNUM	報告されるシステム CPU の合計数。報告される CPU の数には、構成変更のために現在使用されていない CPU が含まれることがあります。フィールド SCTACT には、活動中のプロセッサの数が含まれます。	Z (3,0)
SCBGN	このレコードで報告される最初の CPU の CPU 番号。	Z (3,0)
SCPU01....32	1 番目から 32 番目の CPU で使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCIFUS	対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCIFTE	しきい値を超えた対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SCTACT	データがサンプルとされたときに活動中であるプロセッサの現在の数。	Z (3,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMSYSTEM

このファイルは、システム全体のパフォーマンス・データを報告します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
SYDPGF	ディレクトリー・ページ不在: 補助記憶域ディレクトリーのページが探索や割り振り操作のために主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYAPGF	アクセス・グループ・メンバー・ページ不在: アクセス・グループ内に含まれているオブジェクトのページがアクセス・グループから独立して主記憶装置に転送された回数。この転送は、そのページが含まれているアクセス・グループが除去された場合や、そのアクセス・グループのある部分が主記憶装置から移されたために行われます。	PD (11,0)
SYMPGF	マイクロコード・ページ不在: マイクロコードのページが主記憶装置に転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTR	マイクロタスク読み取り操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが補助記憶域から転送された回数。	PD (11,0)
SYMCTW	マイクロタスク書き出し操作: 処理ではなく、マイクロタスクのために 1 ページ以上のデータが主記憶装置から補助記憶域に転送された回数。	PD (11,0)
SYSASP	使用可能な補助記憶域プール・スペース: マシン・インターフェース (MI) オブジェクトやマシン内部の機能に現在割り当てられておらず、システム ASP で割り振ることのできる補助記憶域のスペースのバイト数。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
SYPRMW	主記憶装置から転送された永続データ: 直前のサンプル以降に、主記憶装置から補助記憶域内のシステム ASP に転送された永続データの 512 バイト・ブロックの数。	PD (11,0)
SYSIZC	サイズのカウント: サイズ例外の合計数。	PD (11,0)
SYDECD	10 進数データのカウント: 10 進数データ例外の合計数。	PD (11,0)
SYSEZC	占有カウント: 占有待機例外の合計数。	PD (11,0)
SYSZWT	ミリ秒単位の占有/待機時間。	PD (11,0)
SYSYNL	同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYASYL	非同期ロックの競合のカウント。	PD (11,0)
SYVFC	検査のカウント。	PD (11,0)
SYAUTH	🔗 オブジェクト権限検査。オブジェクトで権限が検査された回数。1 つのオブジェクトの権限検査の結果、キャッシュ付きまたはキャッシュなしのユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます (SYNUAL フィールドの説明を参照)。🔗	PD (11,0)
SYEXP	例外の合計数。	PD (11,0)
SYLRT1	最初の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries <sup>TM</sup> ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 1 の値より小さいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT2	2 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 2 の値より小さく、境界 1 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT3	3 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 3 の値より小さく、境界 2 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT4	4 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より小さく、境界 3 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SYLRT5	5 番目の応答時間モニター・ブラケット内のトランザクション: 応答時間が「iSeries ナビゲーター」インターフェース内の「収集サービスのプロパティ」ページから「拡張ローカル応答時間オプション (Advanced Local Response Time Options)」ダイアログで指定された境界 4 の値より大きいローカル・ワークステーション・トランザクションの合計数。	PD (9,0)
SHCPU	マイクロコード/システム・ジョブに使用された処理装置時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SMPLP	マシン・プール・ページング: マシン・プールの内外に転送されたページの数。	PD (11,0)
SMUPL	最高ユーザー・プール・ページング: ユーザー・プールの内外に転送されたページの最高数。	PD (11,0)
SUPLI	最高ページングのあったプール: 最高数のページが内外に転送されたプールの番号。	C (2)

フィールド名	説明	属性
SMXDU	▶▶ 最大ディスク使用率。すべての単一パス・ディスク装置およびすべてのマルチパス・ディスク装置の最大使用率。 ◀◀	PD (11,0)
SMXDUI	使用率が最大のアクチュエーター。	C (4)
SMMMT	すべての MRT 要求によって MRTMAX で費やされた時間 (秒)。	PD (11,0)
SMME	MRT に経路指定されたリクエストの数。	PD (11,0)
SYFOPN	システム全体での全オープンの回数。	PD (11,0)
SYIXRB	システム全体での索引再作成の回数。	PD (11,0)
SYJOXR	ユーザーによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXP	ユーザーによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIR	システムによって開始されたジャーナル開始操作の回数。	PD (11,0)
SYJOIP	システムによって開始されたジャーナル停止操作の回数。	PD (11,0)
SYJOXD	ユーザーがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOID	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果のジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOJP	システムがジャーナル処理したオブジェクトの結果の、ユーザーが作成したジャーナルへのジャーナル保管。	PD (11,0)
SYJOBJ	ユーザーが作成したジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOB D	システム内部のジャーナルへのバンドル書き出し。	PD (11,0)
SYJOJY	システムによって現在ジャーナル処理されている公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOJN	現在ジャーナル処理されていない公開アクセス・パス。	PD (11,0)
SYJOSE	システムが見積もった公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYJORT	システム管理の公開アクセス・パス調整。	PD (11,0)
SYJOND	システムが見積もった、システムでジャーナル処理されている公開アクセス・パスがない場合の公開アクセス・パスの回復時間 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYHEAO	任意のテラスペース内にある 16 MB 境界の交差の数。テラスペースの EAO 例外も呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTS	余分な処理を必要とするスペース・アドレス計算 (テラスペースのアドレッシングではない) の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、スペース・オブジェクトの先頭ページ内や、マシンが位置合わせを選択しなかった関連スペース内になると、このように余分な処理が必要になる場合があります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYHFTH	余分な処理を必要とするテラスペース・アドレス計算の数。符号付きの値を減算または加算した結果が、テラスペースにある 16 MB 境界の直後のページ内になると、このように余分な処理が必要になります。偽のトラップも呼び出されます。	PD (11,0)
SYSDBC	データベース CPU 時間。データベース処理に使用されている CPU 時間の総計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYSSWC	2 次ワークロードの CPU 時間。専用サーバーのリソースを十分に利用できないワークロードを実行しているすべてのジョブにかかる CPU 時間の総計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYJOER	要求された SMAPP 評価の数。このカウントは、明示的にジャーナル処理されたオブジェクトが、可能性がある SMAPP 適格変更について調べられた回数を示します。この評価は以下の 3 つの結果のいずれか 1 つになります。 1 - アクションなし。 2 - SMAPP によりこの索引の保護を開始する。 3 - SMAPP によるこの索引の保護を終了する。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
SYJOES	保守された SMAPP 評価の数。これは、関連した索引の保護状態の変更を決定する評価の数です。	PD (11,0)
SYJOIB	SMAPP 索引作成時間見積りの数。バックグラウンド SLIC タスクが、データベース・キー付き論理ファイルまたは SQL 索引を、索引を最初から再作成するためにかかる時間を見積もるために参照するように求められた回数。再作成にかかる時間が長いと見積もられるものは SMAPP を実行されます。この回数が大きいことは、アプリケーションがファイルを頻繁にオープンまたはクローズしていることを示します。	PD (11,0)
SYJOS1	最初のジャーナル・エントリー・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エントリー・タイプの中の最も頻繁に発生したものを報告します。このエントリー・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC1 に報告されます。	C (2)
SYJOC1	フィールド SYJOS1 で報告されたジャーナル・エントリー・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)
SYJOS2	2 番目のジャーナル・エントリー・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エントリー・タイプの中の 2 番目に最も頻繁に発生したものを報告します。このエントリー・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC2 に報告されます。	C (2)
SYJOC2	フィールド SYJOS2 で報告されたジャーナル・エントリー・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)
SYJOS3	3 番目のジャーナル・エントリー・タイプ。このフィールドは、ジャーナル・コードの SLIC 層がジャーナル・キャッシュを予定より早く空にした原因となった、さまざまなジャーナル・エントリー・タイプの中の 3 番目に最も頻繁に発生したものを報告します。このエントリー・タイプによって強制されたバンドルの数は、フィールド SYJOC3 に報告されます。	C (2)
SYJOC3	フィールド SYJOS3 で報告されたジャーナル・エントリー・タイプによって、予定より早く強制されたジャーナル・バンドルの数。	PD (15,0)
SYSDNFE	書き込まれたが、永続記憶域には強制されていないストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDNFO	ターゲット露出時間を超過して現在露出されているストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDTET	露出時間 (ミリ秒単位)。ストリーム・ファイルが書き込まれてから、ファイルが永続記憶域に強制されるまでの時間 (ミリ秒単位)。この時間は、間隔中に公開されていたすべてのファイルについての合計です。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
SYSDNST	ストリーム・ファイルを永続記憶域に強制している、実行しているタスクの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
SYSDFAL	露出しており、強制する必要があるストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDFRL	非同期で永続記憶域に強制されているストリーム・ファイルの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYSDPFD	非同期で永続記憶域に強制されているストリーム・ファイル・ページの数。このカウントには、fsync 操作によって強制されたページは含まれません。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
SYSDPFF	fsync 操作の結果として永続記憶域に明示的に強制されたストリーム・ファイル・ページの数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (15,0)
SYBTAC	実行された非同期消去操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAP	実行された非同期事前実行操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPP	実行された並列事前実行操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPC	実行された非同期作成操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYBTAPD	実行された非同期削除操作の数。このカウントには、ルート、QOpenSys、QDLS、QOPT (Universal Disk Format (UDS) でフォーマットされていないボリュームにファイルが保管されている場合)、およびユーザー定義のファイル・システム内のファイルが含まれます。	PD (11,0)
SYLPTB	LPAR 時間基準。このフィールドは、単一システムの異なる区画上のシステム・クロック間の相違を判別する方法を提供します。このフィールドは、スタンドアロン・ベースで参照する場合は意味がありません。ただし、この値がシステムの 2 つ (またはそれ以上) の区画で設定されている場合、それらの値の相違は、その 2 つの区画間の時間差 (秒単位) です。	B (11,0)
SYNUAL	キャッシュなしユーザー権限探索。キャッシュなしユーザー権限探索が実行された回数。1 つのオブジェクトの権限検査の結果、ユーザー権限探索が 0 回、1 回、または複数回行われます。ユーザー権限探索は、ユーザー、ユーザーのグループ、または借用ユーザーについて行われ、キャッシュ付きでもキャッシュなしでも構いません。	PD (15,0)



フィールド名	説明	属性
SYIFUS	使用される対話型 CPU 時間。使用された対話型 CPU 時間の合計 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTE	しきい値を超えて使用される対話型 CPU 時間。対話型 CPU しきい値を超えて使用された対話型 CPU 時間 (ミリ秒)。	PD (9,0)
SYIFTA	使用可能な対話型 CPU 時間。区画内で使用可能だった対話式 CPU 時間の長さ。これは、区画内で使用するために構成された対話式キャパシティーです (対話式しきい値としても表示される)。	PD (11,0)
SYSPTU	使用された CPU 時間。区画に使用された処理時間の合計 (ミリ秒)。	PD (11,0)
SYSCTA	区画に構成されている合計 CPU 時間。この区画用に構成されている、またはこの区画で保証されている合計処理時間 (ミリ秒単位)。これは間隔内で処理装置割り振りによって決定される、システム処理キャパシティーです。注: 上限なしの区画の場合、実際に使用される CPU はこの値を超えても構いません。	PD (11,0)
SYSUTA	この区画により使用可能だった CPU 時間。この区画により使用可能だった合計処理時間 (ミリ秒単位) (時間外の構成変更用に調整)。保証された構成済みキャパシティーと、他の区画に使用されていなかった共用プール時間の両方が含まれます。上限あり、および、専用区画の場合、または共用プール・データが使用できない場合、これは構成済みの上限なし CPU 時間と同じです。	PD (11,0)
SYSUTC	構成済みの上限なしの CPU 時間。この区画が共用プール内での使用のために構成 (許可) される CPU 時間の最大量 (時間外の構成変更用に調整)。このフィールドは、最小限に構成された仮想プロセッサ、および構成された共用プール・プロセッサを定義します。上限あり、および、専用区画の場合、これは構成されている合計 CPU 時間と同じです。	PD (11,0)
SYSPLU	使用された共用プール CPU 時間。プールを共用するすべての区画が、共用プール内で使用する CPU の合計。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYSPLA	使用可能な共用プール CPU 時間。共用プール内で使用可能な CPU の合計時間。この値は、プールに割り振られる物理プロセッサの数に基づいて決定されます。共用プールが使用されない場合、またはデータが使用できない場合はゼロに設定されます。	PD (11,0)
SYJDUM	予約済み	PD (1,0)
SYJDDM	予約済み	C (3)
SYJCA4	予約済み	C (3)
SYJPAS	予約済み	C (3)
SYJMRT	予約済み	C (3)
SYJS6E	予約済み	C (3)
SYJCME	予約済み	C (3)
SYJAUT	予約済み	C (3)
SYJBCH	予約済み	C (3)
SYJINT	予約済み	C (3)
SYJSPL	予約済み	C (3)



## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCP

このファイルには、システム全体の TCP/IP データが入ります。収集間隔ごとに 1 つのレコードが存在します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

注: TCP/IP パフォーマンス・データには、Internet Protocol version 6 (IPv6) のデータは含まれていません。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) および時刻 (hhmmss)。サンプル間隔の日付および時刻。	C (12)
INTSEC	このサンプル間隔で TCP/IP が活動状態であった秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
TCDIRV	インターフェースから受信した入力データグラムの数 (エラーで受信したものも含む)。	PD (15,0)
TCDIHE	IP ヘッダーのエラーが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIAE	IP ヘッダーの無効なアドレスが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIUP	不明またはサポートされないプロトコルが原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIDS	その他の問題 (例: バッファ・スペースの不足) が原因で破棄された入力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDIFW	転送されたデータグラムの数。ソース経路からこのシステムまでを含む。	PD (15,0)
TCDIDL	IP ユーザー・プロトコルに正常に送達された入力データグラムの数 (ICMP を含む)。	PD (15,0)
TCDOTR	IP ユーザー・プロトコルが送信用に提供したデータグラムの数 (ICMP を含む)。	PD (15,0)
TCDONR	宛先に送信するための経路を検出できなかったために破棄された出力データグラムの数。	PD (11,0)
TCDODS	その他の問題 (例: バッファ・スペースの不足) が原因で破棄された出力データグラムの数。	PD (11,0)
TCASMR	再組み立てが必要な、受信された IP 断片の数。	PD (15,0)
TCASMS	正常に再組み立てされたデータグラムの数。	PD (15,0)
TCASMF	再組み立てアルゴリズムによって検出された失敗の数。	PD (11,0)
TCFRGS	正常にフラグメント化されたデータグラムの数。	PD (15,0)
TCFRGF	フラグメント化失敗の数。	PD (11,0)
TCFRGN	生成されたデータグラム・フラグメントの数。	PD (15,0)
TCAOPN	CLOSED 状態から SYN-SENT 状態に遷移された TCP 接続の回数。	PD (11,0)
TCPOPEN	LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に遷移された TCP 接続の回数。	PD (11,0)
TCFOPN	失敗した TCP 接続確立試行の回数。	PD (11,0)
TCCRST	TCP 接続がリセットされた回数。	PD (11,0)
TCSGRV	受信された TCP セグメントの数。	PD (15,0)
TCSGTR	送信された TCP セグメントの数。	PD (15,0)

フィールド名	説明	属性
TCSGRT	再送された TCP セグメントの数。	PD (11,0)
TCSGER	エラーで受信された TCP セグメントの数。	PD (11,0)
TCUDRV	UDP ユーザーに送達される UDP データグラムの数。	PD (15,0)
TCUDTR	送信された UDP データグラムの数。	PD (15,0)
TCUDNP	宛先ポート上にアプリケーションがない、受信された UDP データグラムの数。	PD (11,0)
TCUDER	その他の理由で送達できなかった、受信された UDP データグラムの数。	PD (11,0)
TCICRV	受信された ICMP メッセージの数。	PD (15,0)
TCICTR	送信が試行された ICMP メッセージの数。	PD (15,0)
TCICIE	ICMP 固有のエラーがあった、受信された ICMP メッセージの数。	PD (11,0)
TCICOE	ICMP 固有の問題によって送信されなかった ICMP メッセージの数。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMTCPIFC

このファイルには、個別の TCP/IP インターフェースに関連付けられている TCP/IP データが入ります。それぞれの収集間隔の TCP/IP インターフェースごとに 1 つのレコードが存在します。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリーとファイルの関係』』を参照してください。

注: TCP/IP パフォーマンス・データには、Internet Protocol version 6 (IPv6) のデータは含まれていません。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymmdd) および時刻 (hhmmss)。サンプル間隔の日付および時刻。	C (12)
INTSEC	このサンプル間隔で TCP/IP インターフェースが活動状態であった秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁。	C (1)
TINUM	TCP/IP インターフェース番号。	PD (5,0)
TITYPE	TCP/IP インターフェース・タイプ。指定可能な TCP/IP インターフェース・タイプには、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 01 = その他</li> <li>• 05 = RFC877 X25</li> <li>• 06 = イーサネット CSMACD</li> <li>• 07 = ISO88023 CSMACD</li> <li>• 09 = ISO88025 トークンリング</li> <li>• 15 = FDDI</li> <li>• 23 = PPP</li> <li>• 24 = ソフトウェア・ループバック</li> <li>• 28 = SLIP</li> <li>• 32 = フレーム・リレー</li> </ul> <p>これはリストの一部です。リスト全体については、RFC 1213 を参照してください。</p>	PD (5,0)

フィールド名	説明	属性
TILIND	回線記述オブジェクト名。	C (10)
TISTAT	インターフェース状況。 指定可能な値には、次のものがあります。 • 1 - アクティブ • 2 - 非アクティブ • 3 - テスト	PD (3,0)
TIMTU	インターフェースの MTU サイズ。	PD (5,0)
TIBIRV	インターフェース上で受信したバイトの数。	PD (15,0)
TIPIUC	受信されたユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPINU	受信された非ユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPIER	エラーが含まれるインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPIUP	プロトコル・エラーがあるインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPIDS	その他の理由 (例: バッファ・スペースの不足) で破棄されたインバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIBOTR	インターフェースから送信されたバイトの数。	PD (15,0)
TIPOUC	送信が要求されたユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPONU	送信が要求された非ユニキャスト・パケットの数。	PD (15,0)
TIPOER	エラーが原因で送信できなかったアウトバウンド・パケットの数。	PD (11,0)
TIPODS	その他の理由 (例: バッファ・スペースの不足) で破棄されたアウトバウンド・パケットの数。	PD (11,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMUSRTNS

この表では、ユーザー定義のトランザクション・データ・ファイル・レコード内のフィールドを定義しています。間隔中の特定のジョブに対して発生したトランザクションのそれぞれのタイプに対して、1 つのレコードが作成されます。収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFRTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yyymmdd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
DTECEN	世紀桁: 0 は 19XX を示し、1 は 20XX を示します。	C (1)
UTNAM	ジョブ名。	C (10)
UTUSR	ジョブのユーザー。	C (10)
UTNUM	ジョブ番号。	C(6)

フィールド名	説明	属性
UTTYP	トランザクション・タイプ。このジョブについてこのレコードで報告されたユーザー定義トランザクションのタイプ。このトランザクション・タイプの値は、トランザクションの開始 API とトランザクションの終了 API に渡されたアプリケーション ID パラメーターと同じです。収集サービスは、このジョブについて 15 を超えるトランザクション・タイプを検出する場合、すべての追加のトランザクション・タイプのトランザクション・データを、トランザクション・タイプ *OTHER に結合します。	C (20)
UTTIM	このジョブのこのタイプのすべてのトランザクションによって使用される合計時間 (マイクロ秒単位)。	B (18,0)
UTNUMT	このジョブのこのタイプのトランザクションの合計数。これはトランザクションの終了 API の呼び出しの数を表します。	B (9,0)
UTSTR	このトランザクション・タイプおよびジョブの、トランザクションの開始 API の呼び出しの数。	B (9,0)
UTBAD	誤ったトランザクションの開始時刻を渡した、このトランザクション・タイプおよびジョブの、トランザクションの終了 API の呼び出しの数。これはさまざまな理由で発生する可能性があります。たとえば、開始時刻がゼロである、開始時刻が終了時刻よりも後である、開始時刻がジョブ開始時刻よりも前である、などです。	B (9,0)
UTNUMC	このトランザクション・タイプおよびジョブに関連付けられた、ユーザー指定のカウンターの数 (N)。これらのカウンターは、最初の N UTCTn フィールドに報告されます。ユーザー指定のカウンターがない場合、このフィールドはゼロです。	B (9,0)
UTCT1	ユーザー指定のカウンター 1。	B (18,0)
UTCT2	ユーザー指定のカウンター 2。	B (18,0)
UTCT3	ユーザー指定のカウンター 3。	B (18,0)
UTCT4	ユーザー指定のカウンター 4。	B (18,0)
UTCT5	ユーザー指定のカウンター 5。	B (18,0)
UTCT6	ユーザー指定のカウンター 6。	B (18,0)
UTCT7	ユーザー指定のカウンター 7。	B (18,0)
UTCT8	ユーザー指定のカウンター 8。	B (18,0)
UTCT9	ユーザー指定のカウンター 9。	B (18,0)
UTCT10	ユーザー指定のカウンター 10。	B (18,0)
UTCT11	ユーザー指定のカウンター 11。	B (18,0)
UTCT12	ユーザー指定のカウンター 12。	B (18,0)
UTCT13	ユーザー指定のカウンター 13。	B (18,0)
UTCT14	ユーザー指定のカウンター 14。	B (18,0)
UTCT15	ユーザー指定のカウンター 15。	B (18,0)
UTCT16	ユーザー指定のカウンター 16。	B (18,0)

## パフォーマンス・データ・ファイル: QAPMX25

このデータには、X.25 ファイル項目が含まれており、X.25 ファイル内のフィールドをリストしています。フィールド名のラベル指定は以下のとおりです。

- ラベルの XH 接頭部は HDLC カウンターを示します。
- XL は X.25 論理リンク制御 (LLC) カウンターを示します。
- XP はパケット・レベル制御 (PLC) カウンターを示します。

収集サービスがこのファイルを作成する方法、およびデータが収集される元の場所については、『6 ページの『パフォーマンス・データ・ファイル: 収集サービス・システム・カテゴリとファイルの関係』』を参照してください。

フィールド名	説明	属性
INTNUM	間隔番号: パフォーマンス・データの作成 (CRTPFDRDTA) コマンドで指定された開始時刻に基づく n 番目のサンプル・データベース間隔。	PD (5,0)
DTETIM	間隔日付 (yymddd) と時刻 (hhmmss): サンプル間隔の日付と時刻。	C (12)
INTSEC	経過間隔秒数: 最後のサンプル間隔からの秒数。	PD (7,0)
IOPRN	IOP 資源名。	C (10)
XIOPID	予約済み	C (1)
XITYPE	このレコードに表示されている IOP またはアダプターの資源タイプ。	C (4)
XLLND	回線記述: この回線の記述の名前。	C (10)
XLLSP	回線速度: この回線のビット/秒 (bps) 速度。	PD (11,0)
XHBTRN	送信済みバイト数: 再送信されたバイト数を含む、送信されたバイト数。	PD (11,0)
XHBRCV	受信済みバイト: エラーのあるフレーム内のすべてのバイトも含めた、受信済みバイトの数。	PD (11,0)
XHPRCL	プロトコル・タイプ: X (X.25 用)	C (1)
XHFTRN	送信済みフレーム: 再送信されたフレームを除外した、送信済みフレーム (I フレーム、監視フレーム、番号のないフレーム) の数。	PD (11,0)
XHIFTR	送信済み I フレーム: 再送信された I フレームを除外した、送信済み I フレームの数。	PD (11,0)
XHIFRT	再送信済み I フレーム: 再送信された I フレームの数。	PD (11,0)
XHFRT	再送信済みフレーム: 再送信された、I フレームと監視フレームと番号のないフレームの数。	PD (11,0)
XHEFFR	エラー・フリーの受信フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしのフレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
XHEFIR	エラー・フリーの受信 I フレーム数: エラー・フリーで受信された I フレームの数 (これらがリモート側から再送信されているかどうかにはかかわらない)。	PD (11,0)
XHFRIE	エラーの受信フレーム数: エラーで受信された I フレームと監視フレームと番号なしフレームの数。次の 3 つのエラーの可能性あります: (1) 監視フレームまたは I フレームが、フレームの再送信を要求する Nr カウントで受信された。(2) I フレームが、フレームが欠落したことを示す Ns カウントで受信された。(3) フレームが、検査シーケンス・エラー、異常終了、受信オーバーラン、フレーム切り捨てエラーのいずれかのエラーで受信された。	PD (11,0)

フィールド名	説明	属性
XHIFR	受信された無効フレーム: 受信された無効フレームの数。これらは次のような状況で受信されたフレームです: (1) 短フレーム・エラーのフレームが 32 ビット未満だった。(2) 残りのエラー・フレームはバイト境界上にない。	PD (11,0)
XHRRFT	送信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
XHRRFR	受信された受信可監視フレームの数。	PD (11,0)
XHRNRT	送信された受信不可監視のフレームの数。	PD (11,0)
XHRNRR	受信された受信不可監視のフレームの数。	PD (11,0)
XHLNKR	リンク・リセット: 端末が既に正規応答モードにあるときに、通常応答モード設定 (SNRM)が受信された回数。	PD (11,0)
XLITR	送信されたインターフェース・プロトコル・データ単位 (LLC レベル)。	PD (11,0)
XLIRC	受信されたインターフェース・プロトコル・データ単位。	PD (11,0)
XLIRT	再送信されたインターフェース・プロトコル・データ単位。	PD (11,0)
XLIRE	エラーで受信されたインターフェース・プロトコル・データ単位 (チェックサム)。	PD (11,0)
XLXTR	送信された XID フレームの数。	PD (11,0)
XLXRC	受信された XID の数。	PD (11,0)
XLTT	送信されたテストの数。	PD (11,0)
XLTR	受信されたテストの数。	PD (11,0)
XLLJT	送信された LLC 拒否の数。	PD (11,0)
XLLJR	受信された LLC 拒否の数。	PD (11,0)
XLRLD	破棄された受信 LLC プロトコル・データ単位の数。	PD (11,0)
XLTO	タイムアウトの数。	PD (11,0)
XLCED	検出されたチェックサム・エラー。	PD (11,0)
XLSRA	正常な回復試行。	PD (11,0)
XLRA	回復試行。	PD (11,0)
XLRSI	パケット・リンク制御からのリセット指示の数。	PD (11,0)
XLCLS	パケット・リンク制御からの端末クローズ指示の数。	PD (11,0)
XLRNR	受信された LLC 受信不可フレーム数。	PD (11,0)
XPTPT	送信されたパケットの合計。	PD (11,0)
XPTPR	受信されたパケットの合計。	PD (11,0)
XPDPPT	送信データ・パケット数。	PD (11,0)
XPDPDR	受信データ・パケット数。	PD (11,0)
XPRPT	送信リセット・パケット数。	PD (11,0)
XPROR	受信リセット・パケット数。	PD (11,0)
XPRNR	受信された受信不可パケット数。	PD (11,0)



---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

IBM、そのプログラム開発者、または供給者は、いかなる場合においてもその予見の有無を問わず、以下に対する責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (お客様の会社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。(C) Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX

AIX 5L

Domino

e(ロゴ)server

eServer

Operating System/400

OS/400

IBM

iSeries

pSeries

xSeries

Java<sup>TM</sup> およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux<sup>TM</sup> は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる情報につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

**個人使用:** この情報は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、この情報またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** この情報は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこの情報の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で情報またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

情報の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、この情報の内容についていかなる保証もしません。この情報は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、不侵害の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから情報をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。





Printed in Japan